

# 第3章

## アンケート調査結果の分析

### 1 男女平等意識について

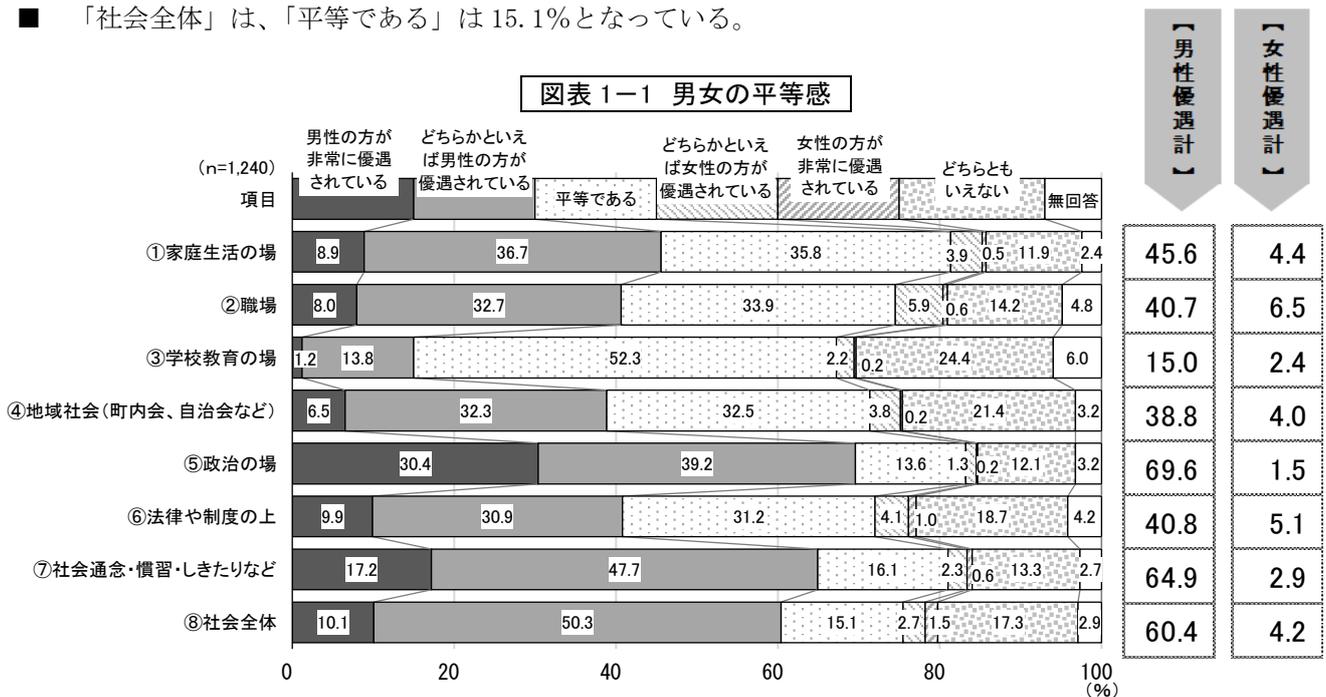
#### (1) 男女の平等感

あなたは、次の①～⑧にあげる分野で、男女は平等になっていると思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ)

**「社会全体」では、平等感を持つ人の割合は1割強**  
**「学校教育の場」では、平等感を持つ人が5割を超えている**

- 「平等である」は「学校教育の場」が52.3%と最も高く、「政治の場」が13.6%と最も低くなっている。
- 「学校教育の場」以外では、「平等である」よりも『男性優遇計（「男性の方が非常に優遇されている」及び「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計）』が高くなっている。
- 『男性優遇計』は「政治の場」が69.6%と最も高く、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」が64.9%、「社会全体」が60.4%となっている。
- 「社会全体」は、「平等である」は15.1%となっている。

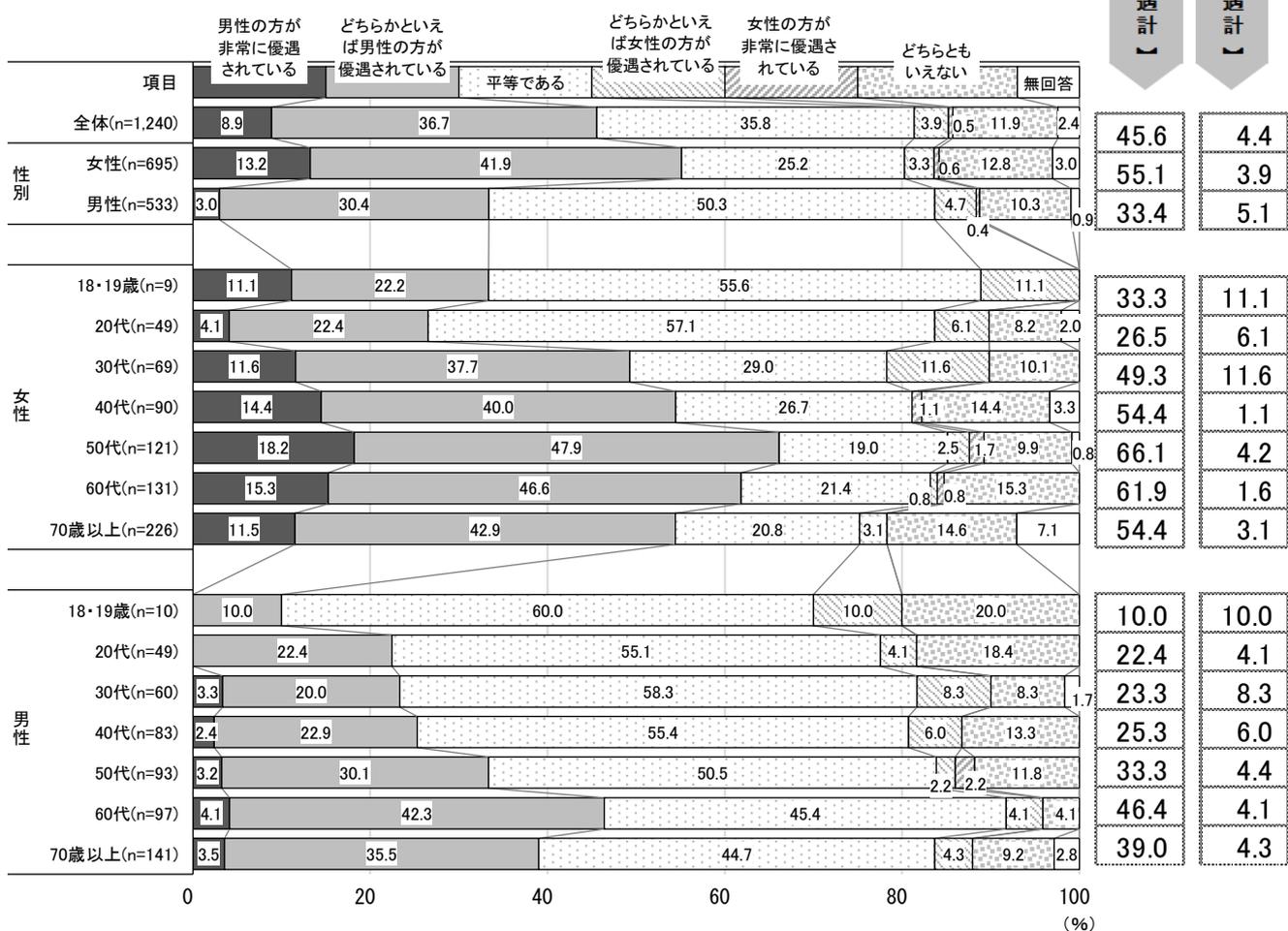


① 家庭生活の場

～男性優遇感を持つ人が全体の4割強  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感は上昇傾向

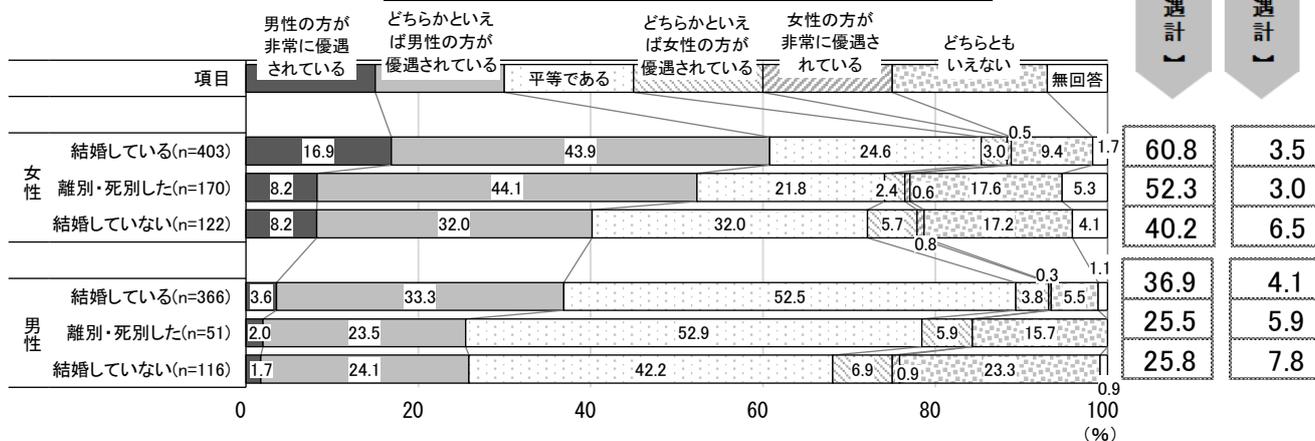
- 全体では、『男性優遇計』は45.6%、『女性優遇計』（「女性の方が非常に優遇されている」及び「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計）は4.4%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は女性が25.2%、男性が50.3%となっており、男性の方が25.1ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、40代から70歳以上女性で『男性優遇計』が50%を超えている。

図表1-①-1 家庭生活の場(性別・年齢別)



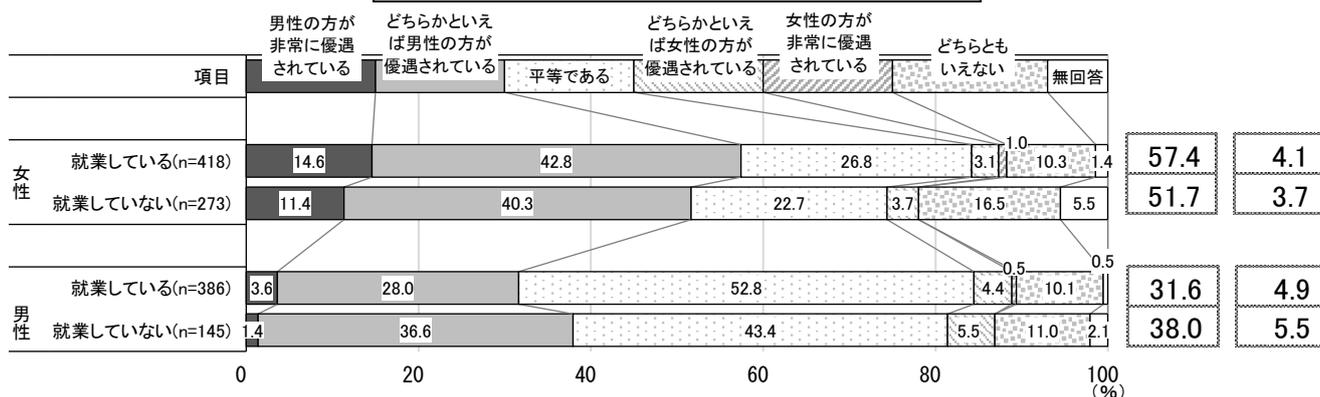
■ 性別・婚姻状況別でみると、『男性優遇計』は結婚している人（女性 60.8%、男性 36.9%）の方が結婚していない人（女性 40.2%、男性 25.8%）より男女とも高くなっている。

図表 1-①-2 家庭生活の場(性別・婚姻状況別)



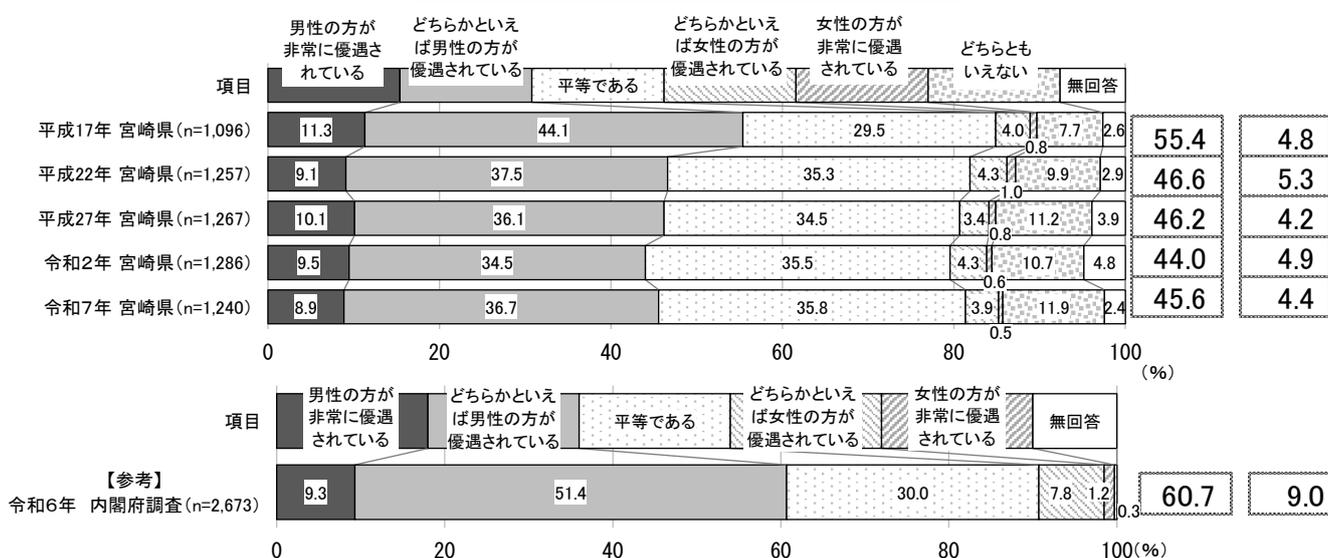
■ 性別・就業状況別でみると、「平等である」は就業している人（女性 26.8%、男性 52.8%）の方が就業していない人（女性 22.7%、男性 43.4%）より男女とも高くなっている。

図表 1-①-3 家庭生活の場(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年では 29.5%であったが、22 年調査では 35.3%、27 年調査では 34.5%、令和 2 年調査では 35.5%と推移しており、今回調査では 35.8%となっている。

図表 1-①-4 家庭生活の場(時系列比較)

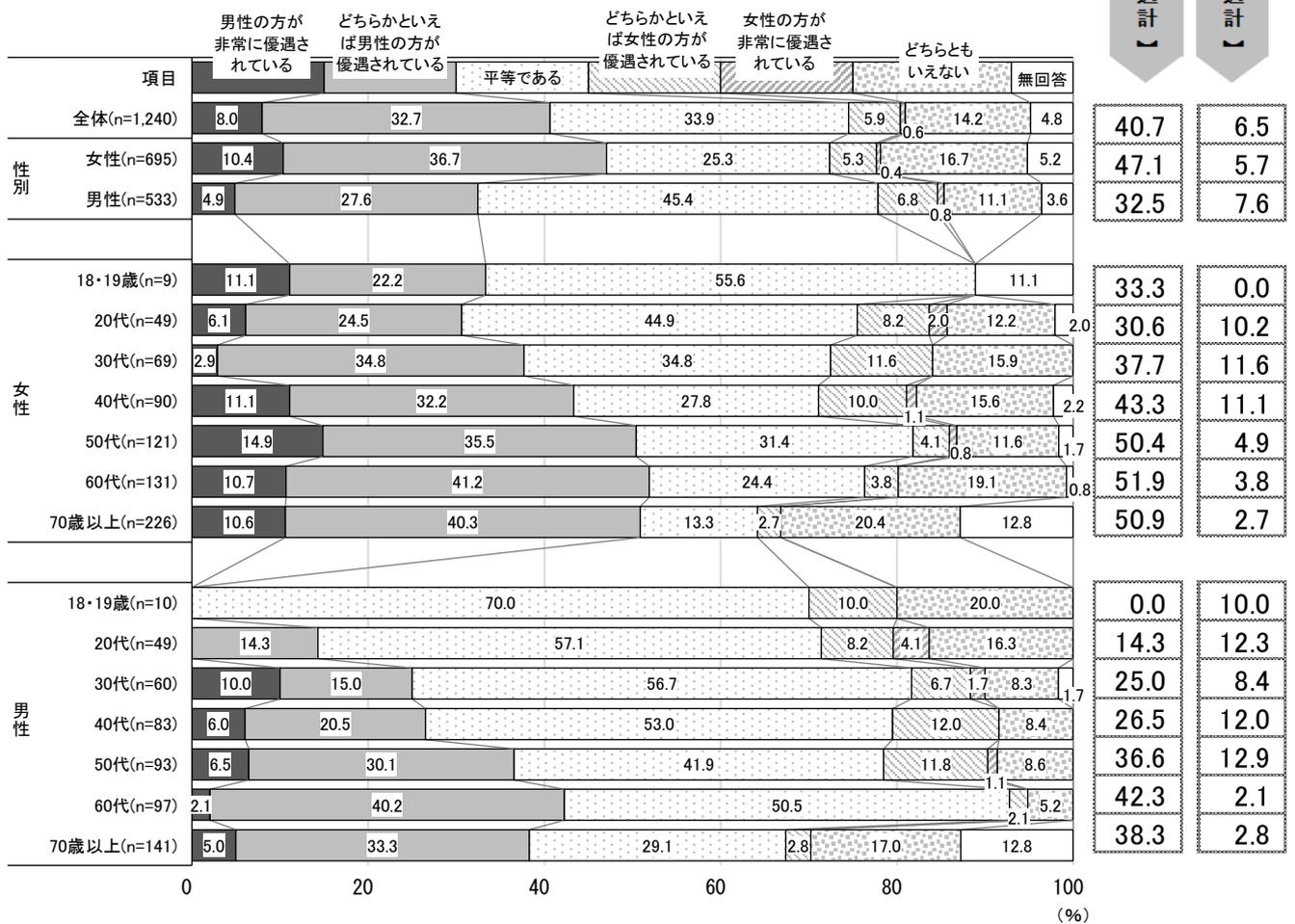


② 職場

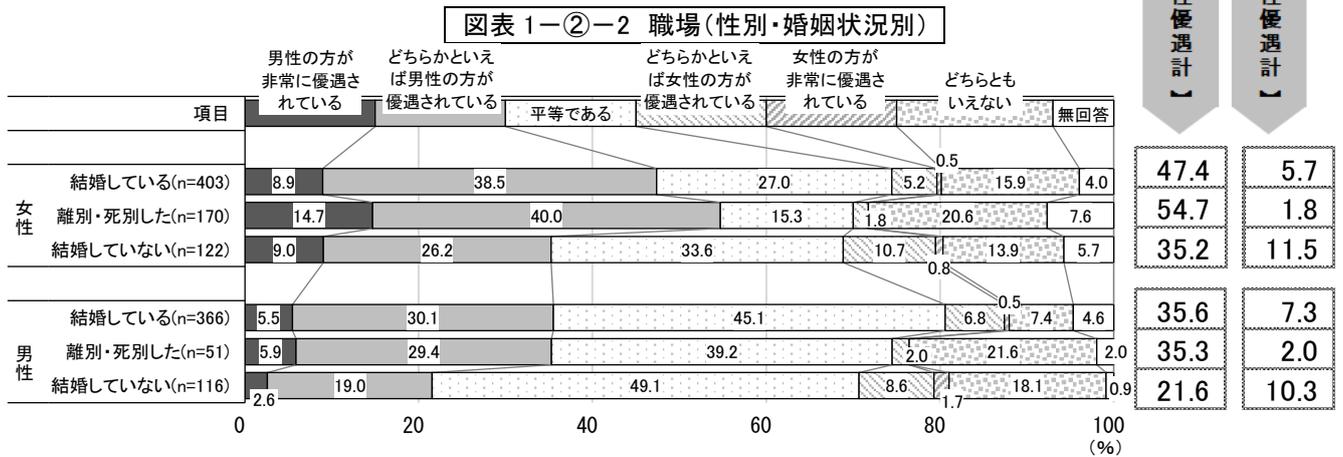
～男性優遇感を持つ人が全体の4割  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感は上昇傾向

- 全体では、『男性優遇計』は40.7%、「平等である」は33.9%、『女性優遇計』は6.5%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は女性が25.3%、男性が45.4%となっており、男性の方が20.1ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、50代以上女性で『男性優遇計』が50%を超えている。

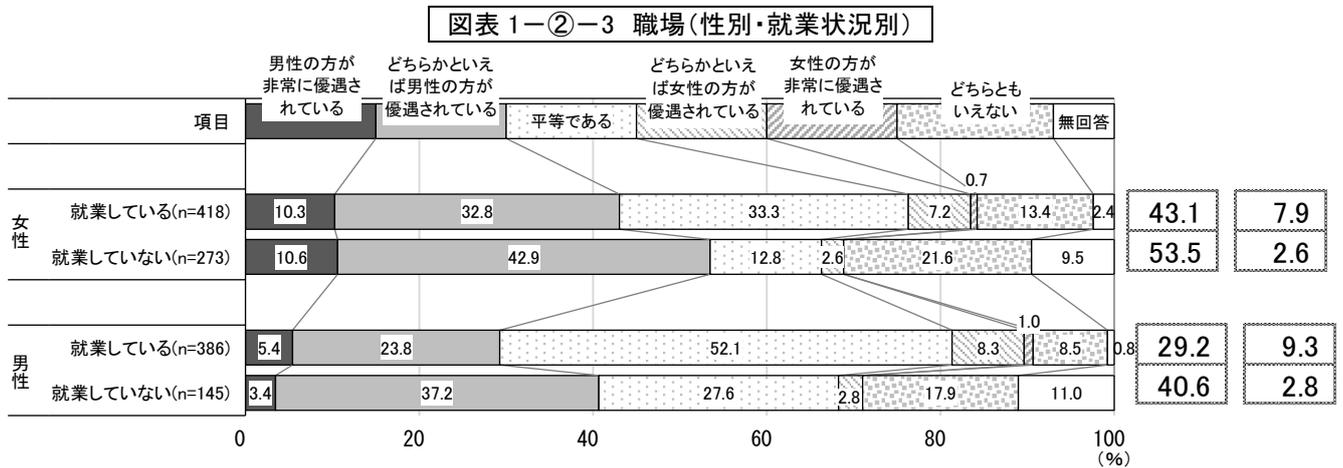
図表 1-②-1 職場(性別・年齢別)



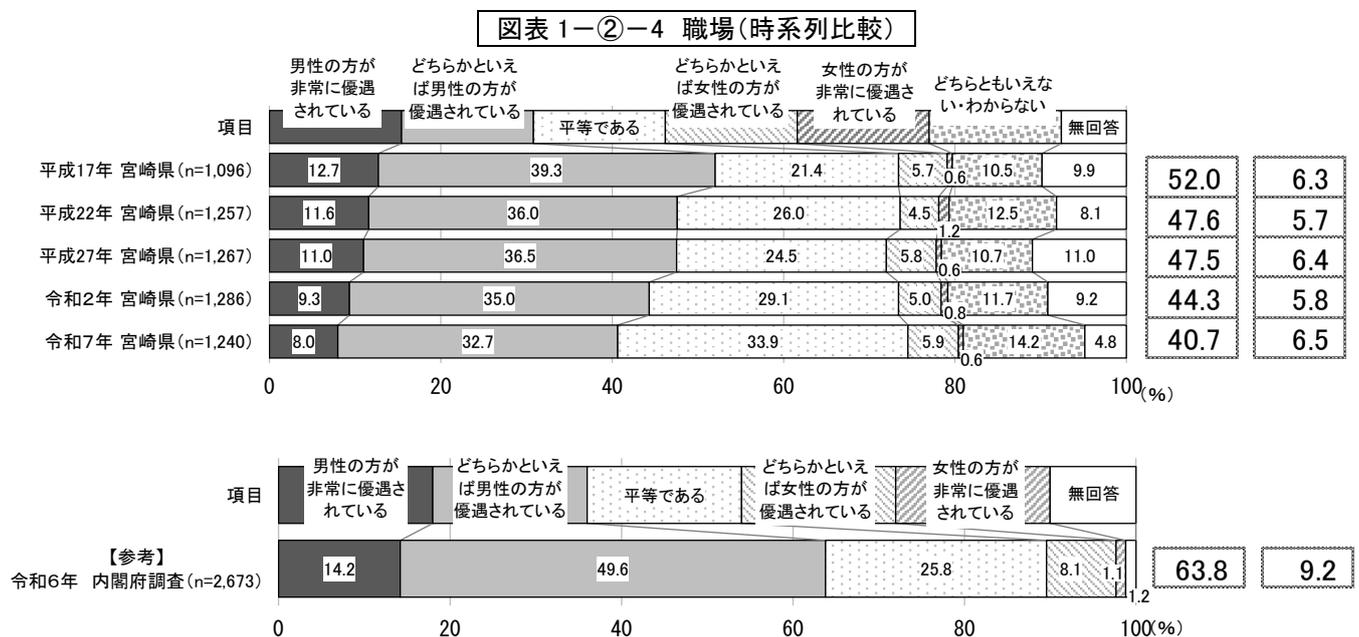
■ 性別・婚姻状況別でみると、『男性優遇計』は、結婚している人（女性 47.4%、男性 35.6%）の方が結婚していない人（女性 35.2%、男性 21.6%）より男女ともに高くなっている。



■ 性別・就業状況別でみると、「平等である」は、就業している人（女性 33.3%、男性 52.1%）の方が就業していない人（女性 12.8%、男性 27.6%）より男女とも高くなっている。



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 21.4%であったが、22 年調査では 26.0%、27 年調査では 24.5%、令和 2 年調査では 29.1%と推移しており、今回調査では 33.9%となっている。

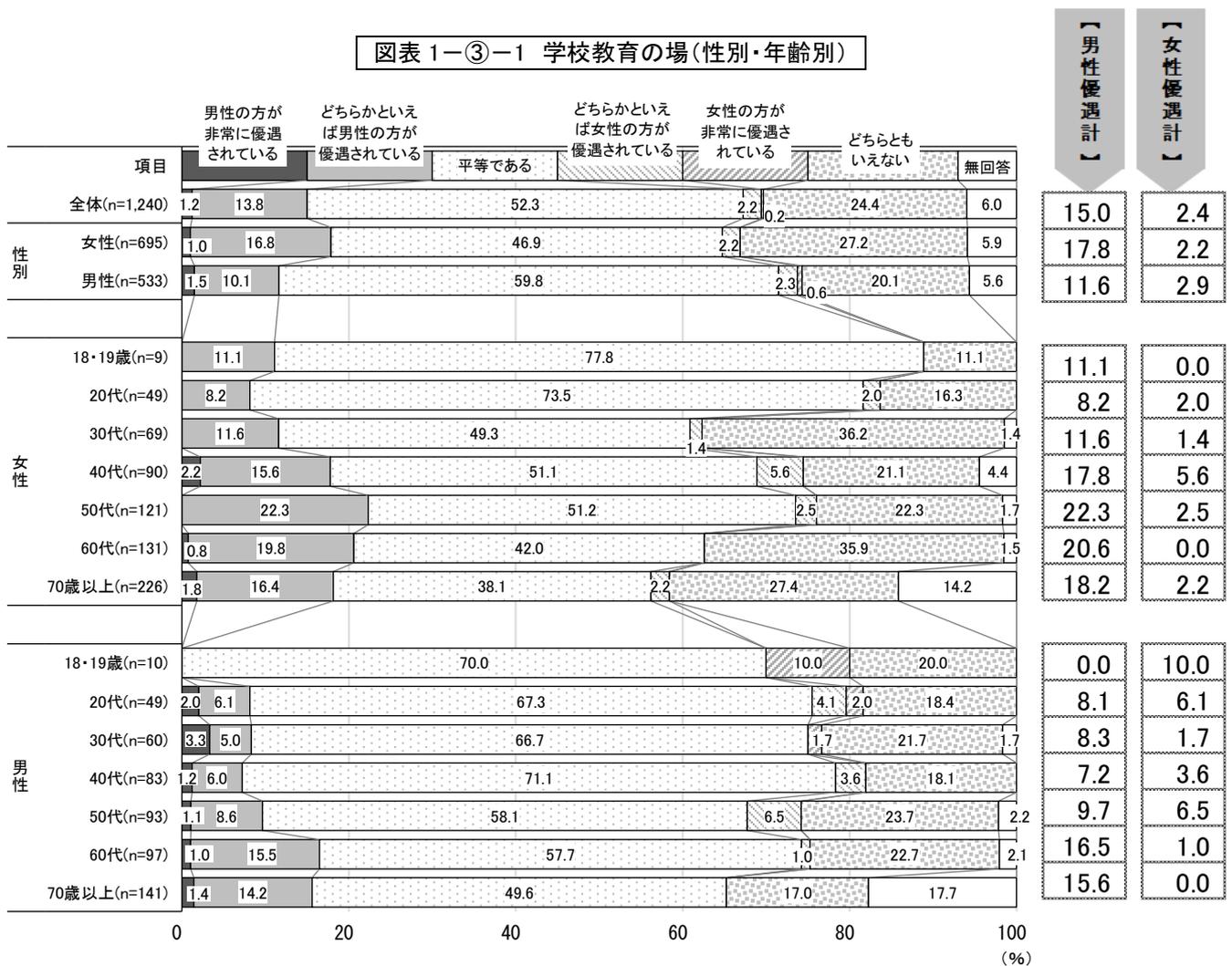


### ③ 学校教育の場

～男性優遇感を持つ人が全体の1割強  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感は低下傾向

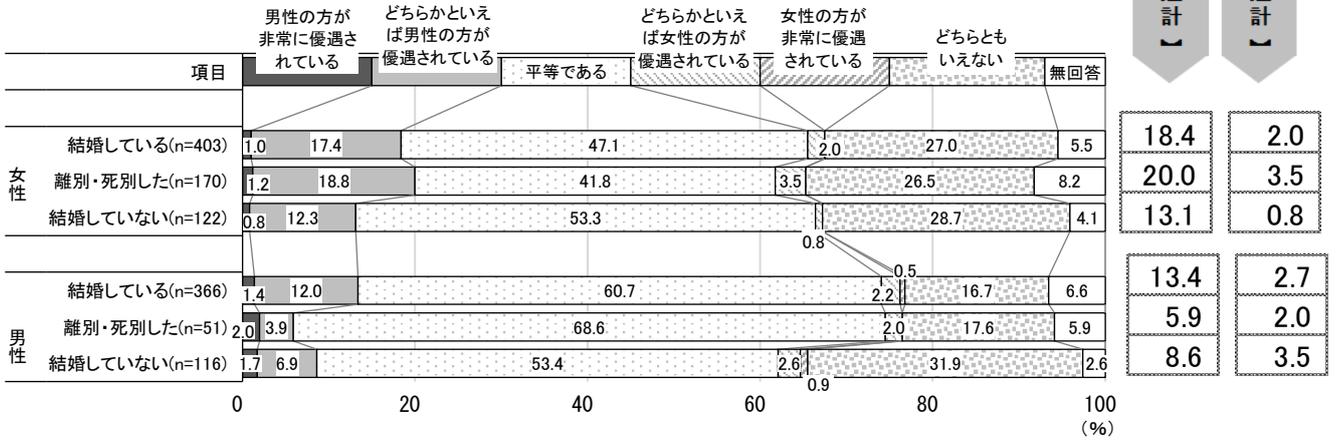
- 全体では、『男性優遇計』が15.0%、「平等である」が52.3%、『女性優遇計』が2.4%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は、女性が46.9%、男性が59.8%となっており、男性の方が12.9ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、30代、60歳以上女性と70歳以上男性を除いた全ての年代で「平等である」は50%を超えている。男女ともに70歳以上（女性38.1%、男性49.6%）が他の年代より低くなっている。

図表1-③-1 学校教育の場(性別・年齢別)



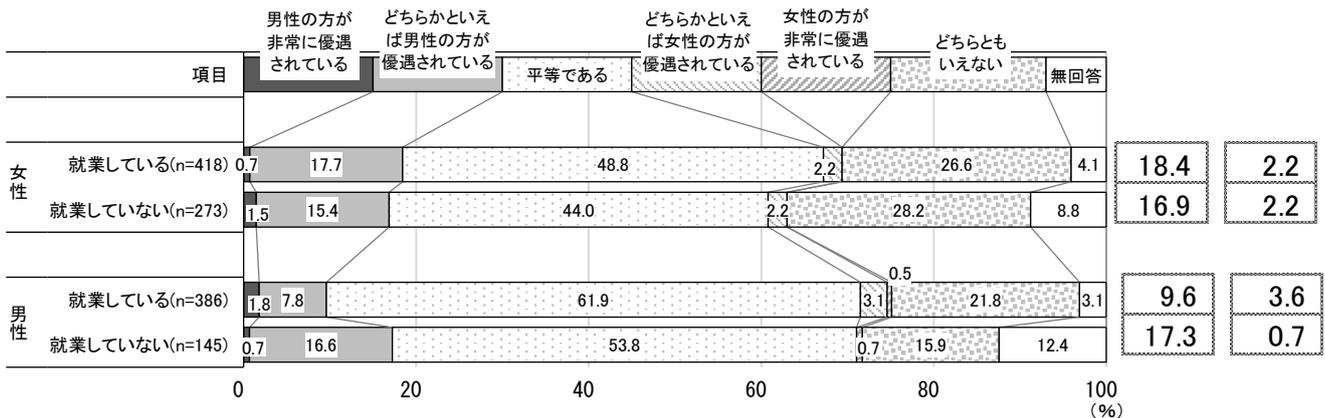
■ 性別・婚姻状況別で見ると、『男性優遇計』は、結婚している人（女性 18.4%、男性 13.4%）の方が結婚していない人（女性 13.1%、男性 8.6%）より男女とも高くなっている。

図表 1-③-2 学校教育の場(性別・婚姻状況別)



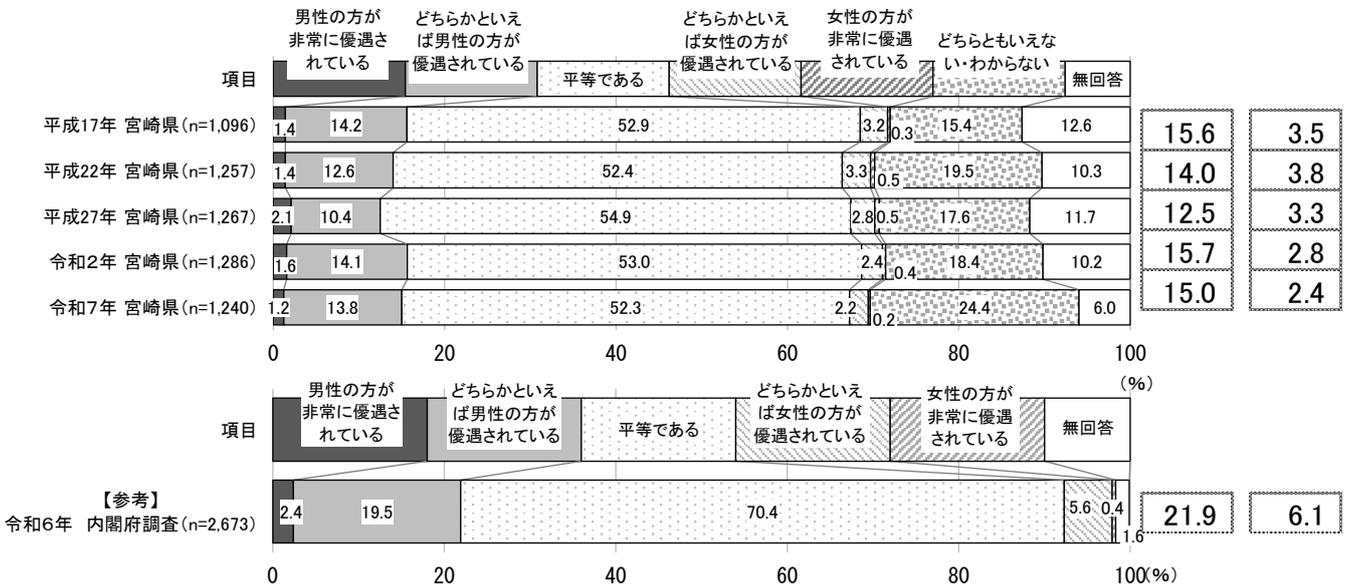
■ 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は就業してる人（女性 48.8%、男性 61.9%）の方が就業していない人（女性 44.0%、男性 53.8%）よりも男女とも高くなっている。

図表 1-③-3 学校教育の場(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 52.9%であったが、22 年調査では 52.4%、27 年調査では 54.9%、令和 2 年調査では 53.0%となっており、今回調査では 52.3%となっている。

図表 1-③-4 学校教育の場(時系列比較)

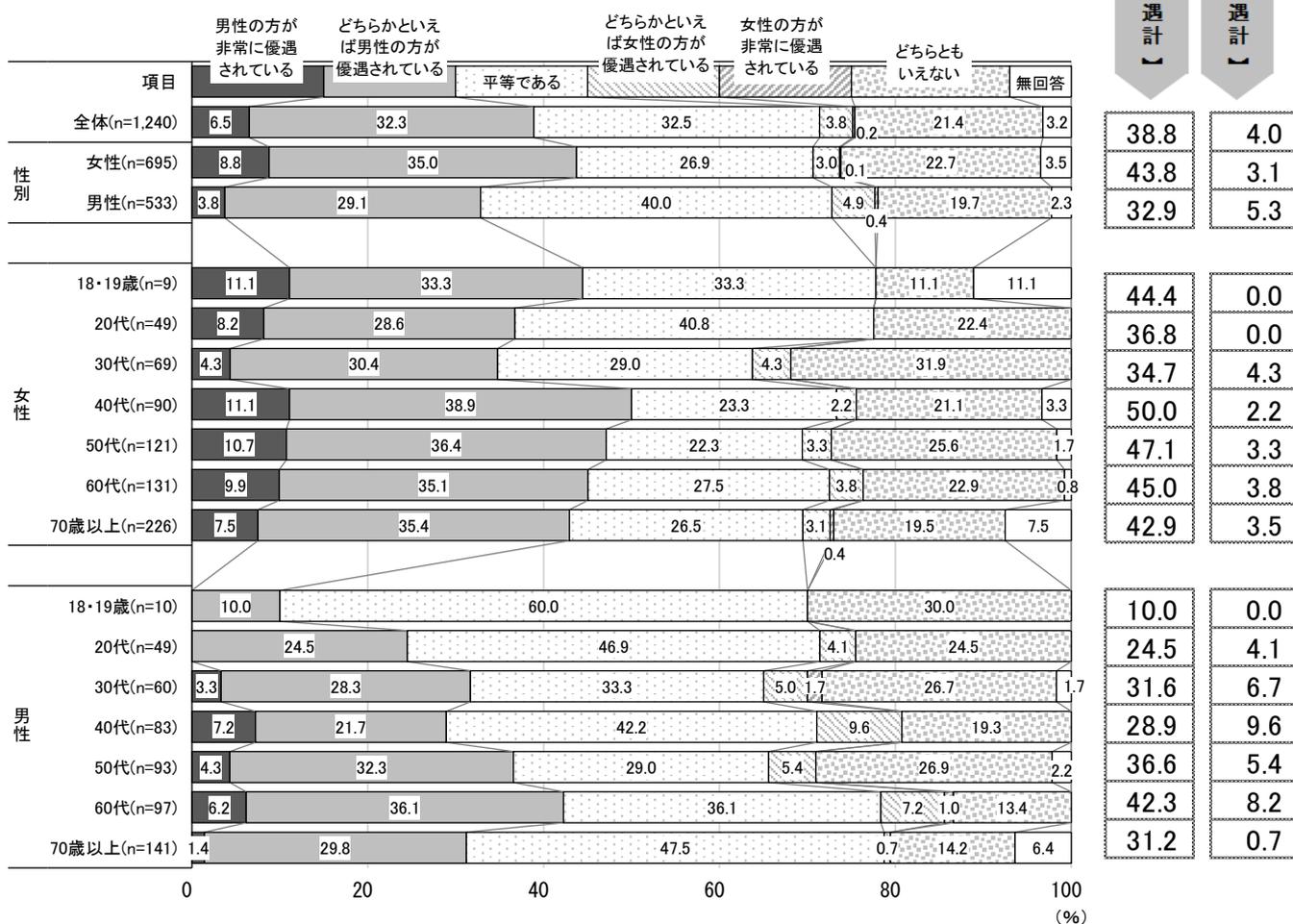


④ 地域社会（町内会、自治会など）

～男性優遇感を持つ人が全体の4割弱  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感はほぼ変化なし

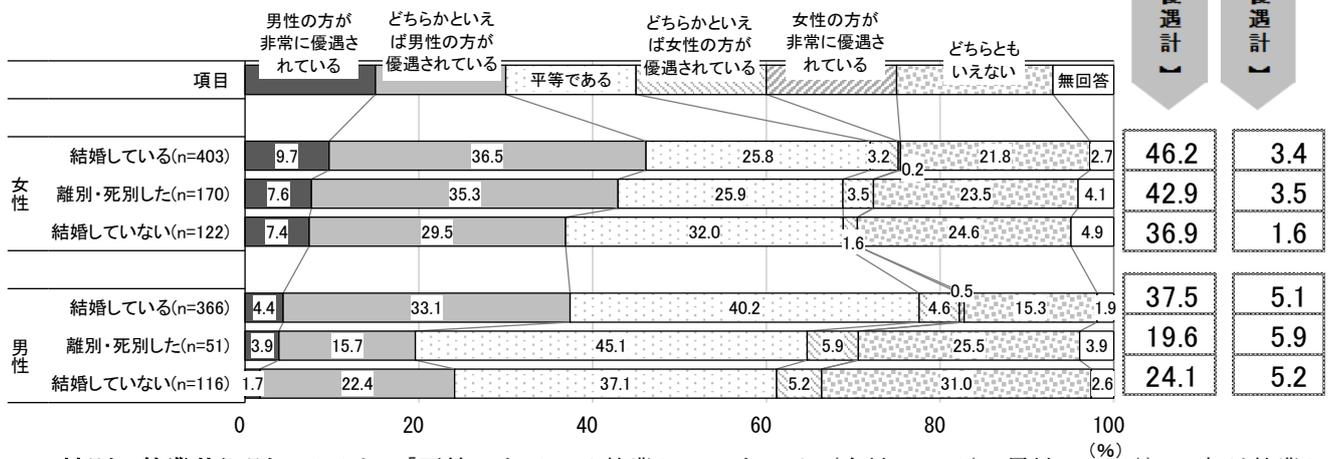
- 全体では、『男性優遇計』は38.8%、「平等である」は32.5%、『女性優遇計』は4.0%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は女性が26.9%、男性が40.0%となっており、男性の方が13.1ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、40代女性で『男性優遇計』が50.0%となっている。

図表1-④-1 地域社会(性別・年齢別)



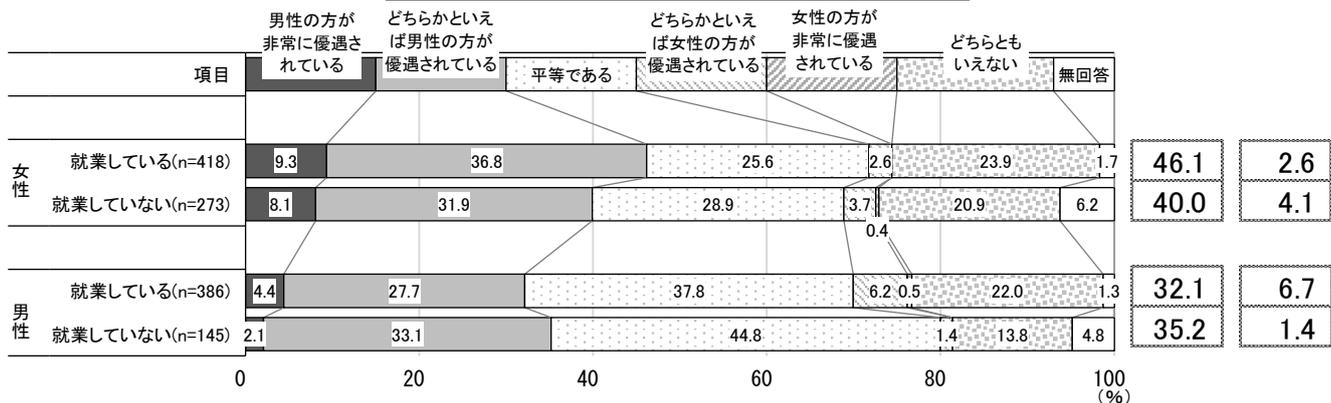
■ 性別・婚姻状況別でみると、『男性優遇計』は結婚している人（女性 46.2%、男性 37.5%）の方が結婚していない人（女性 36.9%、男性 24.1%）より男女とも高くなっている。

図表 1-④-2 地域社会(性別・婚姻状況別)



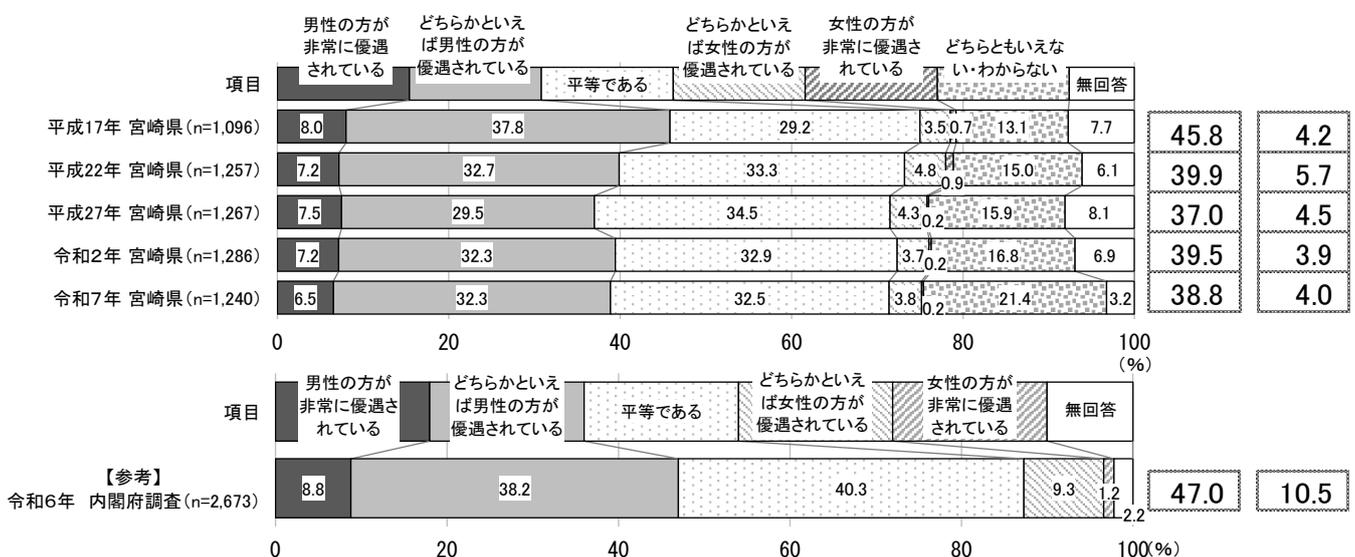
■ 性別・就業状況別でみると、「平等である」は就業していない人（女性 28.9%、男性 44.8%）の方が就業している人（女性 25.6%、男性 37.8%）より男女とも高くなっている。

図表 1-④-3 地域社会で(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 29.2%であったが、22 年調査では 33.3%、27 年調査では 34.5%、令和 2 年調査では 32.9%と推移しており、今回調査では 32.5%となっている。

図表 1-④-4 地域社会(時系列比較)

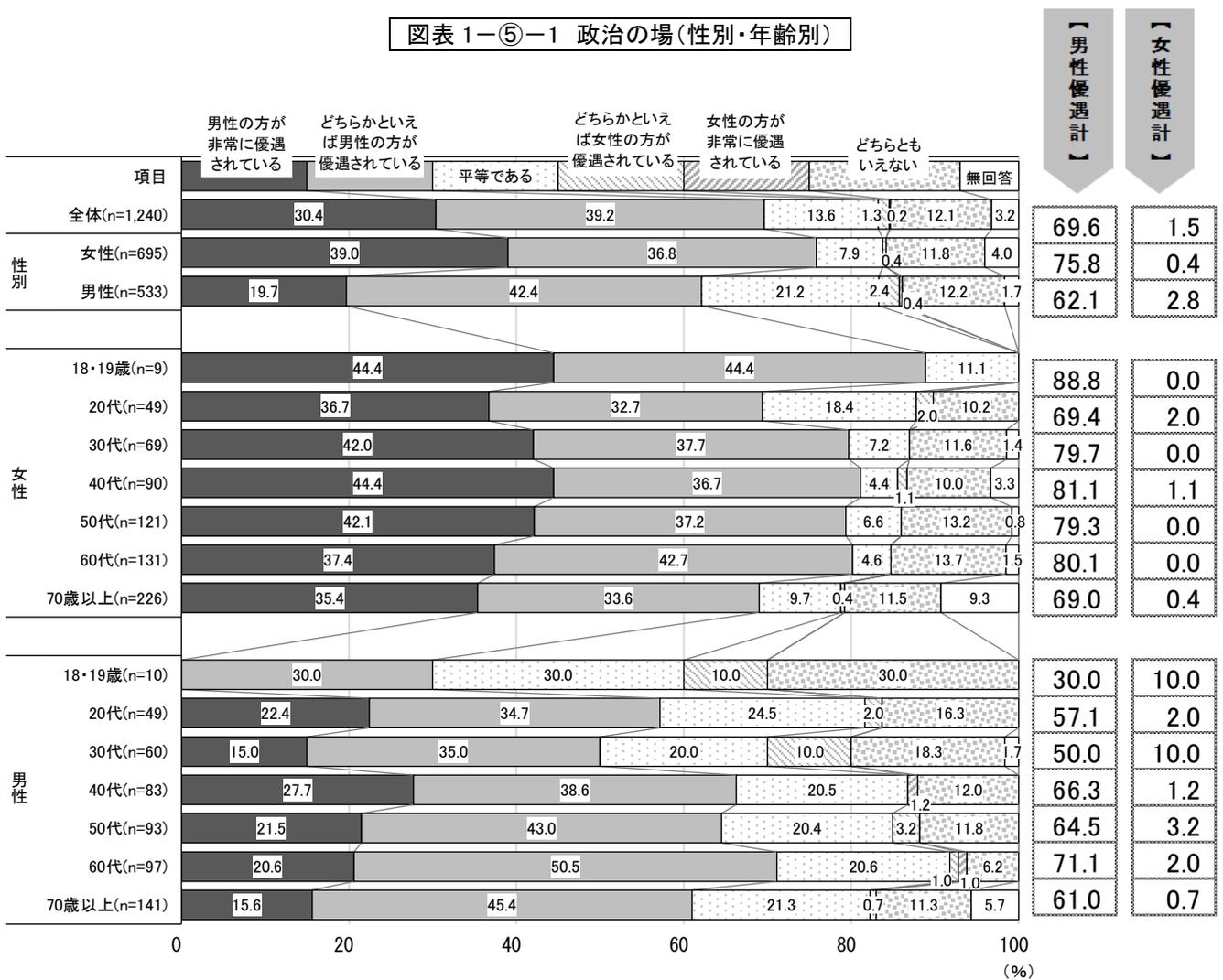


⑤ 政治の場

～男性優遇感を持つ人が全体の7割弱  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感は低下傾向

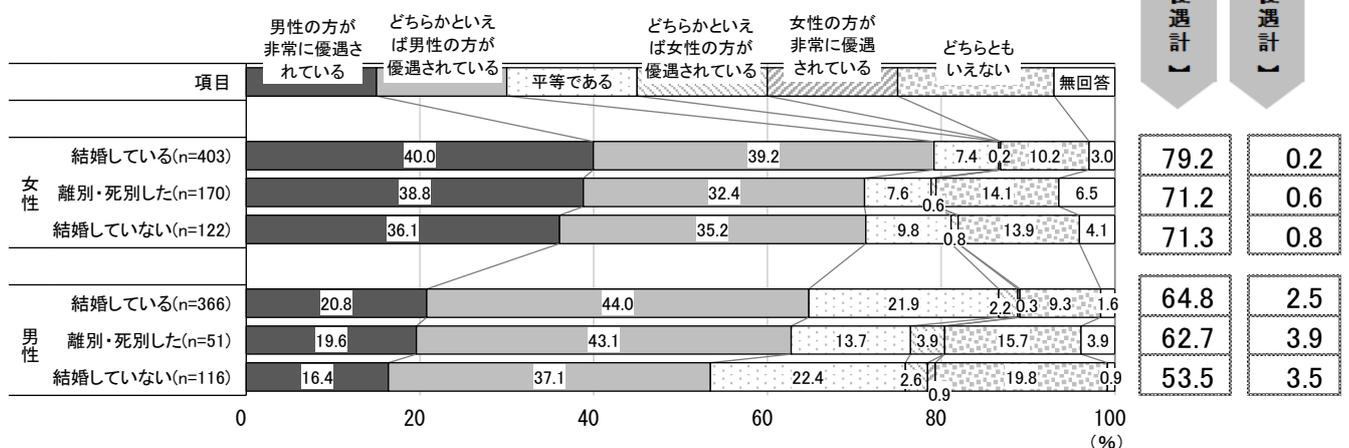
- 全体では、『男性優遇計』は69.6%、「平等である」は13.6%、『女性優遇計』は1.5%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は女性が7.9%、男性が21.2%となっており、男性の方が13.3ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、『男性優遇計』は全ての年代の女性で60%を超えている。

図表1-⑤-1 政治の場(性別・年齢別)



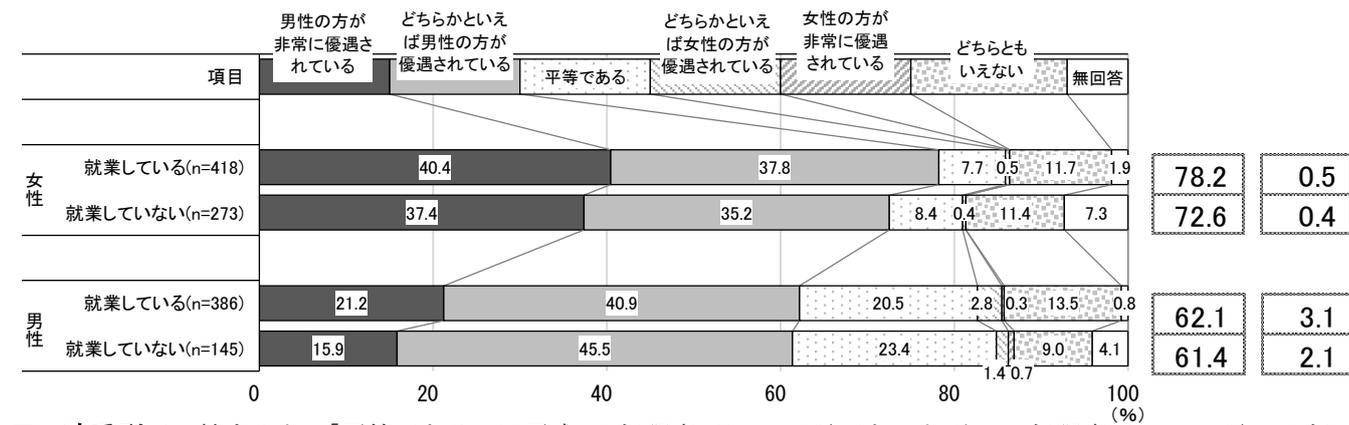
■ 性別・婚姻状況別で見ると、『男性優遇計』は、結婚している人（女性 79.2%、男性 64.8%）の方が結婚していない人（女性 71.3%、男性 53.5%）より男女とも高くなっている。

図表 1-⑤-2 政治の場(性別・婚姻状況別)



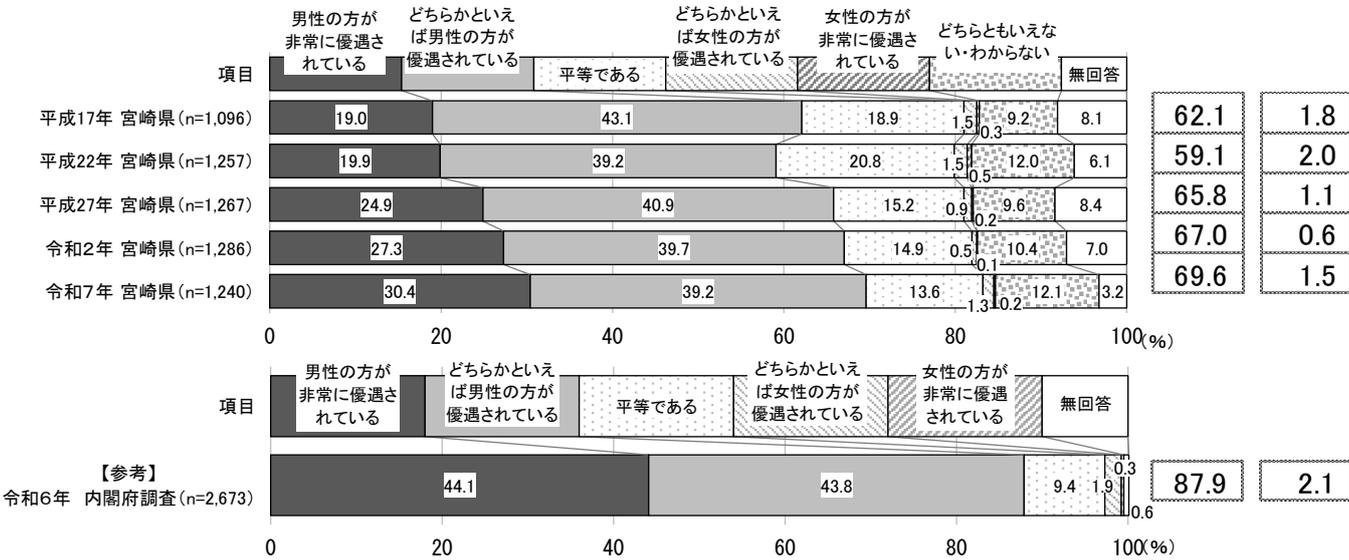
■ 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は就業していない人（女性 8.4%、男性 23.4%）の方が就業している人（女性 7.7%、男性 20.5%）より男女とも高くなっている。

図表 1-⑤-3 政治の場(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 18.9%であったが、22 年調査では 20.8%、27 年調査では 15.2%、令和 2 年調査では 14.9%と推移しており、今回調査では 13.6%となっている。

図表 1-⑤-4 政治の場(時系列比較)

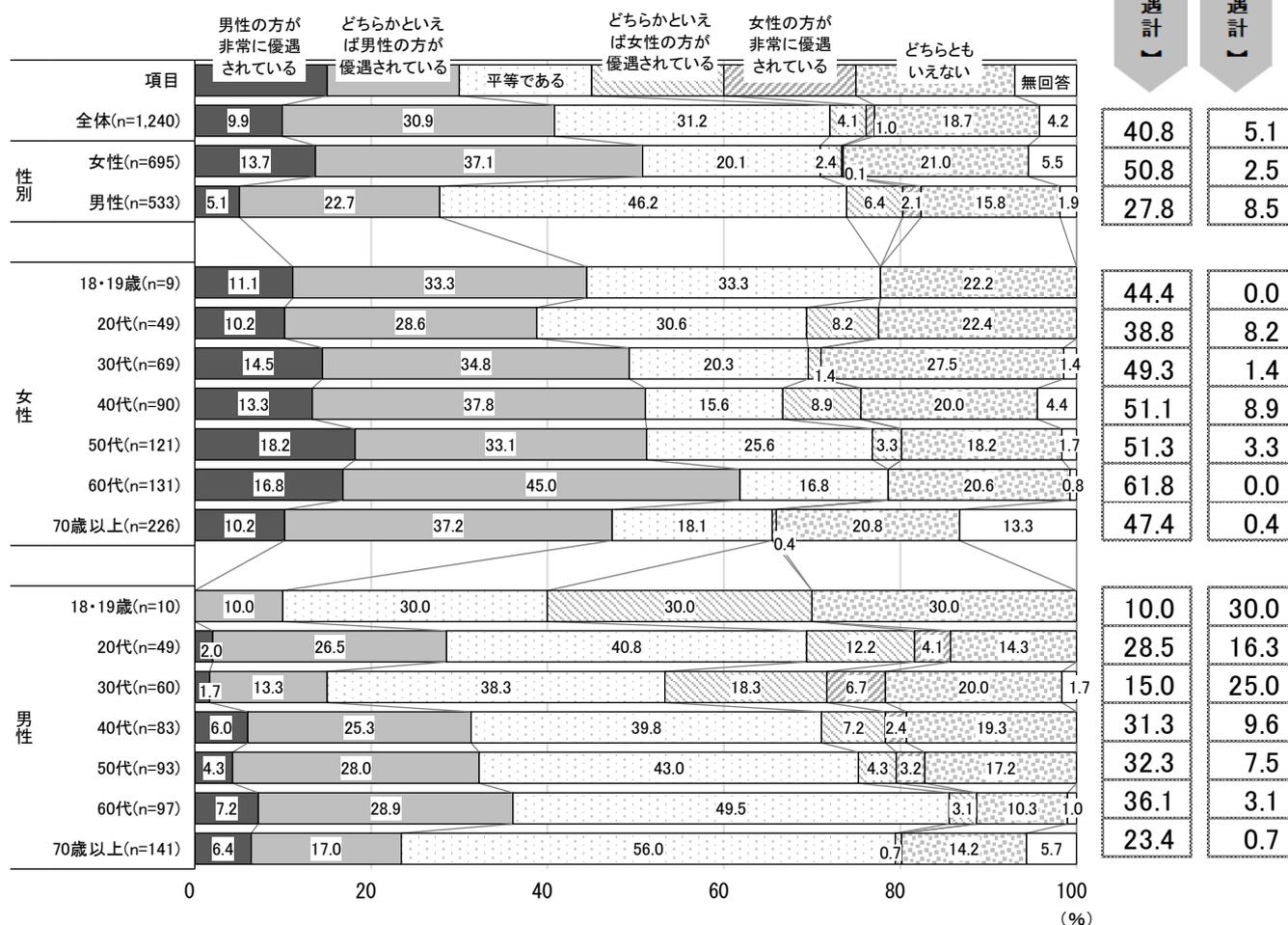


⑥ 法律や制度の上

～男性優遇感を持つ人が全体の4割強  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感はほぼ変化なし

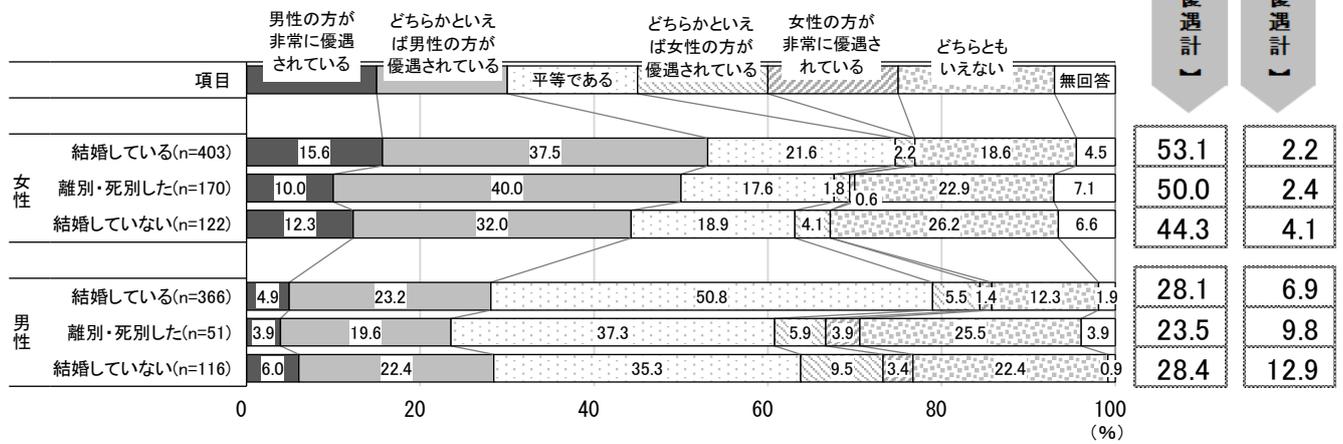
- 全体では、『男性優遇計』は40.8%、「平等である」は31.2%、『女性優遇計』は5.1%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は女性が20.1%、男性が46.2%となっており、男性の方が26.1ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、40代～60代女性では『男性優遇計』が50%を超えている。

図表 1-⑥-1 法律や制度の上(性別・年齢別)



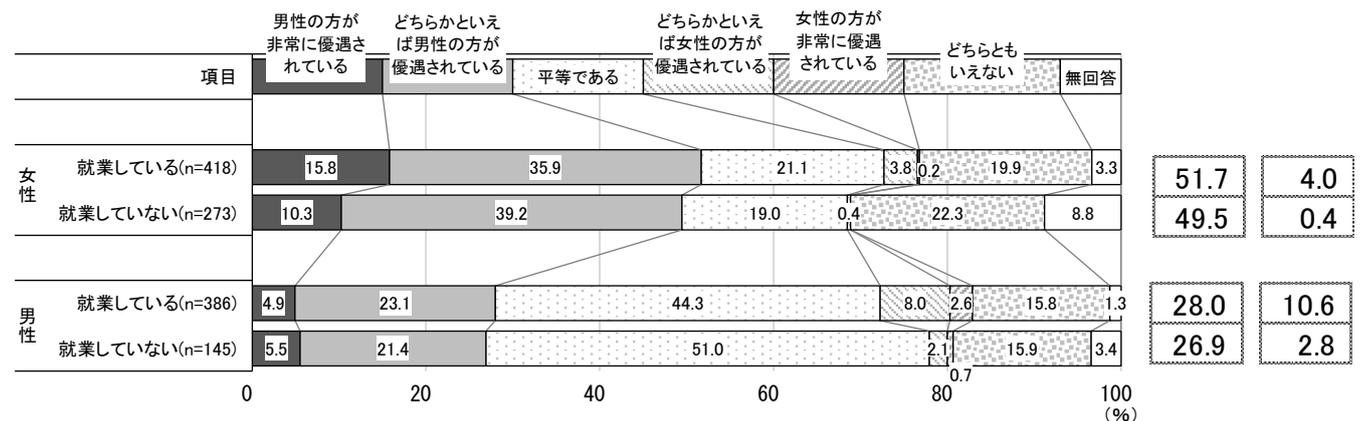
■ 性別・婚姻状況別でみると、「平等である」は結婚している人（女性 21.6%、男性 50.8%）の方が結婚していない人（女性 18.9%、男性 35.3%）より男女とも高くなっている。

図表 1-⑥-2 法律や制度の上(性別・婚姻状況別)



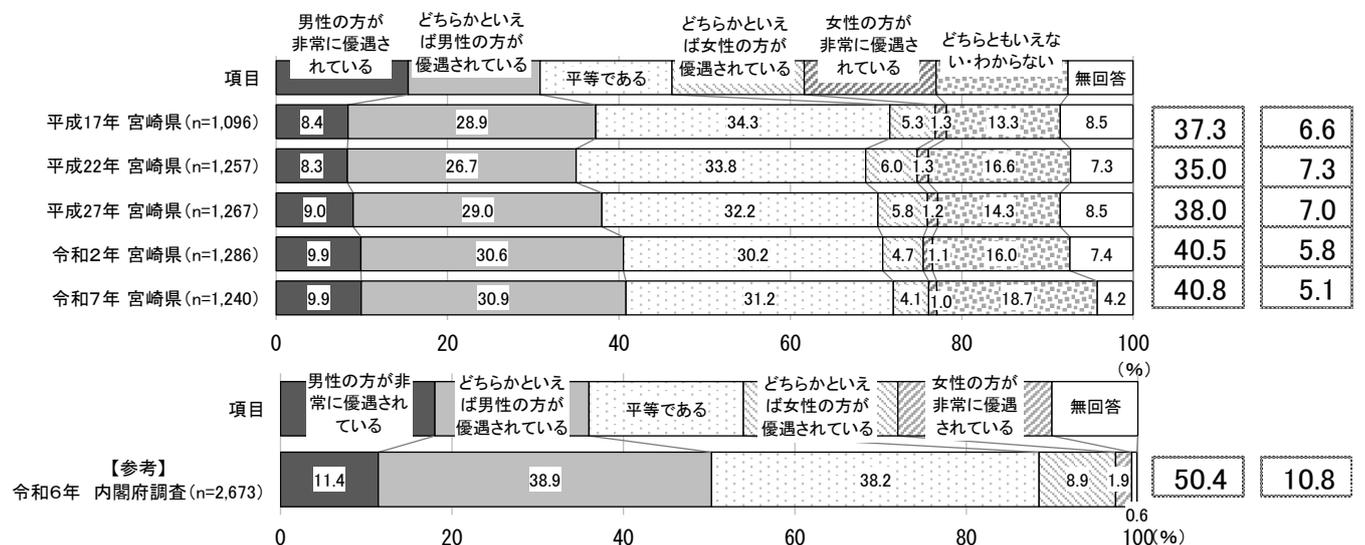
■ 性別・就業状況別でみると、『女性優遇計』は就業している人（女性 4.0%、男性 10.6%）の方が就業していない人（女性 0.4%、男性 2.8%）より男女とも高くなっている。

図表 1-⑥-3 法律や制度の上(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 34.3%であったが、22 年調査では 33.8%、27 年調査では 32.2%、令和 2 年調査では 30.2%と推移しており、今回調査では 31.2%となっている。

図表 1-⑥-4 法律や制度の上(時系列比較)

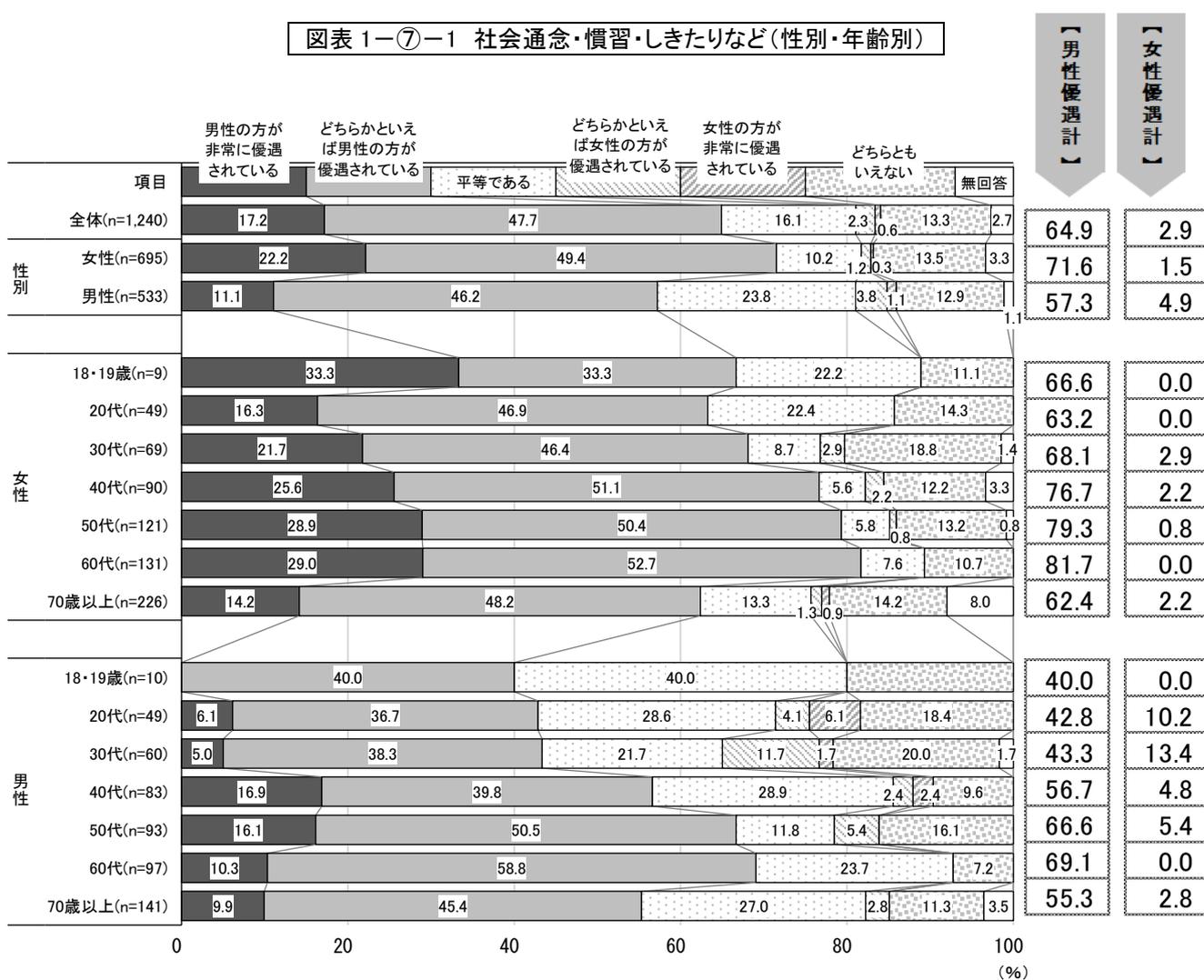


⑦ 社会通念・慣習・しきたりなど

～男性優遇感を持つ人が全体の6割強  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列で見ると、平等感は上昇している

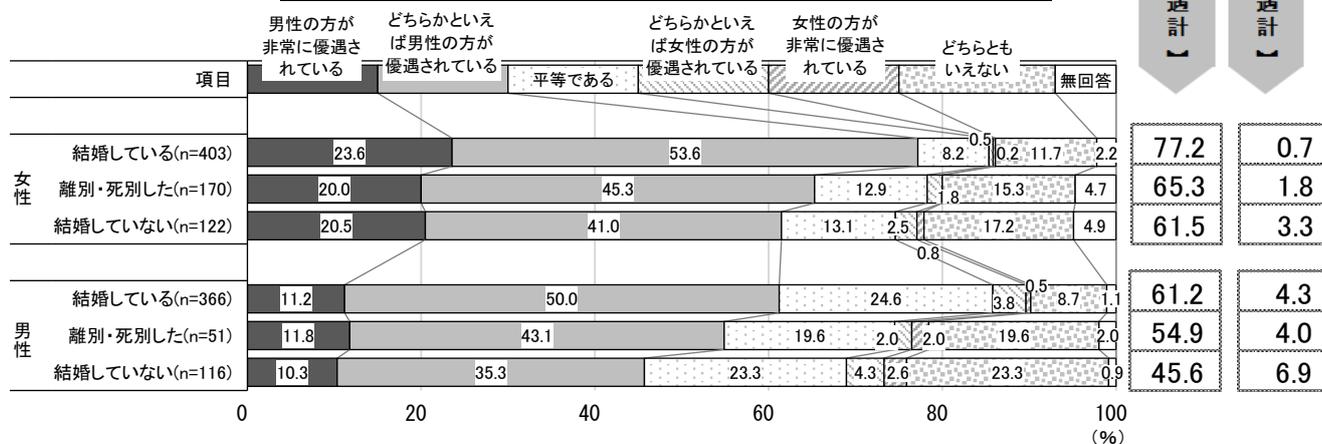
- 全体では、『男性優遇計』は64.9%、「平等である」は16.1%、『女性優遇計』は2.9%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は女性が10.2%、男性が23.8%となっており、男性の方が13.6ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、『男性優遇計』は全ての年代の女性で60%を超えている。

図表 1-⑦-1 社会通念・慣習・しきたりなど(性別・年齢別)



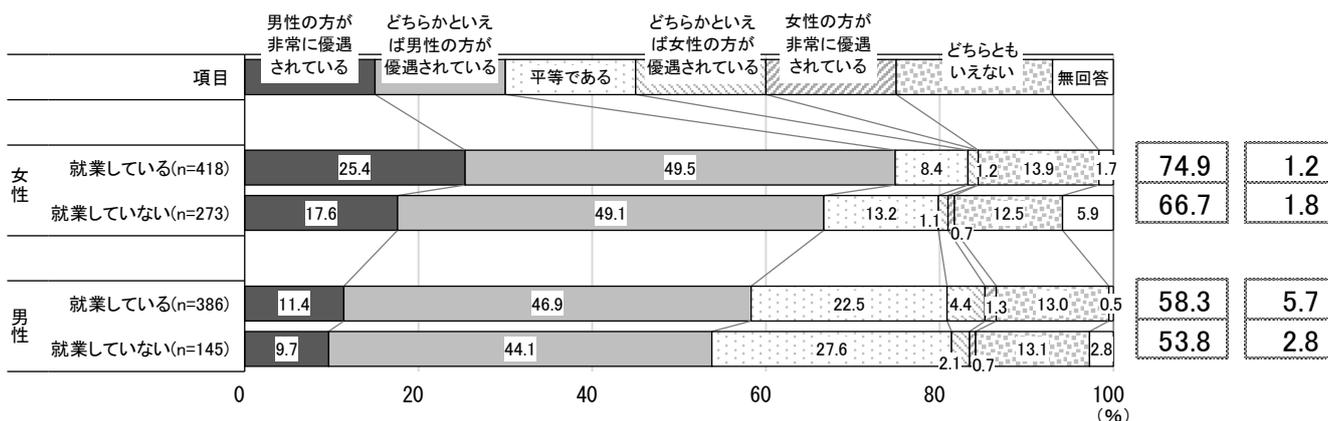
■ 性別・婚姻状況別で見ると、『男性優遇計』は結婚している人（女性 77.2%、男性 61.2%）の方が結婚していない人（女性 61.5%、男性 45.6%）より男女とも高くなっている。

図表 1-⑦-2 社会通念・慣習・しきたりなど(性別・婚姻状況別)



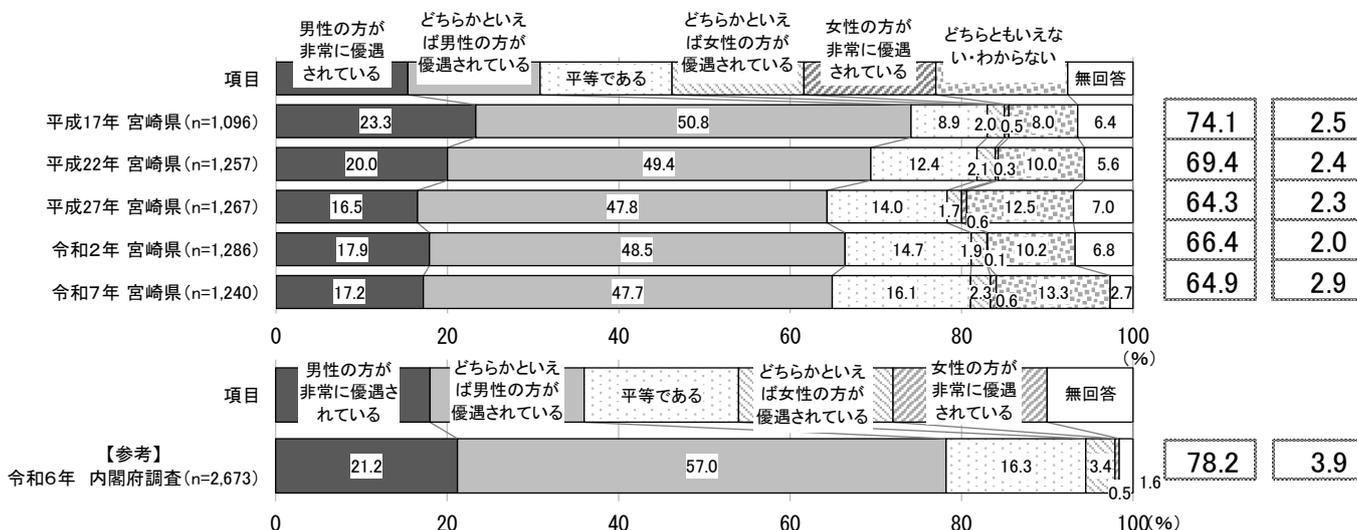
■ 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は就業していない人（女性 13.2%、男性 27.6%）の方が就業している人（女性 8.4%、男性 22.5%）より男女とも高くなっている。

図表 1-⑦-3 社会通念・慣習・しきたりなど(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 8.9%であったが、22 年調査では 12.4%、27 年調査では 14.0%、令和 2 年調査では 14.7%と推移しており、今回調査では 16.1%となっている。

図表 1-⑦-4 社会通念・慣習・しきたりなど(時系列比較)

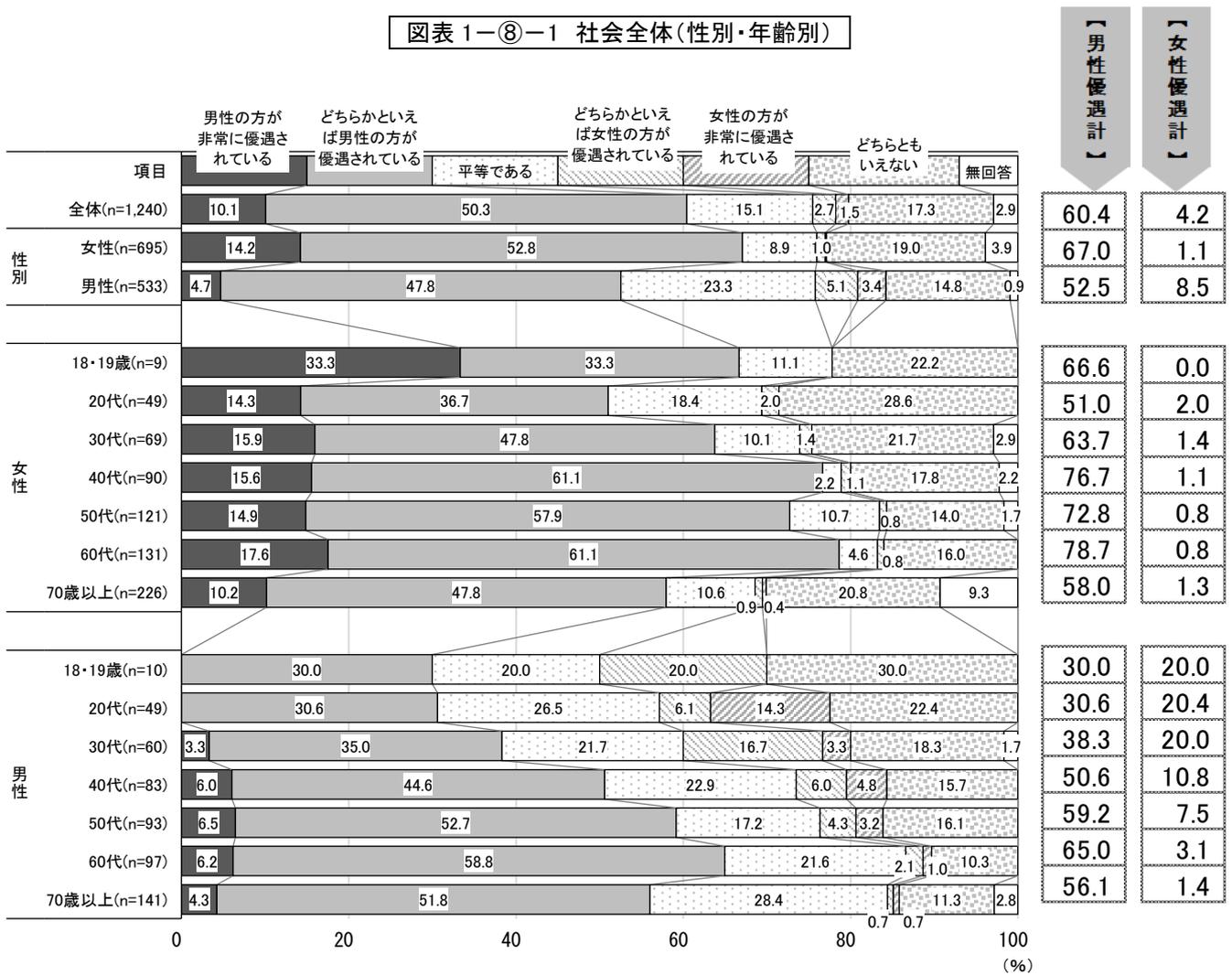


⑧ 社会全体

～男性優越感を持つ人が全体の6割  
 平等感は、男性の方が高い  
 時系列でみると、平等感はほぼ変化なし

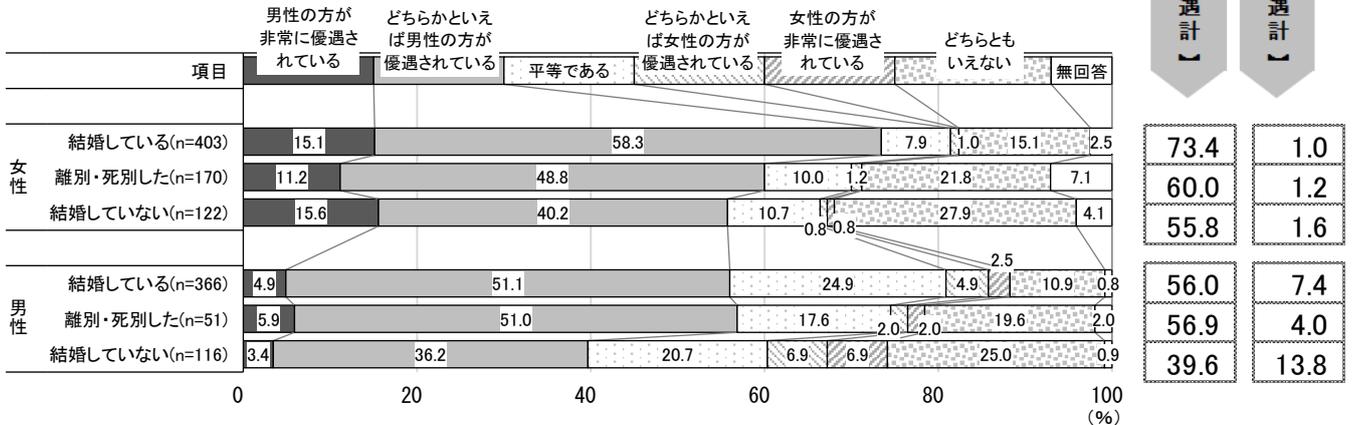
- 全体では、『男性優越計』は60.4%、「平等である」は15.1%、『女性優越計』は4.2%となっている。
- 性別でみると、「平等である」は女性が8.9%、男性が23.3%となっており、男性の方が14.4ポイント高くなっている。
- 性別・年代別でみると、『男性優越計』は全ての年代の女性で50%を超えている。

図表 1-⑧-1 社会全体(性別・年齢別)



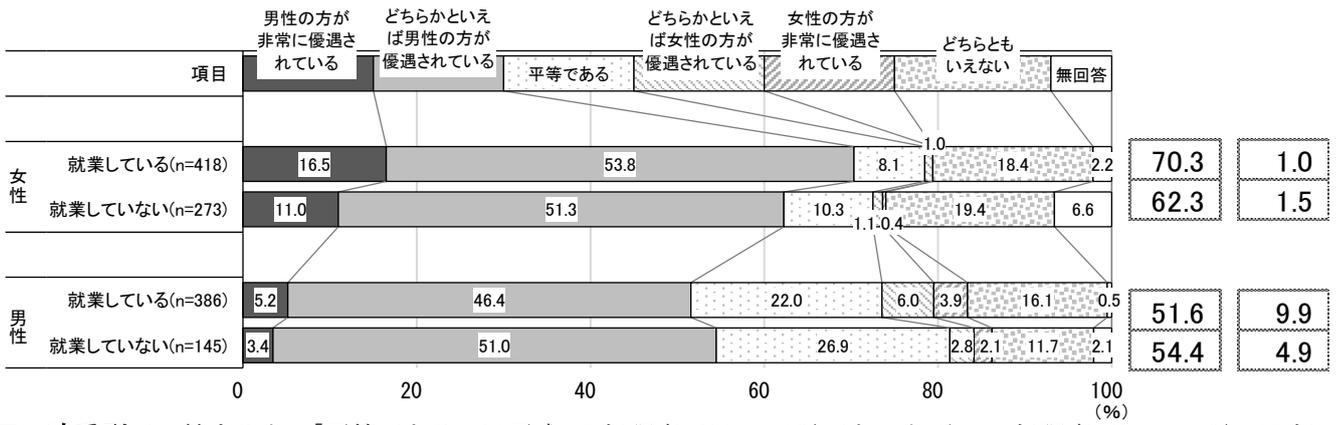
■ 性別・婚姻状況別で見ると、『男性優遇計』は結婚している人（女性 73.4%、男性 56.0%）の方が、結婚していない人（女性 55.8%、男性 39.6%）より男女とも高くなっている。

図表 1-⑧-2 社会全体(性別・婚姻状況別)



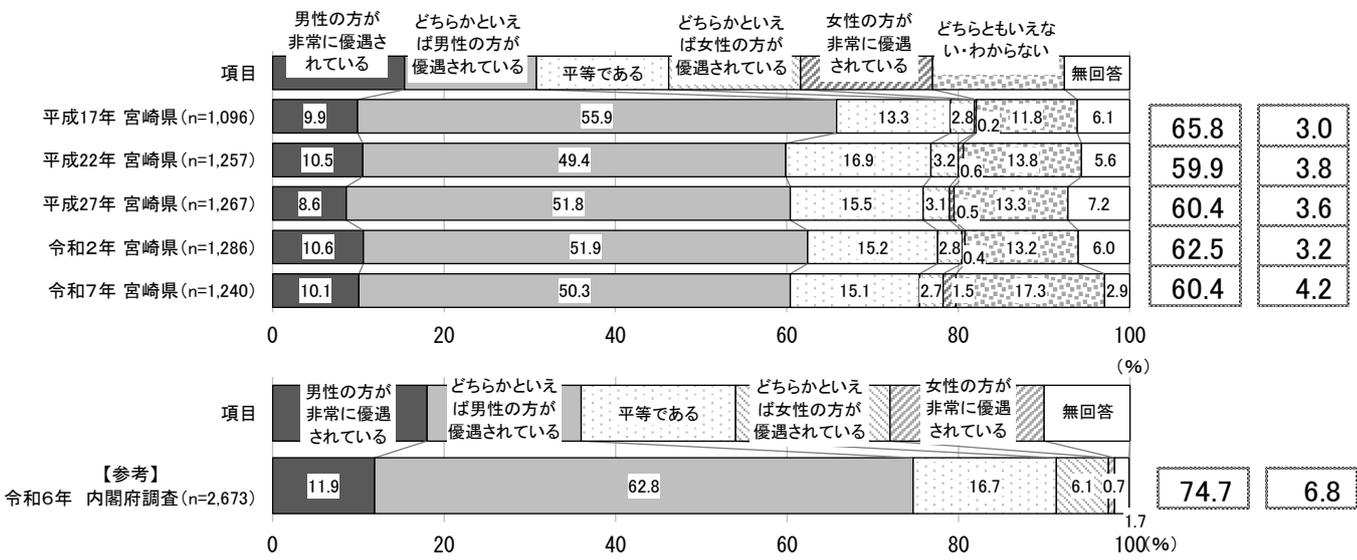
■ 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は就業していない人（女性 10.3%、男性 26.9%）の方が就業している人（女性 8.1%、男性 22.0%）より男女とも高くなっている。

図表 1-⑧-3 社会全体(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、「平等である」は平成 17 年調査では 13.3%であったが、22 年調査では 16.9%、27 年調査では 15.5%、令和 2 年調査では 15.2%と推移しており、今回調査では 15.1%となっている。

図表 1-⑧-4 社会全体(時系列比較)



(2) 男女平等になるために重要なこと

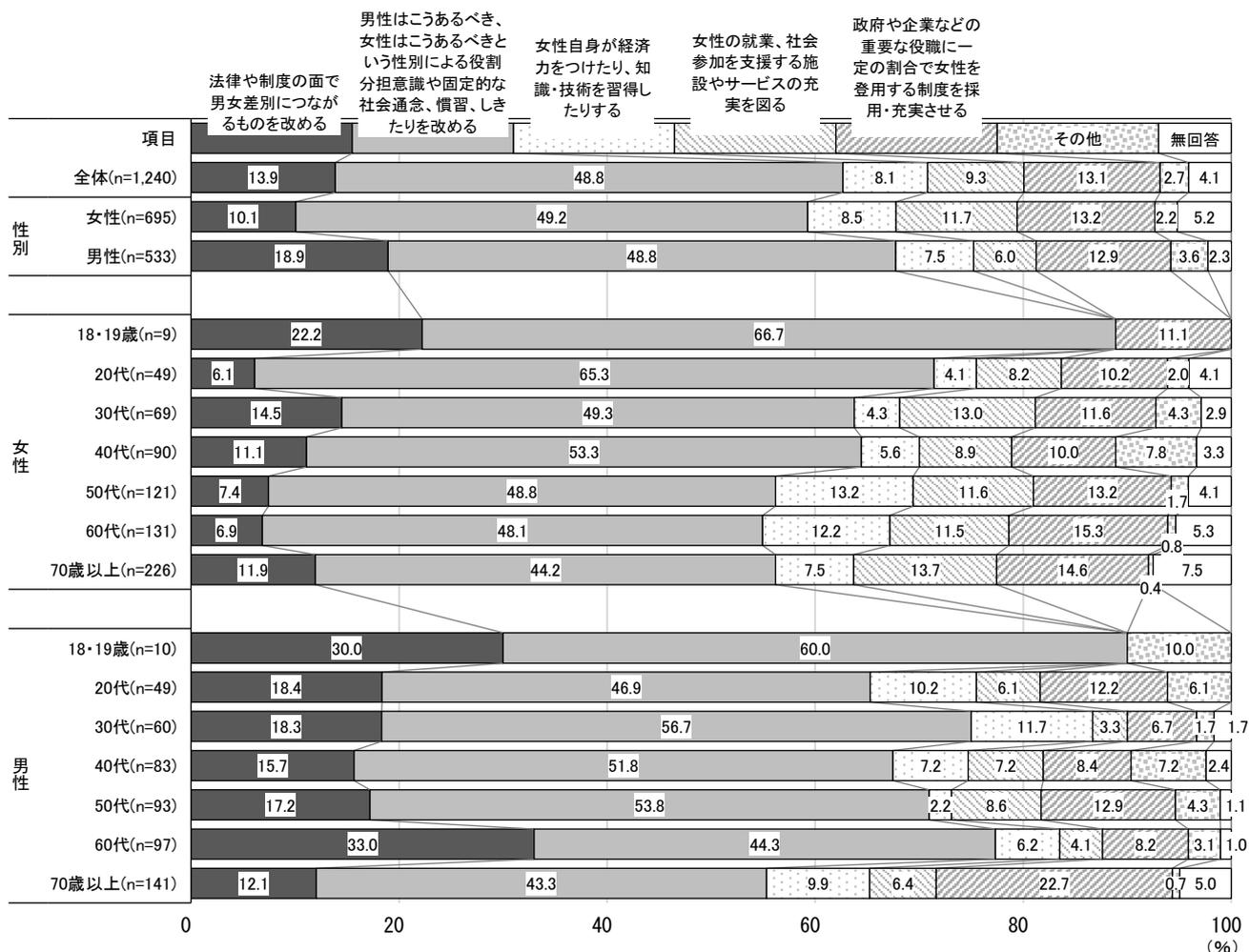
今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、最も重要と思われることは何でしょうか。(〇は1つだけ)

男女平等になるためには、

「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」ことが重要との考えが5割弱

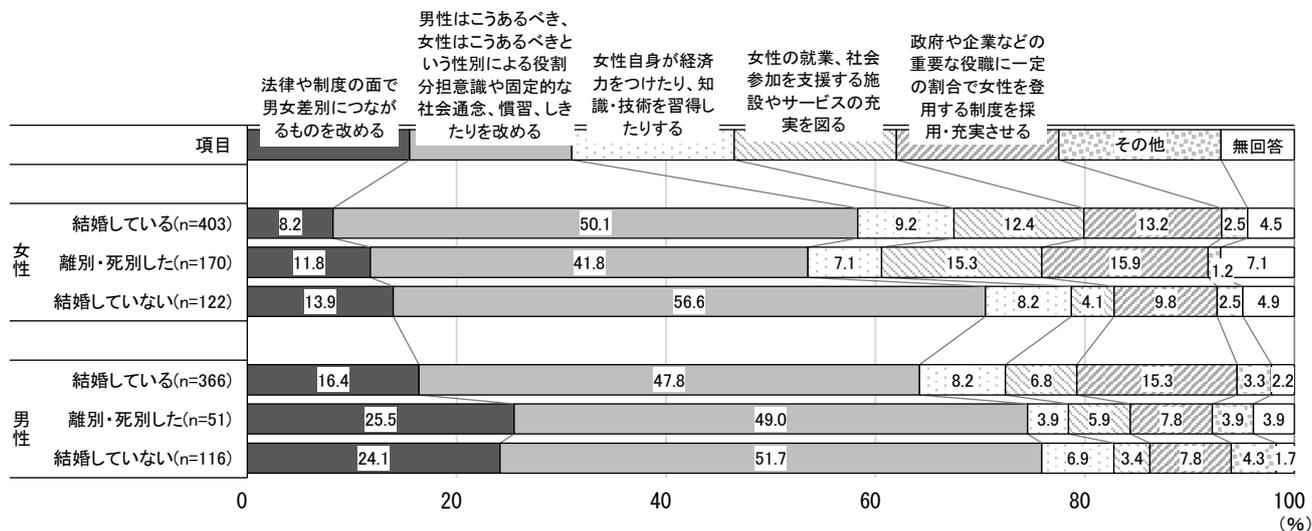
- 全体では、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」が48.8%と最も高くなっている。
- 性別・年代別でみると、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」は、男女ともに70歳以上(女性44.2%、男性43.3%)が最も低くなっている。

図表 2-1 男女平等になるために重要なこと(性別・年齢別)



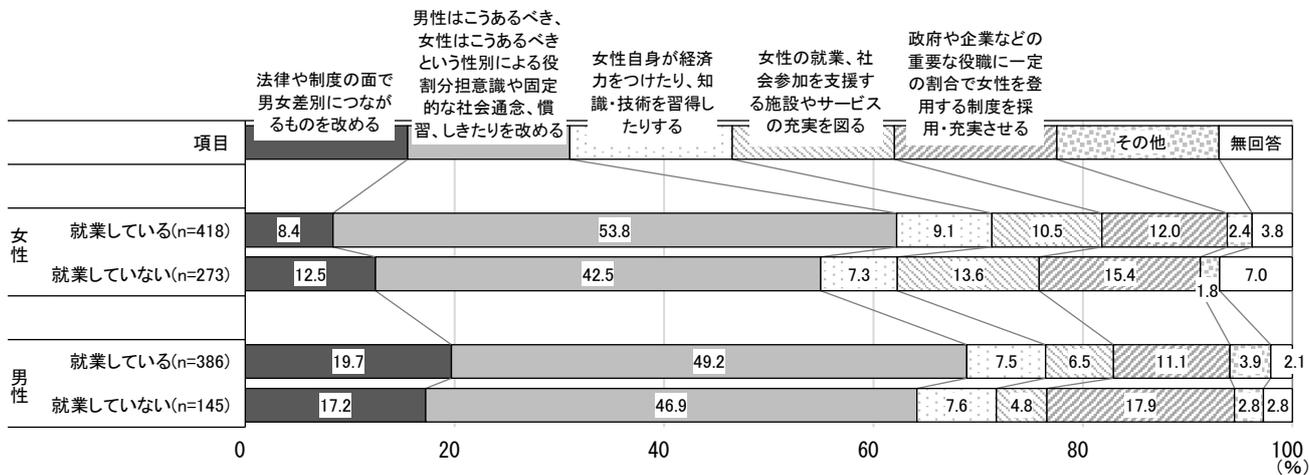
- 性別・婚姻状況別でみると、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」は婚姻状況に関わらず男女とも最も高くなっている。

図表 2-2 男女平等になるために重要なこと(性別・婚姻状況別)



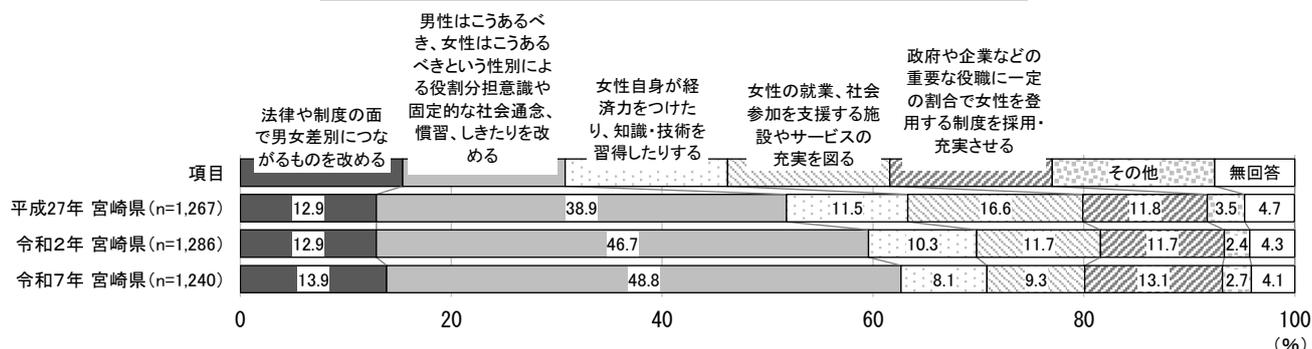
- 性別・就業状況別でみると、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」は就業状況に関わらず男女とも最も高くなっている。

図表 2-3 男女平等になるために重要なこと(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」は平成 27 年調査では 38.9%、令和 2 年調査では 46.7%、今回調査では 48.8%となっている。

図表 2-4 男女平等になるために重要なこと(時系列比較)



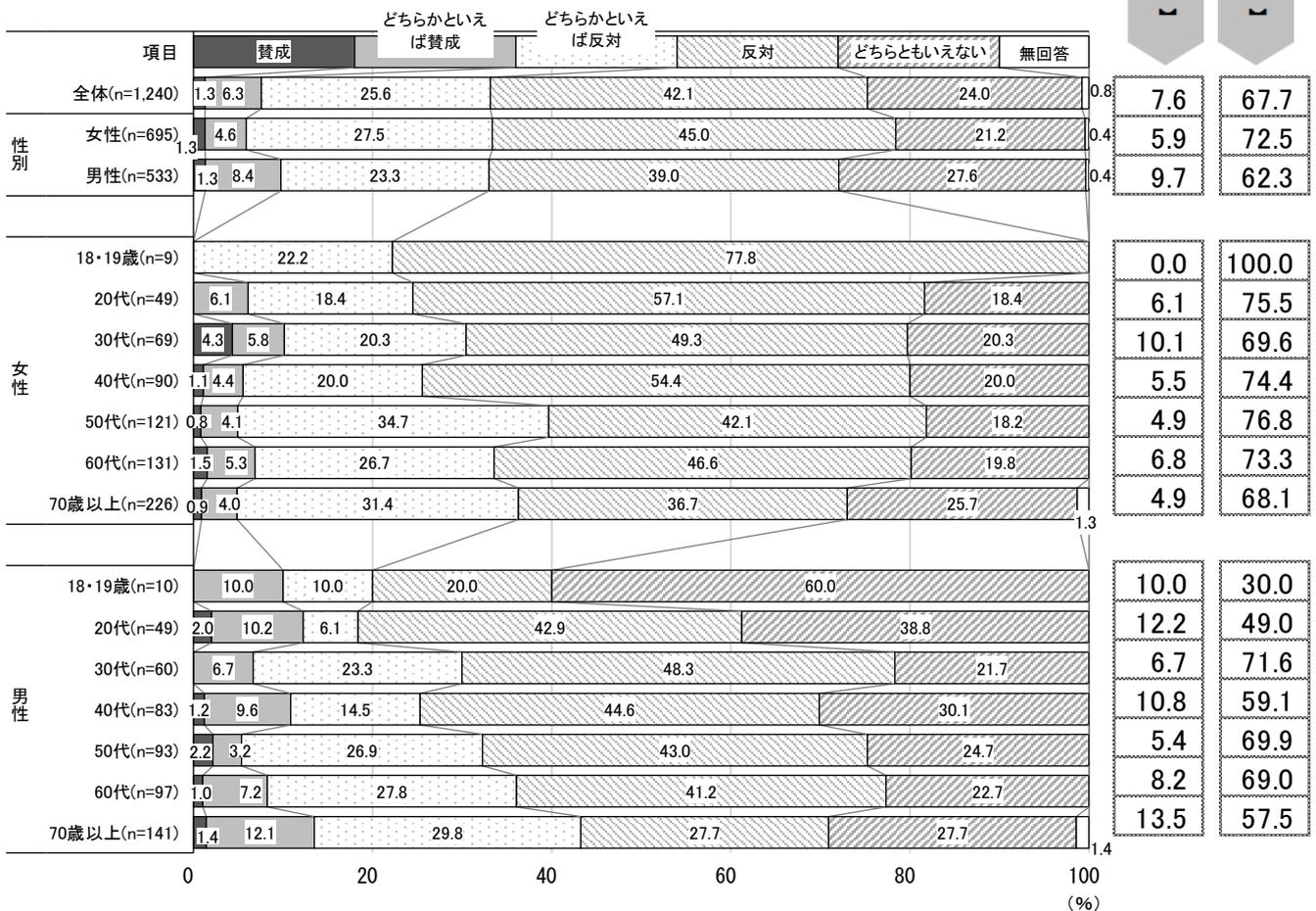
(3) 男女の役割分担意識についての考え方

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」というような、性別によって役割を固定する(決めつける)考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つだけ)

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」というような性別によって役割を固定する(決めつける)考え方について、『賛成計』は1割未満、『反対計』は7割弱

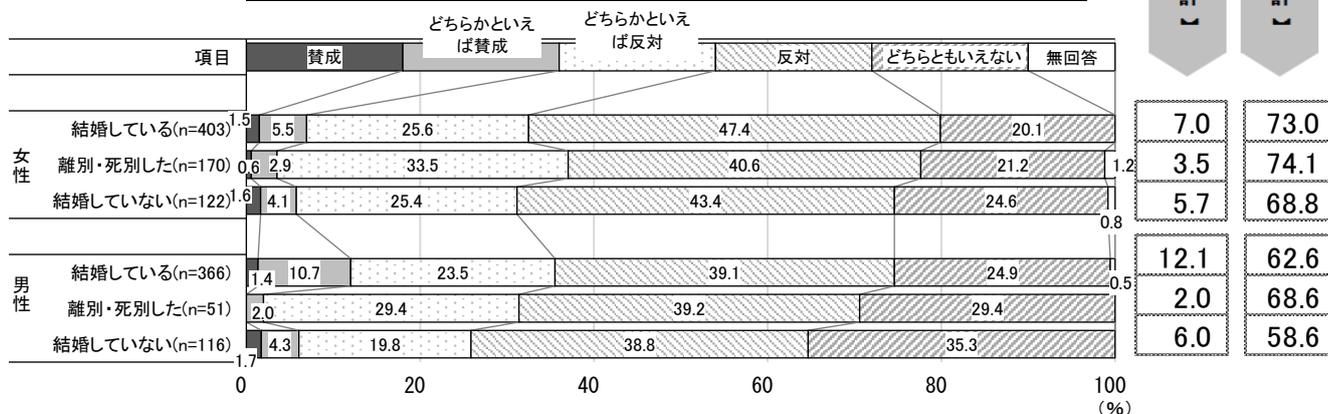
- 全体では、『賛成計(「賛成」及び「どちらかといえば賛成」の合計)』は7.6%、『反対計(「反対」及び「どちらかといえば反対」)』は67.7%となっており、『反対計』の方が60.1ポイント高くなっている。
- 性別で見ると、『反対計』は女性が72.5%、男性が62.3%となっており、女性の方が10.2ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、『賛成計』は女性では30代女性(10.1%)、男性では70歳以上男性(13.5%)が最も高く、『反対計』は50代女性(76.8%)、30代男性(71.6%)が最も高くなっている。

図表 3-1 男女の役割分担意識についての考え方(性別・年齢別)



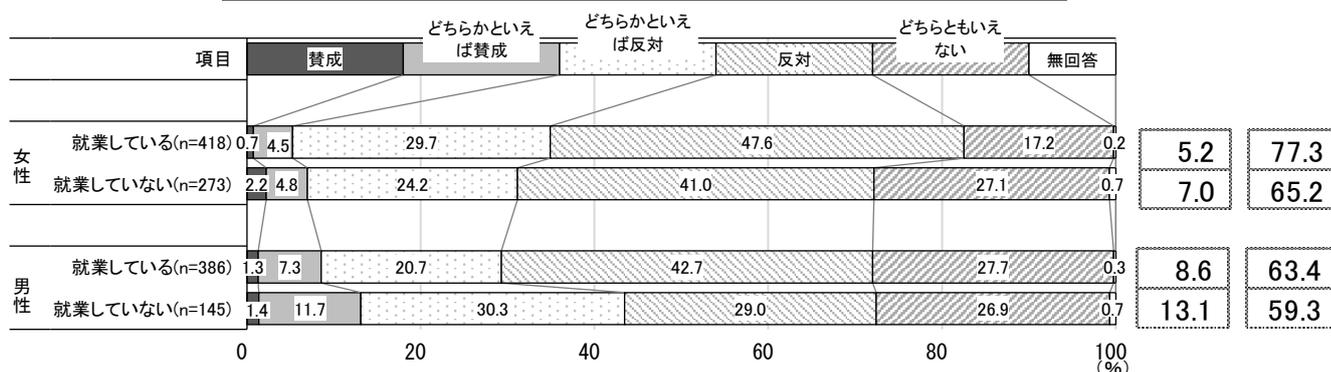
- 性別・婚姻状況別で見ると、『賛成計』は結婚している人（女性7.0%、男性12.1%）の方が結婚していない人（女性5.7%、男性6.0%）より男女とも高くなっている。

図表 3-2 男女の役割分担意識についての考え方(性別・婚姻状況別)



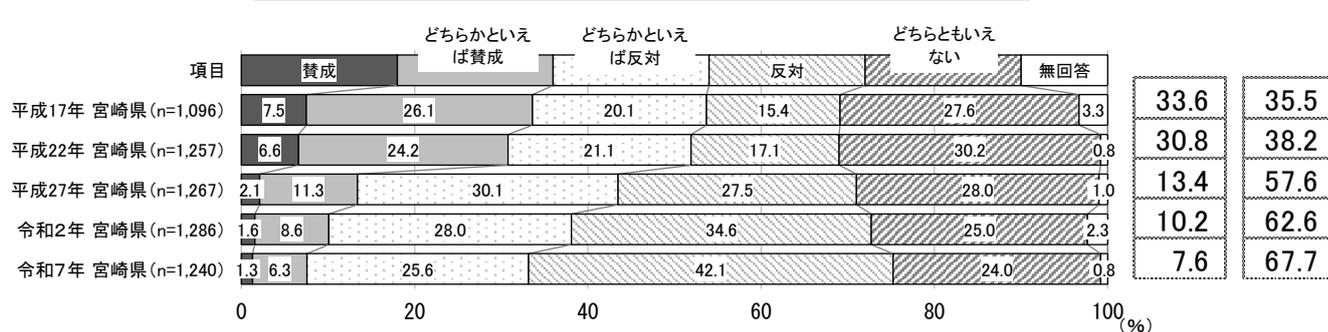
- 性別・就業状況別で見ると、『賛成計』は就業していない人（女性7.0%、男性13.1%）の方が就業している人（女性5.2%、男性8.6%）より男女とも高くなっている。

図表 3-3 男女の役割分担意識についての考え方(性別・就業状況別)

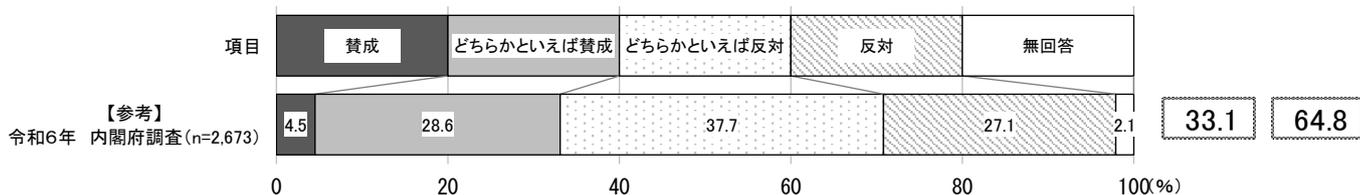


- 時系列で比較すると、『賛成計』は平成17年調査では33.6%であったが、22年調査では30.8%、27年調査では13.4%、令和2年調査では10.2%と推移しており、今回調査では7.6%となっている。

図表 3-4 男女の役割分担意識についての考え方(時系列比較)



※平成22年までの設問は「男は仕事、女は家庭という考え方についてあなたはどのように思いますか。」であったが、前回(27年)調査より「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」というような性別によって役割を固定する(決めつける)考え方について、あなたはどのように思いますか。」に変更している。



## 2 家庭生活について

### (4) 家庭生活での夫婦の役割分担状況

あなたのご家庭では、次の①～⑨にあげるような家庭内の仕事を、主にどなたがしていますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

家庭生活での夫婦の役割は、

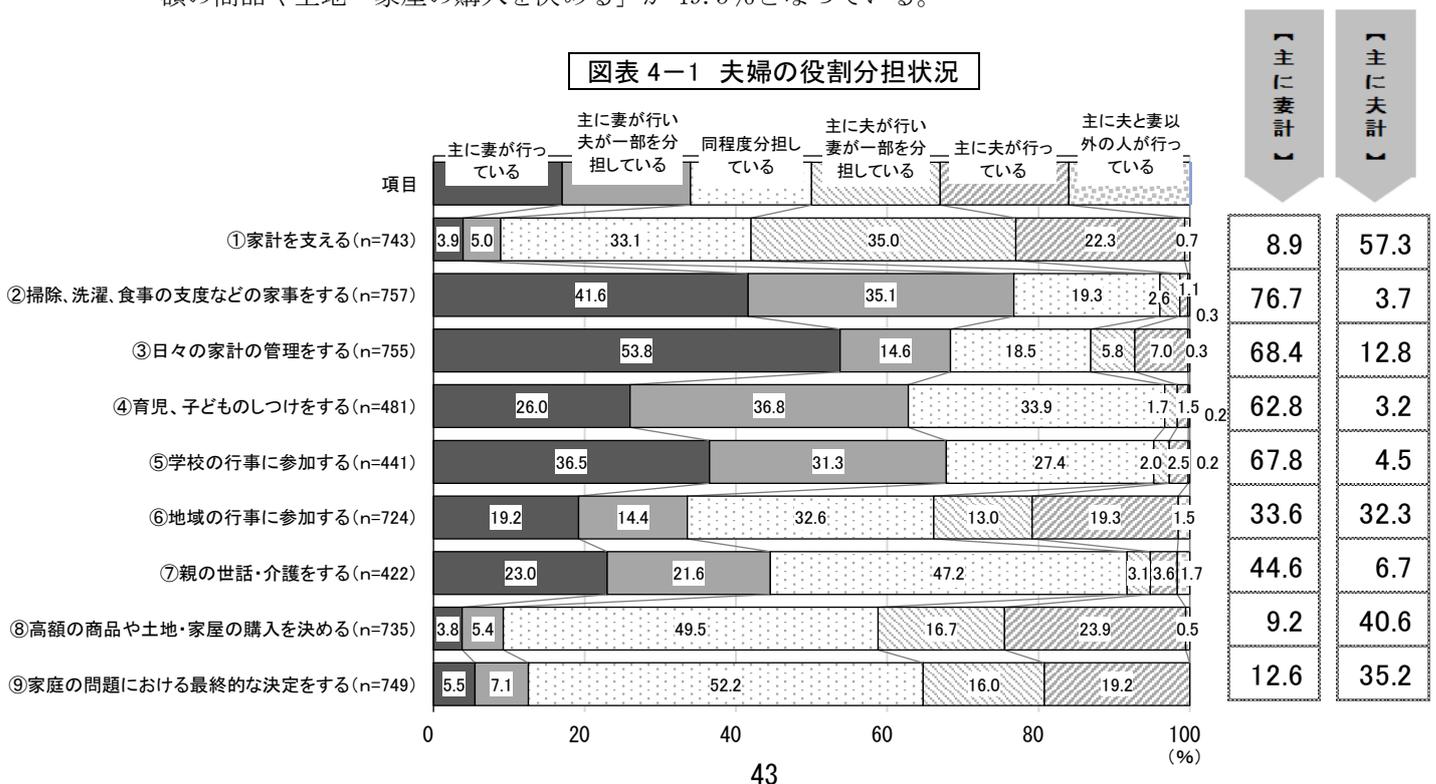
主に妻の分担が多いのは「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」

主に夫の分担が多いのは「家計を支える」

時系列で見ると、「同程度分担している」が上昇傾向にある

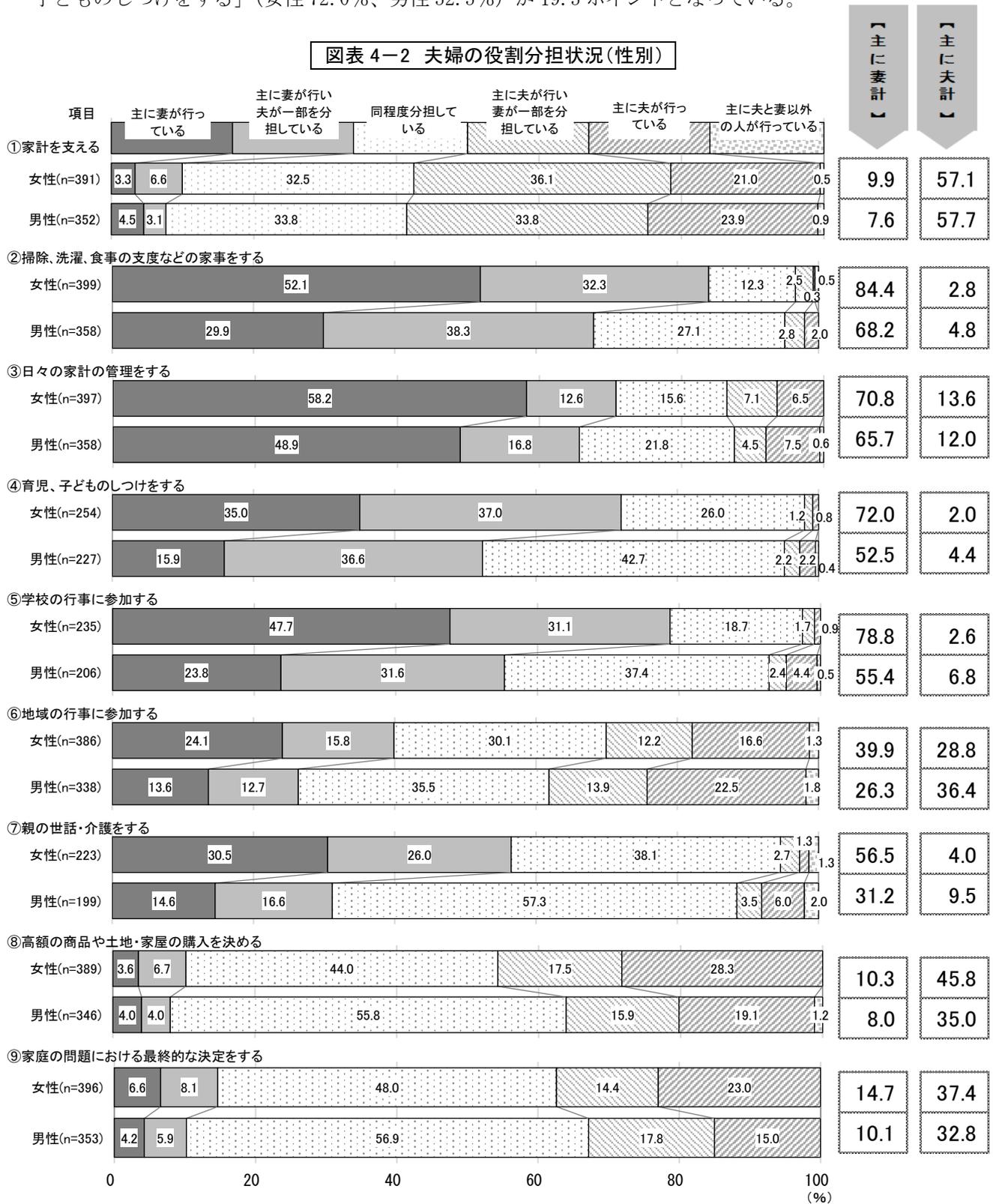
(4)あなたは結婚されていますか。(結婚には、入籍していない事実婚も含みます。)(〇は1つだけ)に対して、「1 結婚している」と回答した方のうち、全ての設問において無回答の方、「④育児、子どものしつけをする」、「⑤学校の行事に参加する」、「⑦親の世話・介護をする」において「7 現在も過去も対象がいらない」と回答した方を除いた母数にて集計を行っている。

- 『主に妻計(「主に妻が行っている」及び「主に妻が行い、夫が一部を分担している」の合計)』は、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」が76.7%と最も高く、次いで「日々の家計の管理をする」が68.4%となっている。
- 『主に夫計(「主に夫が行っている」及び「主に夫が行い、妻が一部を分担している」の合計)』は、「家計を支える」が57.3%と最も高く、次いで「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」が40.6%となっている。
- 「同程度分担している」は、「家庭の問題における最終的な決定をする」が52.2%と最も高く、次いで「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」が49.5%となっている。



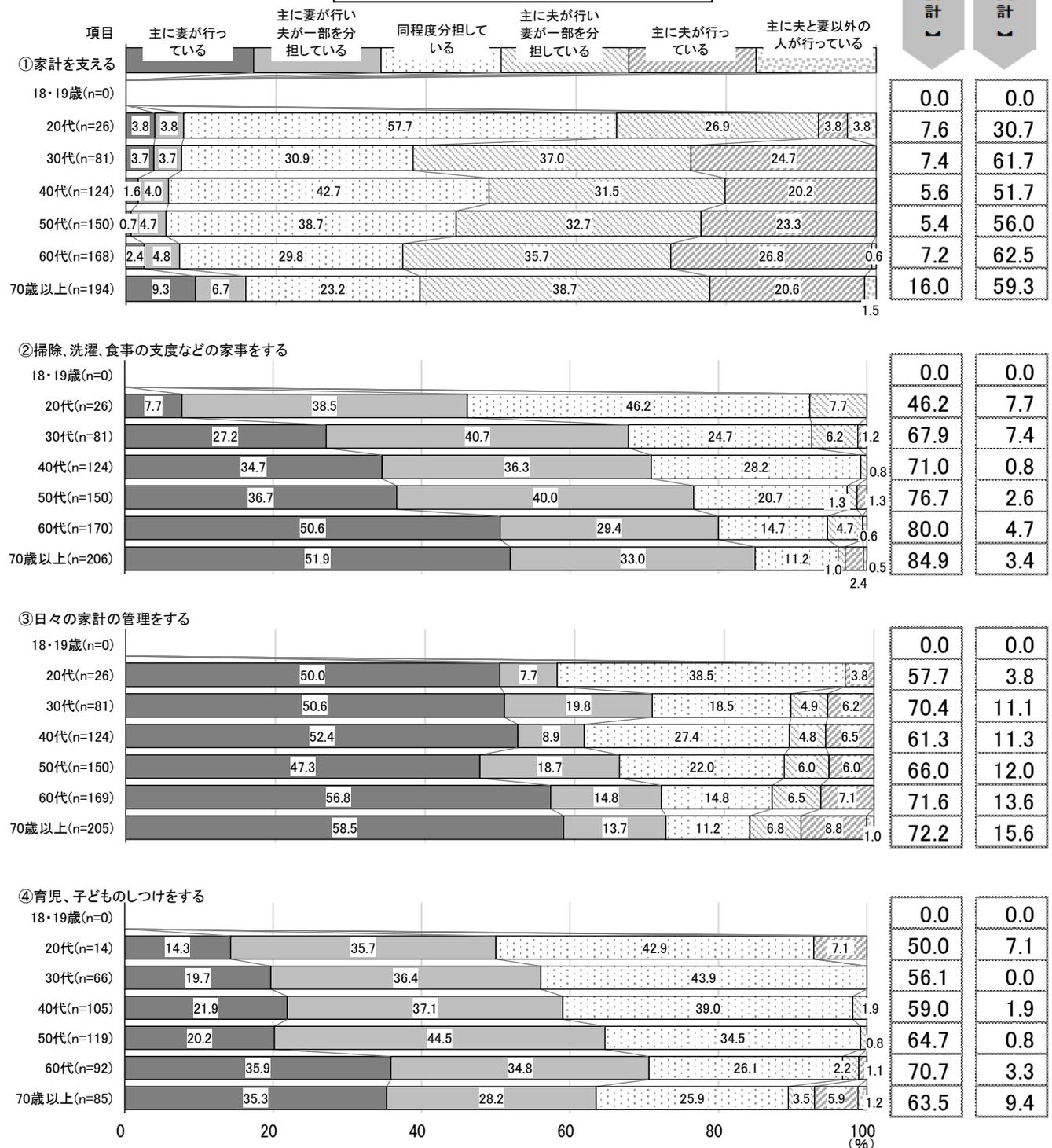
■ 性別でみると、『主に妻計』の男女差は「親の世話・介護をする」(女性 56.5%、男性 31.2%) が 25.3 ポイントと最も高く、次いで「学校の行事に参加する」(女性 78.8%、男性 55.4%) が 23.4 ポイント、「育児、子どものしつけをする」(女性 72.0%、男性 52.5%) が 19.5 ポイントとなっている。

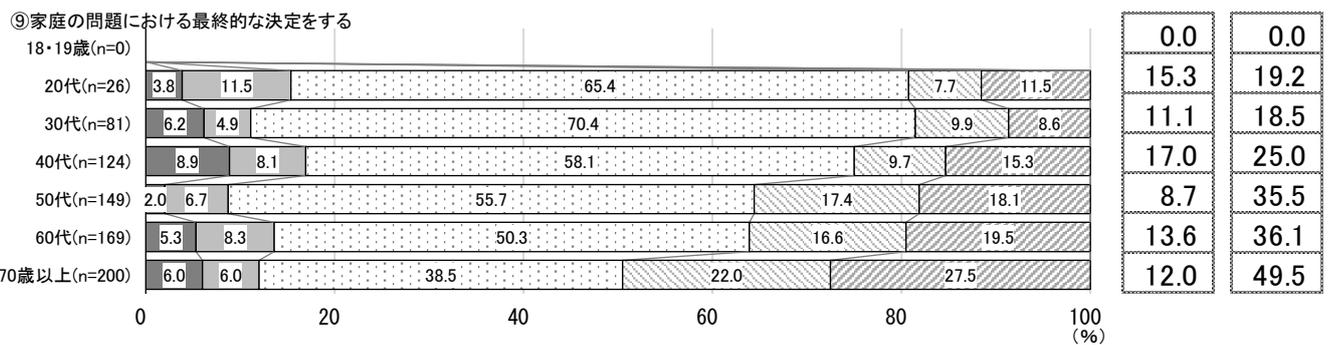
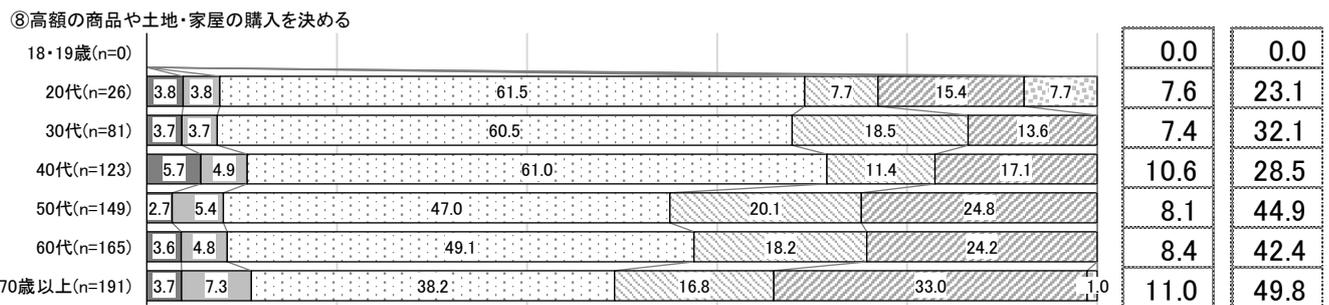
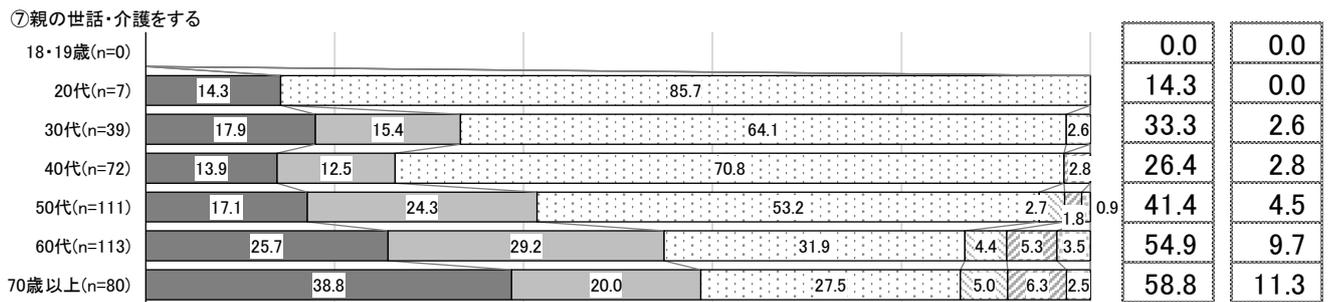
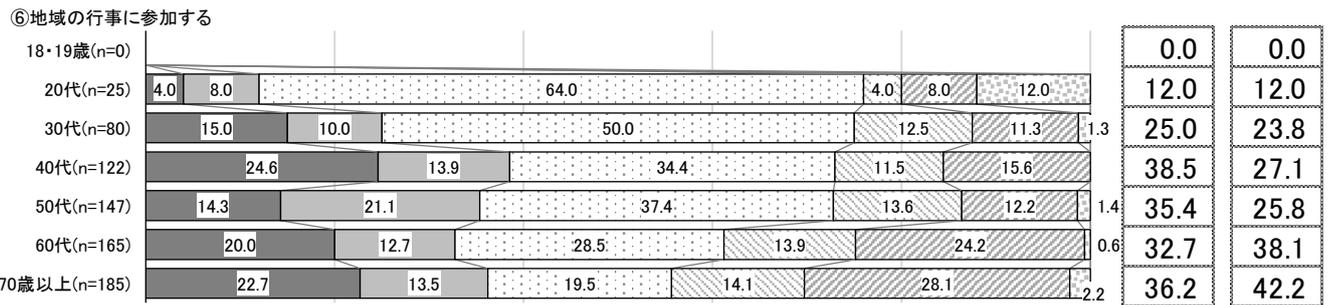
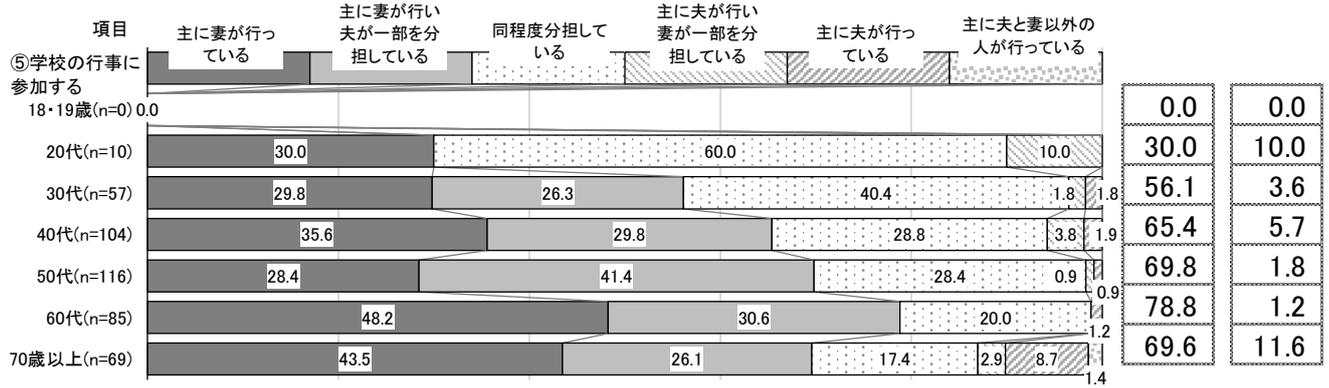
図表 4-2 夫婦の役割分担状況(性別)



- 年代別でみると、「日々の家計の管理をする」、「育児、子どものしつけをする」ではすべての年代において『主に妻計』が50%を超えている。
- 「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「育児、子どものしつけをする」、「学校の行事に参加する」、「親の世話・介護をする」では、年齢が上がるにつれ、『主に妻計』が高い傾向にあり、「家庭の問題における最終的な決定をする」では、年齢が上がるにつれ、『主に夫計』が高い傾向にある。
- 「同程度分担している」は「育児、子どものしつけをする」、「家庭の問題における最終的な決定をする」を除いた全ての項目で20代が最も高くなっている。

図表 4-3 夫婦の役割分担状況(年代別)





■ 結婚している人の就業状況別でみると、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「日々の家計の管理をする」、「育児、子どものしつけをする」、「学校の行事に参加する」では、夫婦の就業状況に関わらず『主に妻計』が60%以上となっている。

下記4設問のクロス集計により(夫婦とも就業している)(夫のみ就業している)(妻のみ就業している)(夫婦とも就業していない)に分けている。

(i) あなたの性別をお聞かせください。(〇は1つだけ)

1 女性	2 男性	3 その他
------	------	-------

(iii) あなたの雇用形態についてお尋ねします。(〇は1つだけ)

1 自営業主	2 家族従業者	3 会社などの役員
4 正社員(職員)	5 契約社員(職員)・派遣社員(職員)	
6 パート、アルバイト、嘱託	7 学生	8 家事専業
9 無職	10 その他( )	

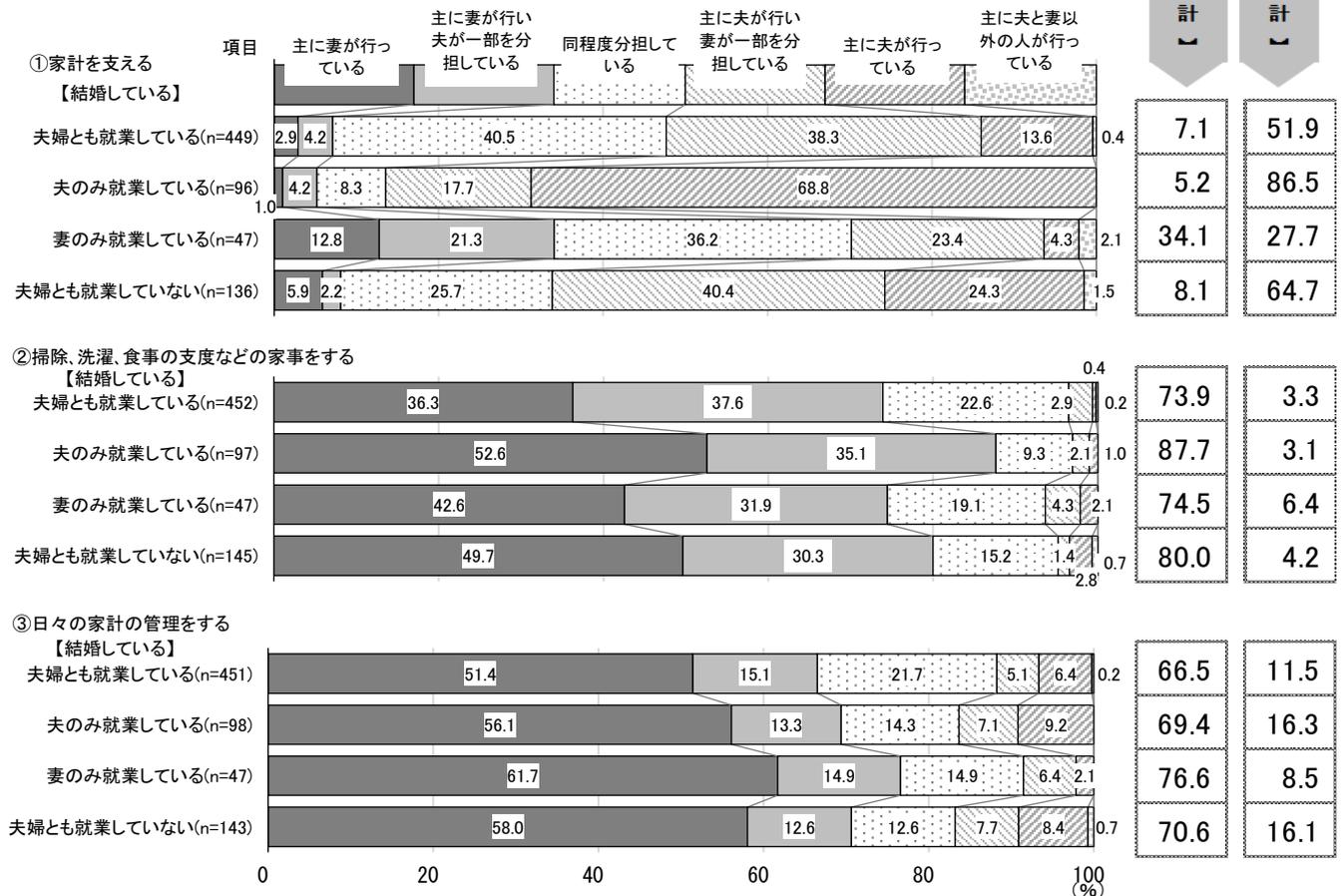
(iv) あなたは結婚されていますか。(結婚には、入籍していない事実婚も含みます。)(〇は1つだけ)

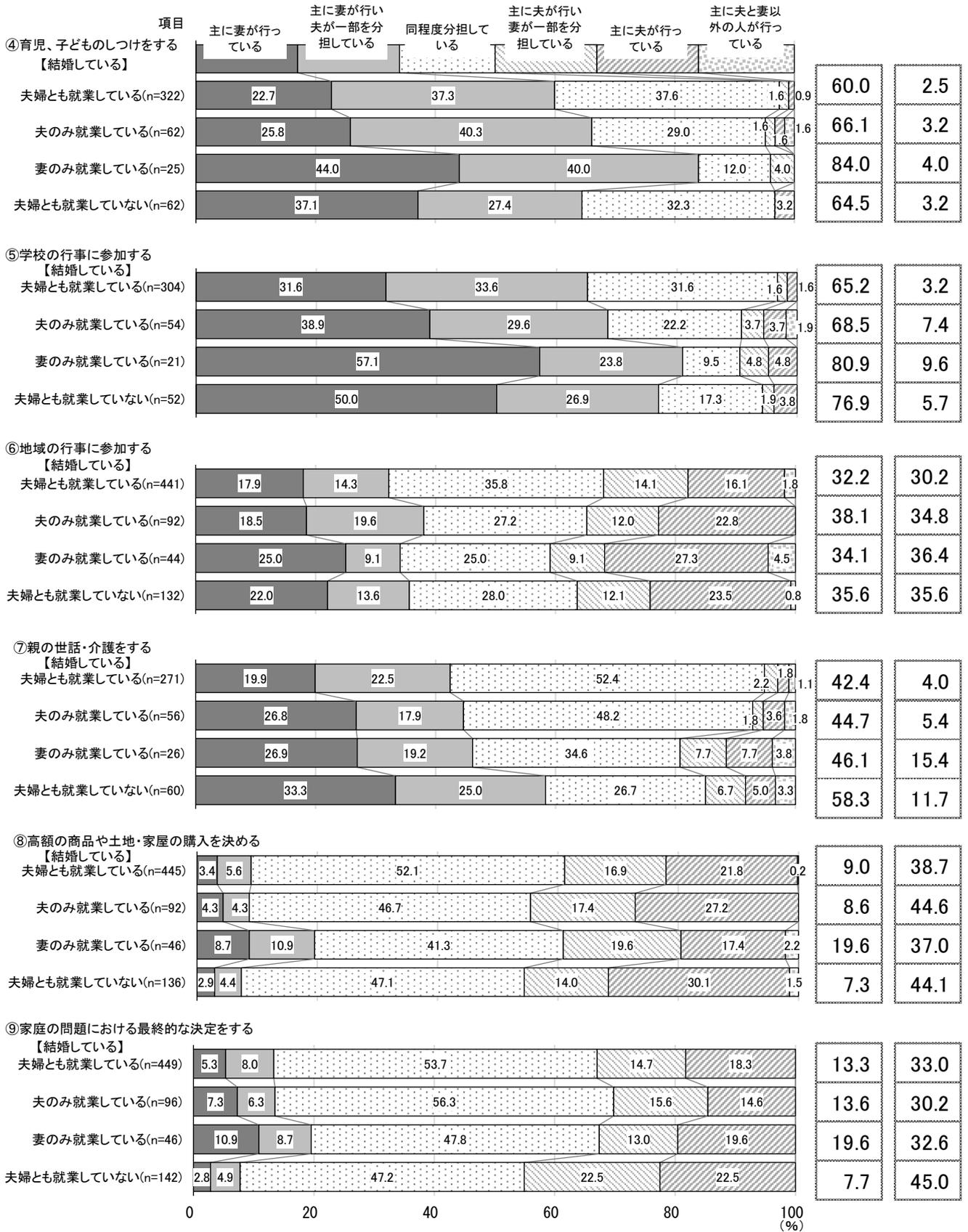
1 結婚している	2 離別・死別した	3 結婚していない
----------	-----------	-----------

(v) あなたの配偶者(パートナー)雇用形態についてお尋ねします。(〇は1つだけ)

1 自営業主	2 家族従業者	3 会社などの役員
4 正社員(職員)	5 契約社員(職員)・派遣社員(職員)	
6 パート、アルバイト、嘱託	7 学生	8 家事専業
9 無職	10 その他( )	

図表4-4 夫婦の役割分担状況(婚姻状況別)

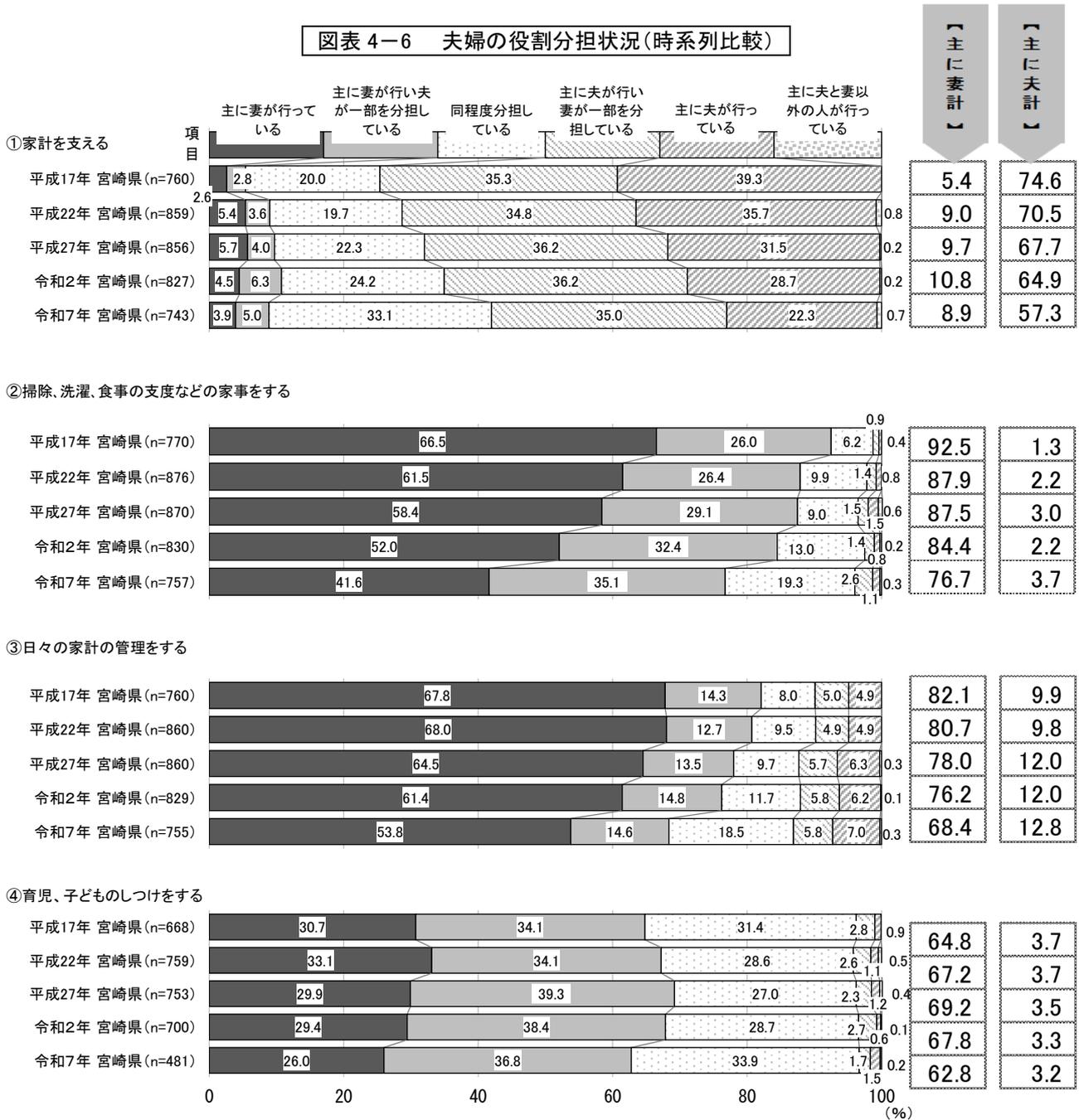


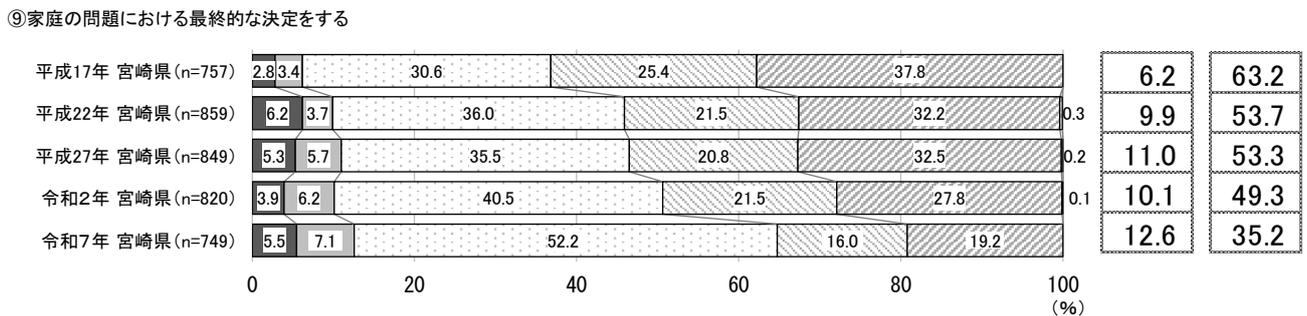
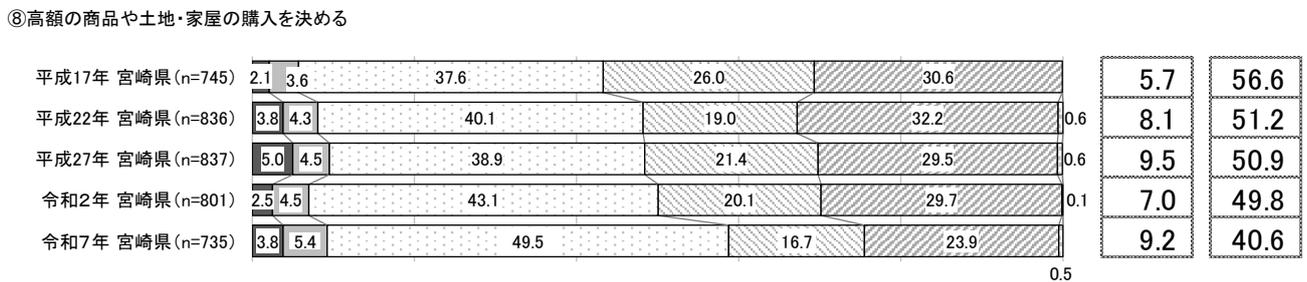
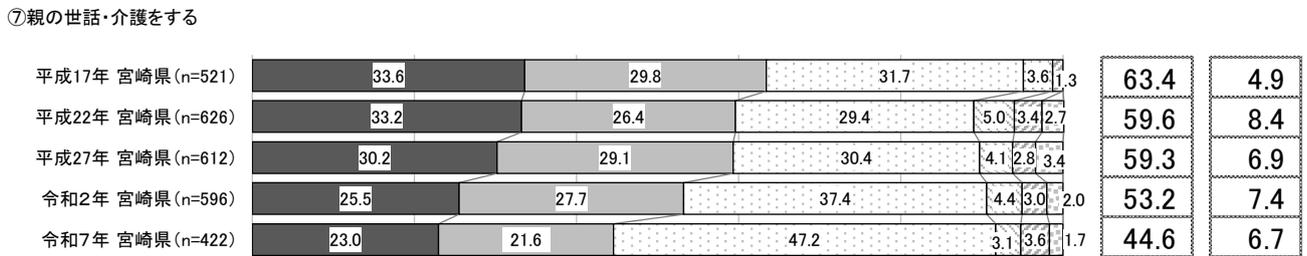
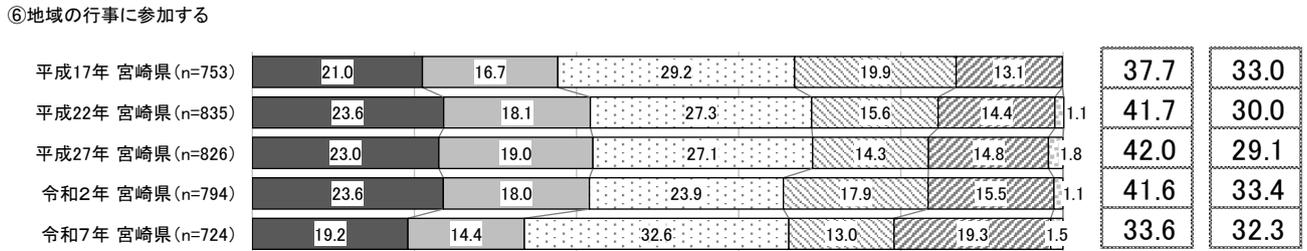
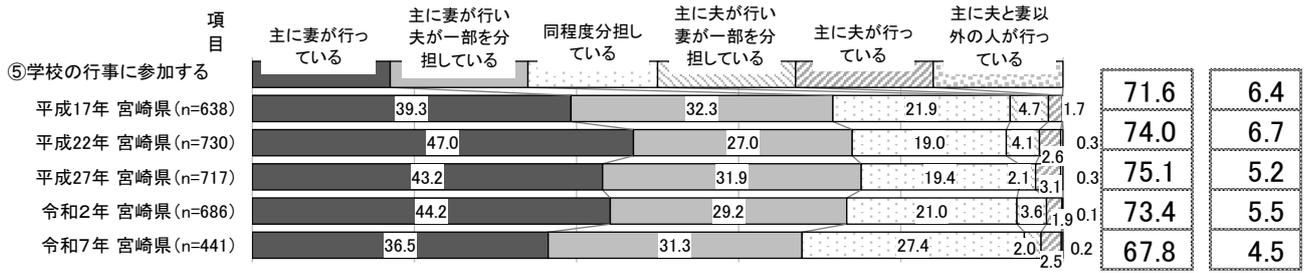


■ 時系列で比較すると、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「日々の家計の管理をする」、「親の世話・介護をする」では『主に妻計』が低下し、「家計を支える」、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」、「家庭の問題における最終的な決定をする」、「育児、子どものしつけをする」では『主に夫計』が低下している。

■ 「育児、子どものしつけをする」、「学校の行事に参加する」、「地域の行事に参加する」では『主に妻計』に大きな変化はみられない。

図表 4-6 夫婦の役割分担状況(時系列比較)





(5) 理想とする家庭生活での夫婦の役割分担

家庭生活での夫婦の役割について、理想としてどのように分担するのがよいとお考えですか。(〇はそれぞれ1つずつ)

理想とする夫婦の役割分担は、

夫婦が同程度分担は「親の世話・介護をする」、「学校の行事に参加する」、「育児、子どものしつけをする」

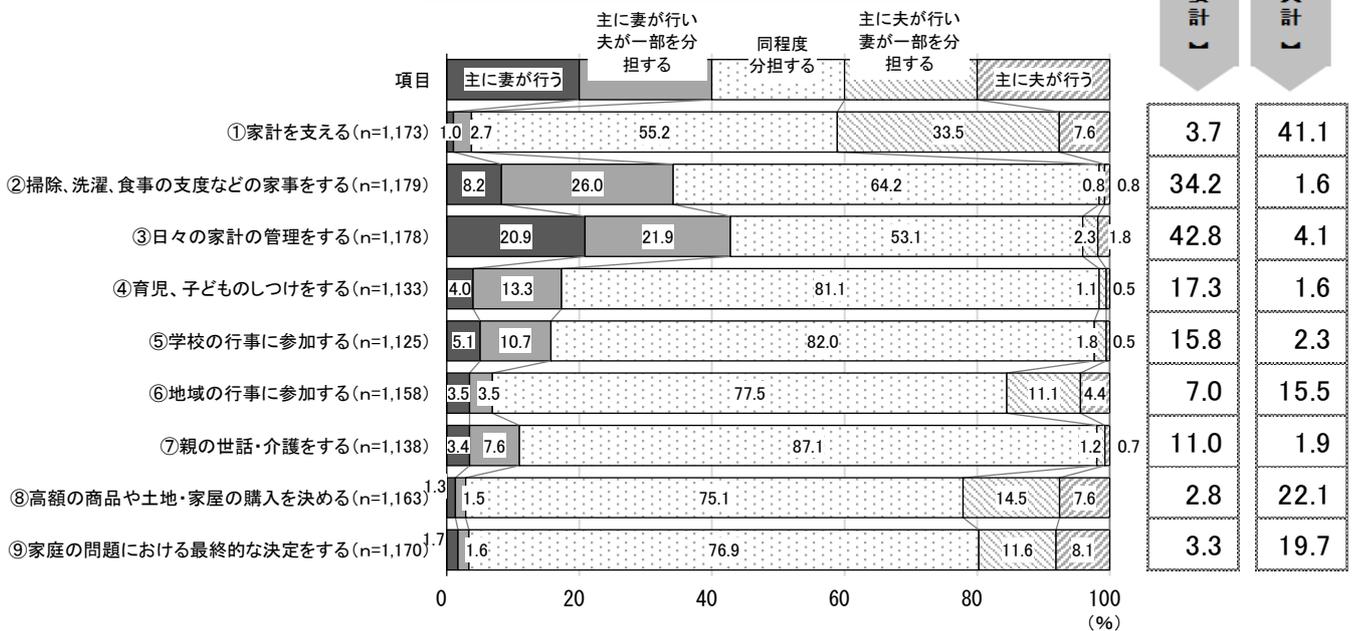
主に妻の分担として「日々の家計の管理をする」

主に夫の分担として「家計を支える」

全ての設問において、無回答の方を除いて割合を比較している。

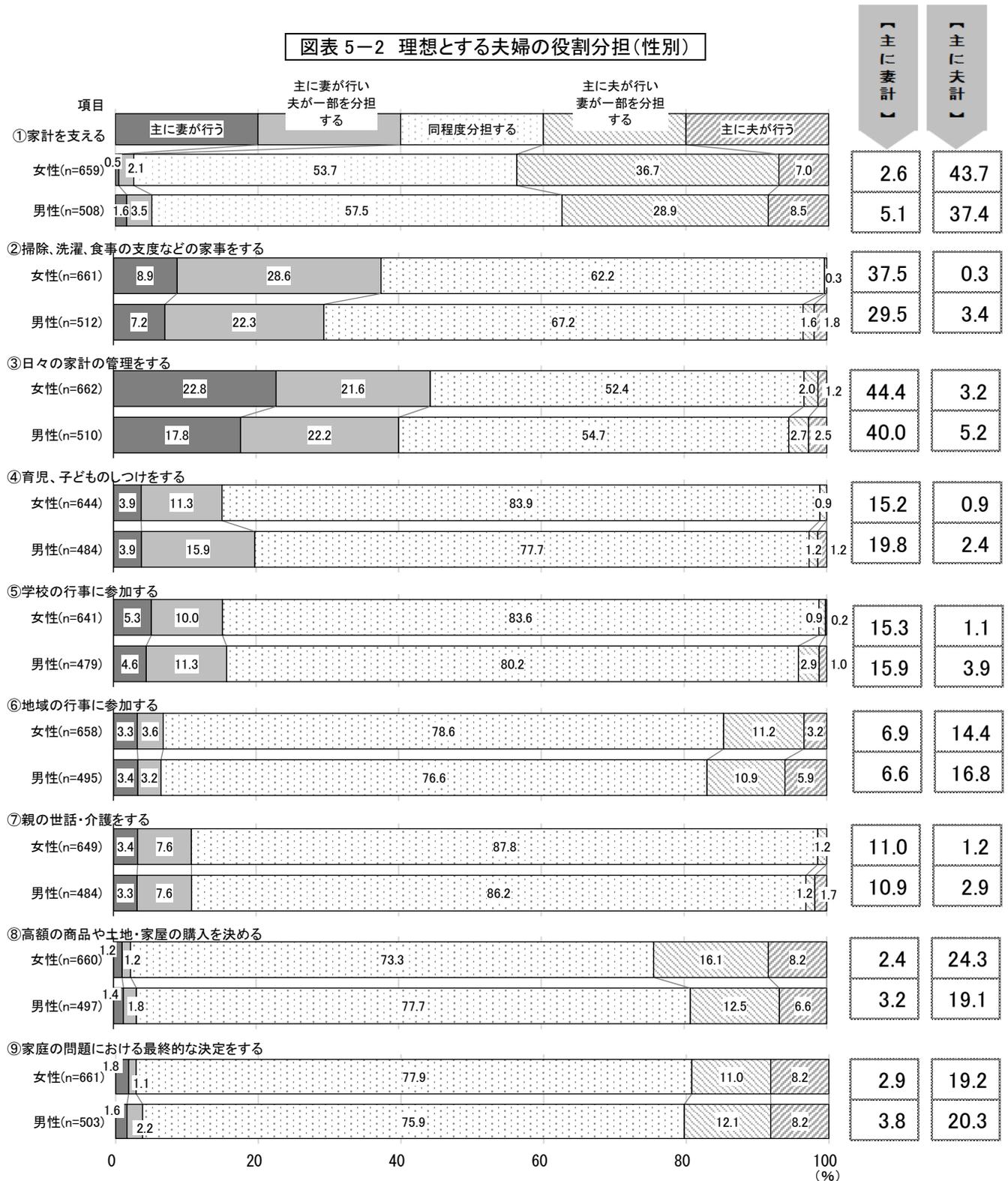
- 「同程度分担する」は、「親の世話・介護をする」が87.1%と最も高く、次いで「学校の行事に参加する」が82.0%、「育児、子どものしつけをする」が81.1%となっている。
- 『主に妻計』は、「日々の家計の管理をする」が42.8%と最も高く、『主に夫計』は、「家計を支える」が41.1%と最も高くなっている。

図表 5-1 理想とする夫婦の役割分担



■ 性別でみると、「日々の家計の管理をする」では、男女とも『主に妻計』が40%を超えている。

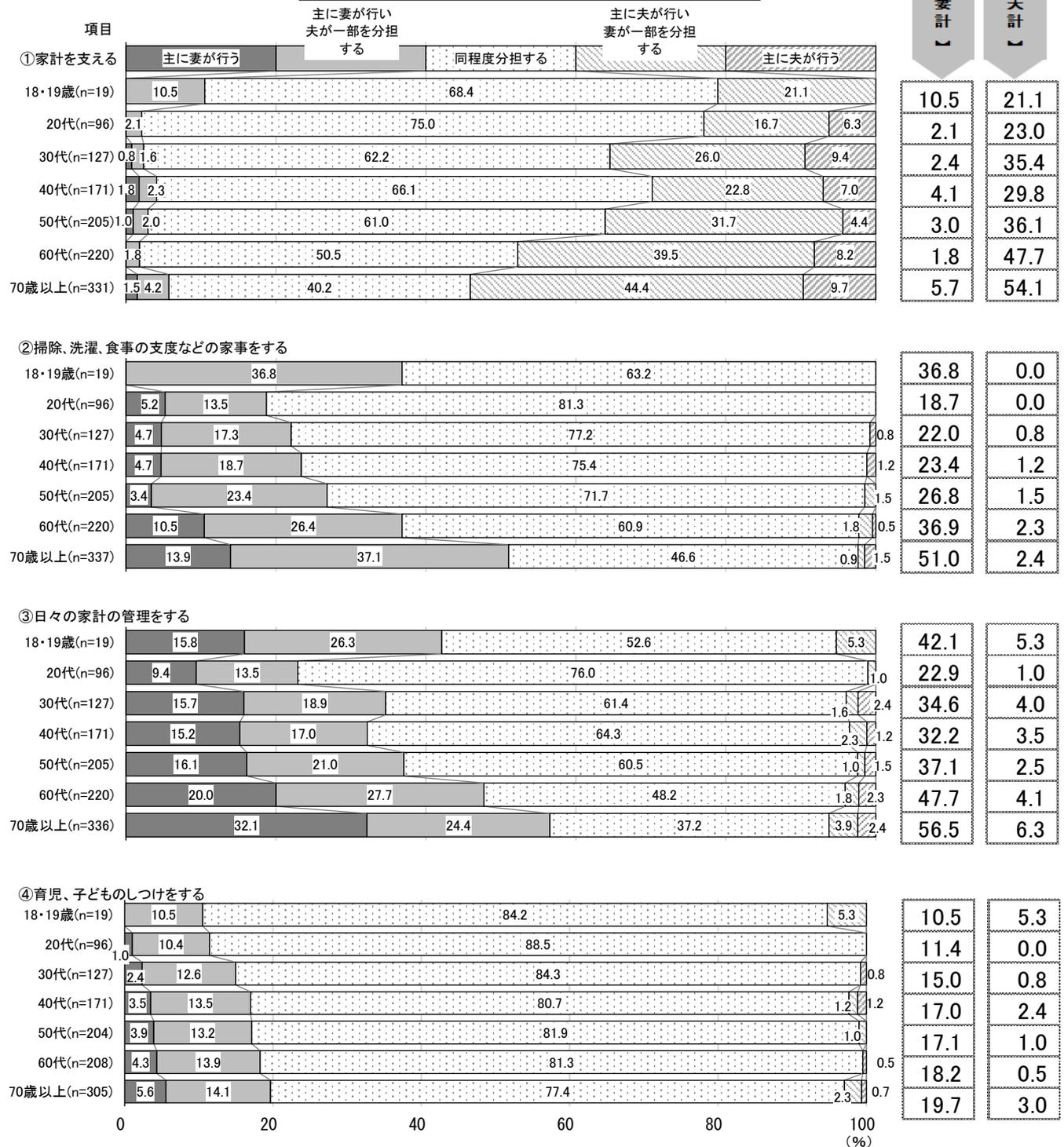
■ 『主に妻計』の男女差は、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」(女性37.5%、男性29.5%)が8.0ポイントと最も高く、『主に夫計』の男女差は「家計を支える」(女性43.7%、男性37.4%)が6.3ポイントと最も高くなっている。

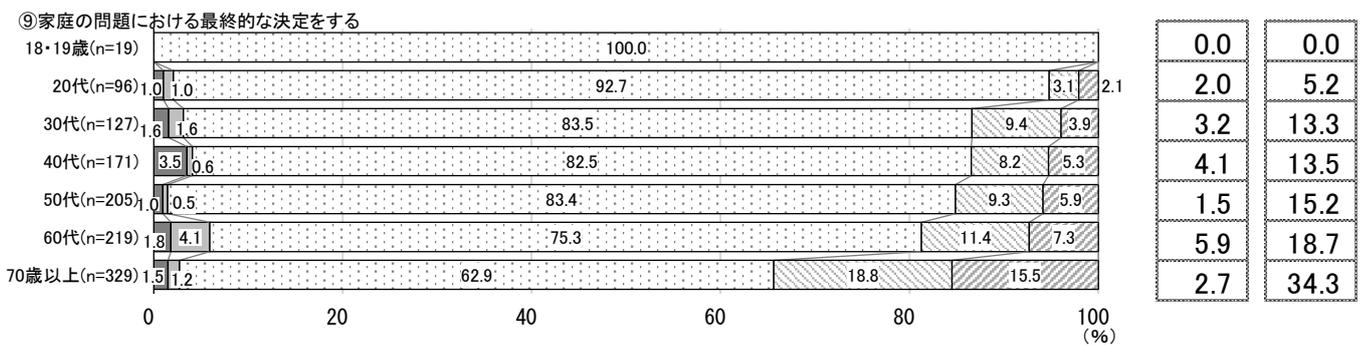
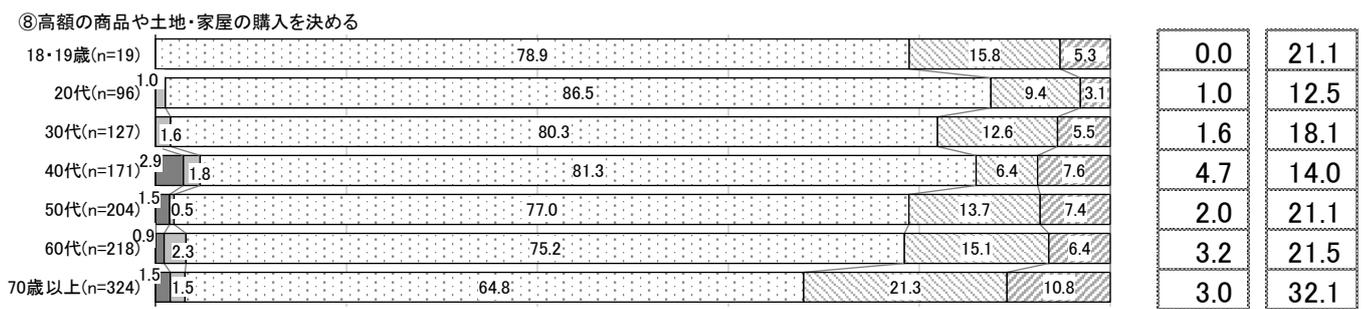
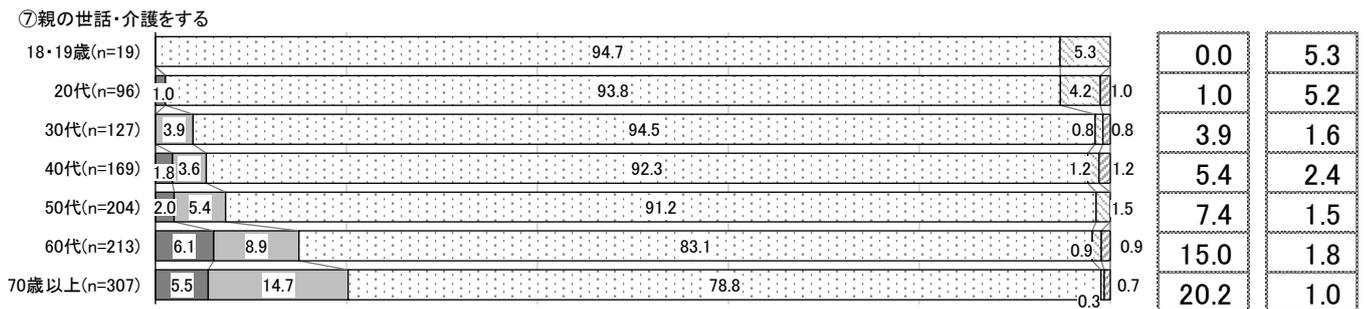
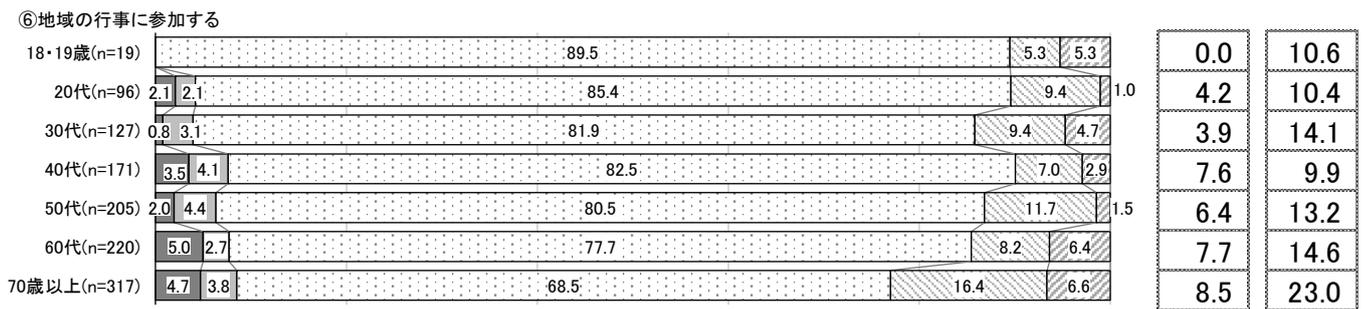
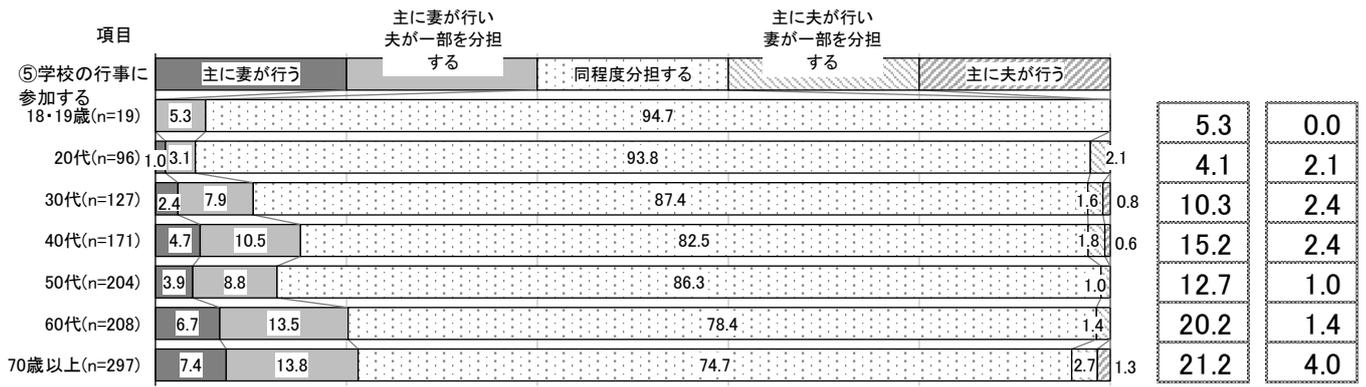


■ 年代別でみると、「日々の家計の管理をする」では、20代を除いた全ての年代において『主に妻計』が30%を超えている。

■ 「育児、子どものしつけをする」、「学校の行事に参加する」、「親の世話・介護をする」では、年齢が上がるにつれ、『主に妻計』が高い傾向にあり、「家計を支える」、「家庭の問題における最終的な決定をする」では、年齢が上がるにつれ、『主に夫計』が高い傾向にある。

図表 5-3 理想とする夫婦の役割分担(年代別)

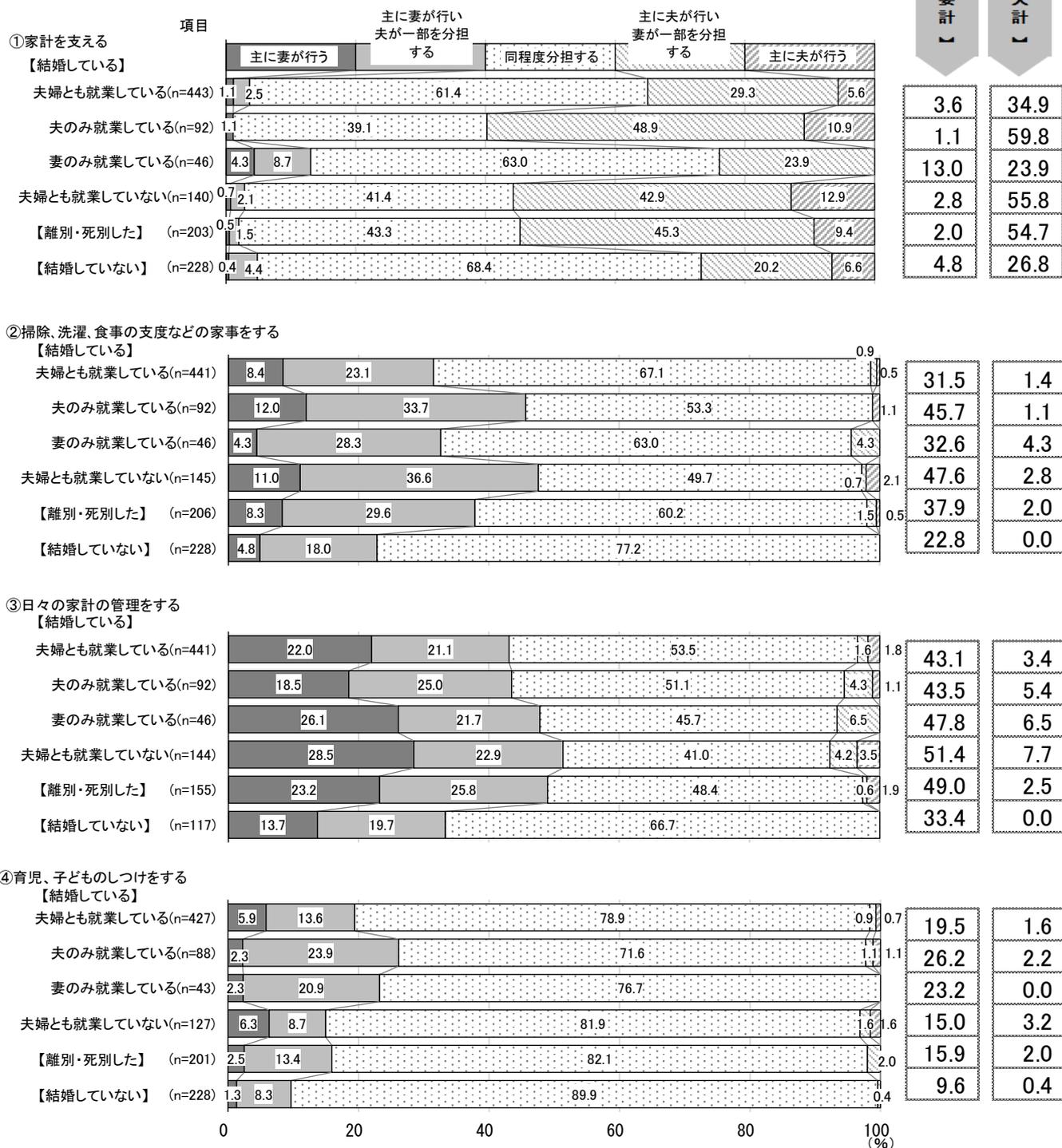


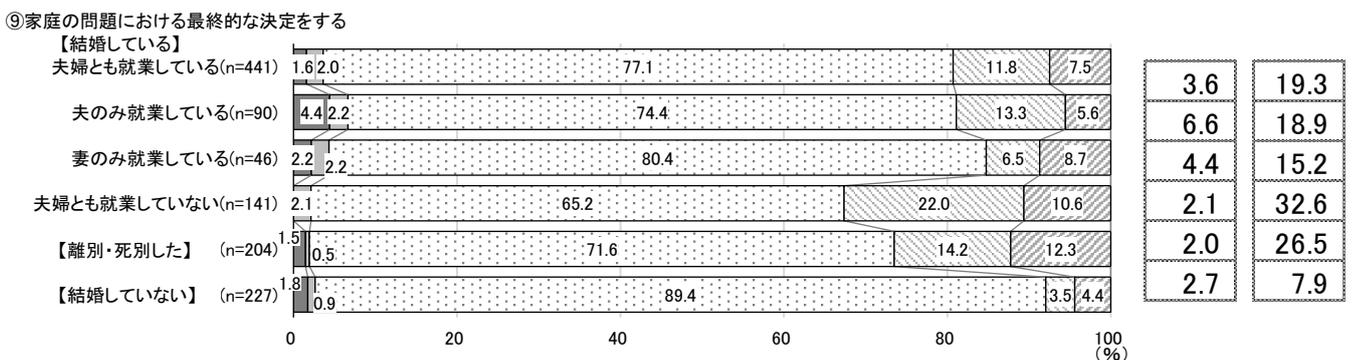
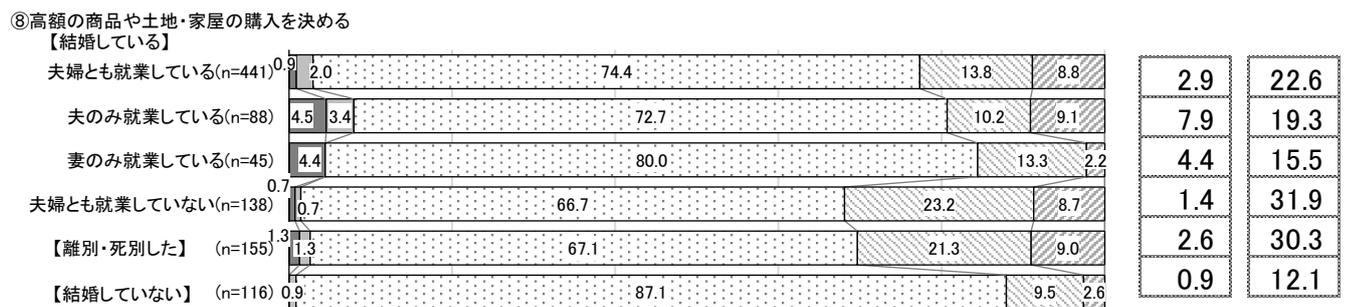
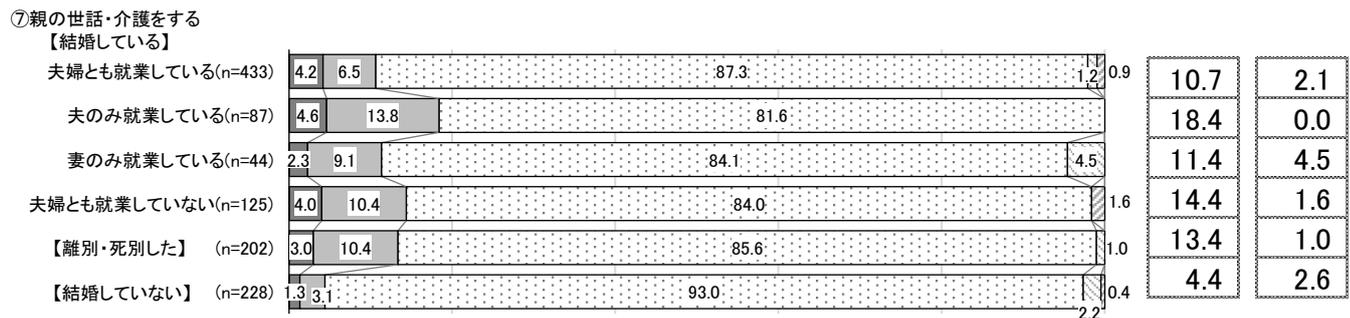
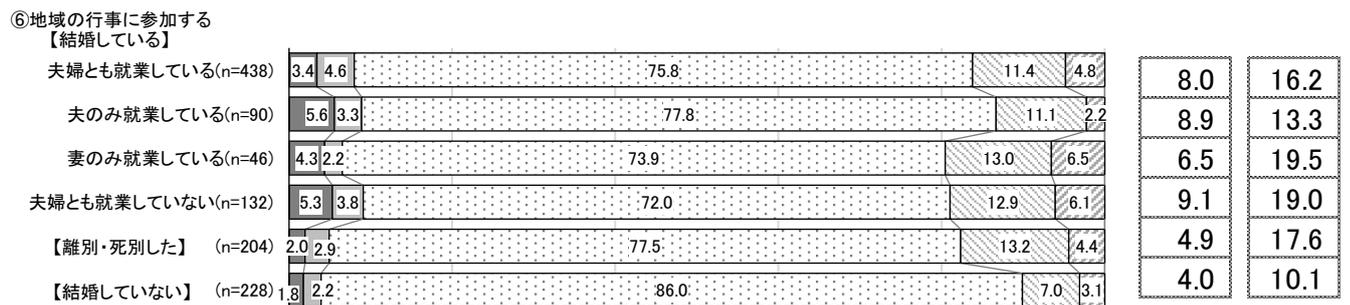
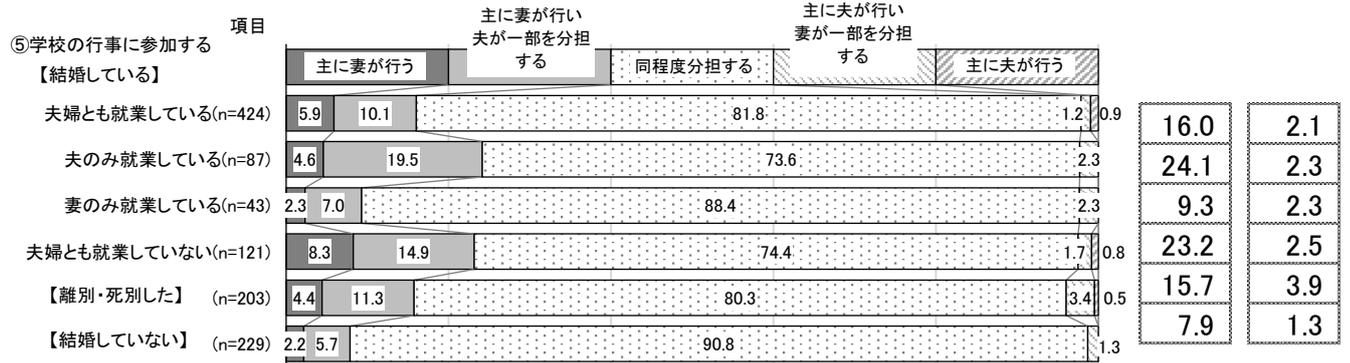


■ **婚姻状況別**でみると、「育児、子どものしつけをする」、「学校の行事に参加する」、「地域の行事に参加する」、「親の世話・介護をする」では、婚姻状況に関わらず「同程度分担する」が70%を超えている。

■ 「夫婦ともに就業している」と「夫のみ就業している」における『主に妻計』の割合差は、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」（夫婦ともに就業している31.5%、夫のみ就業している45.7%）で14.2ポイントと最も高くなっている。

図表 5-4 理想とする夫婦の役割分担(婚姻状況別)

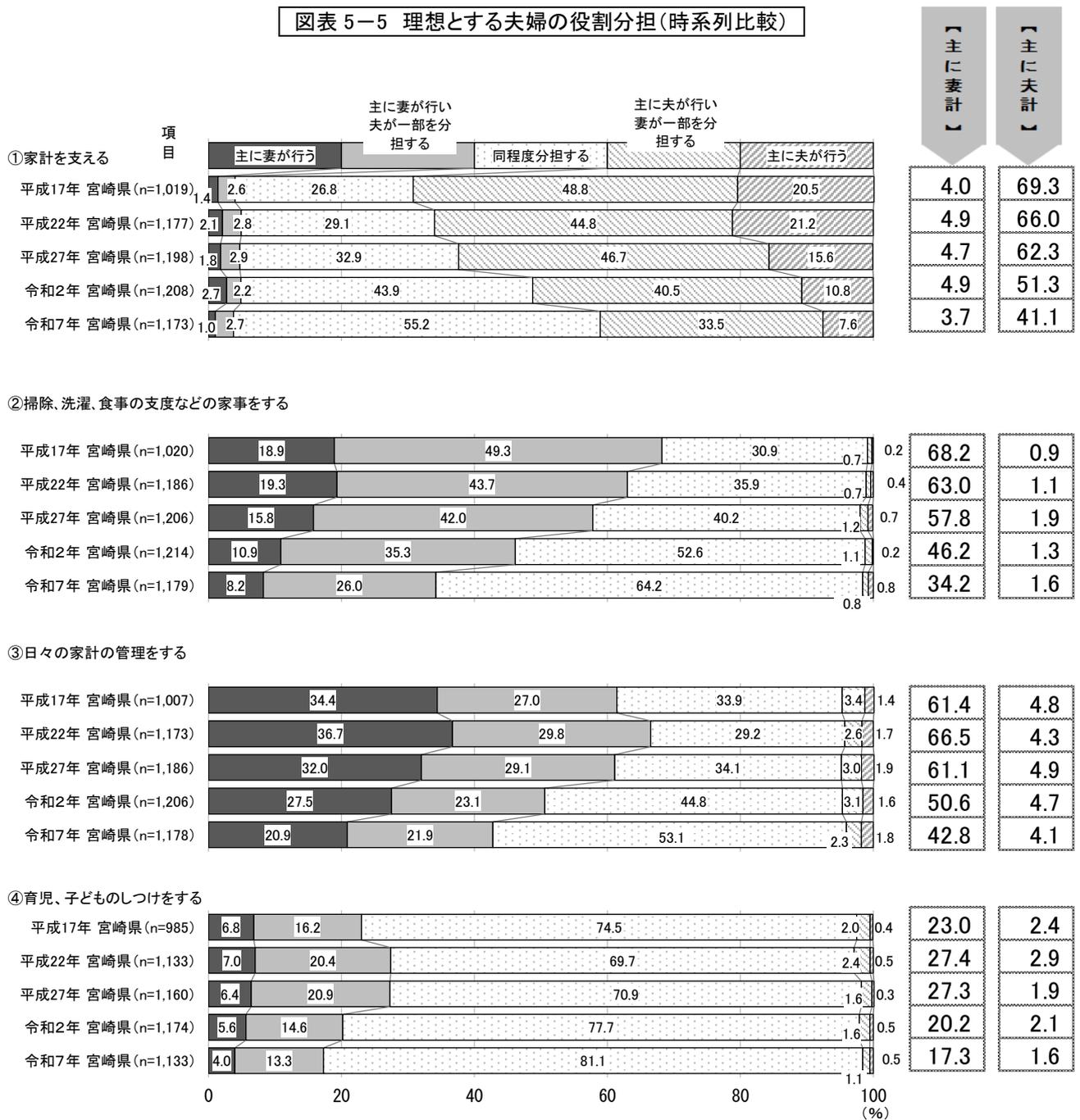


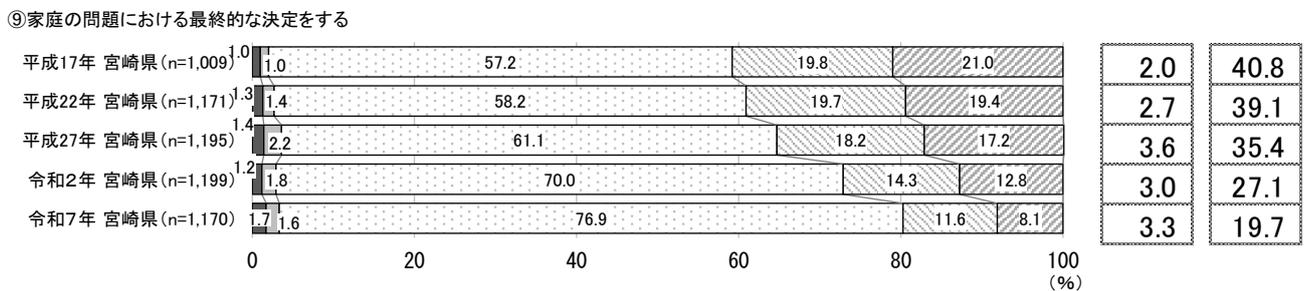
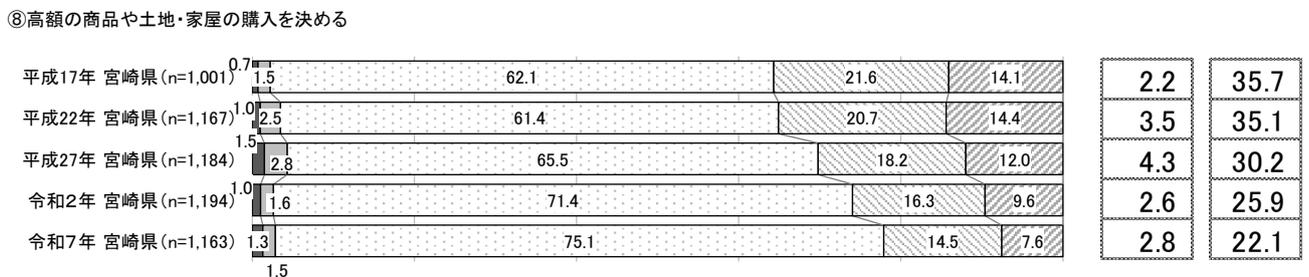
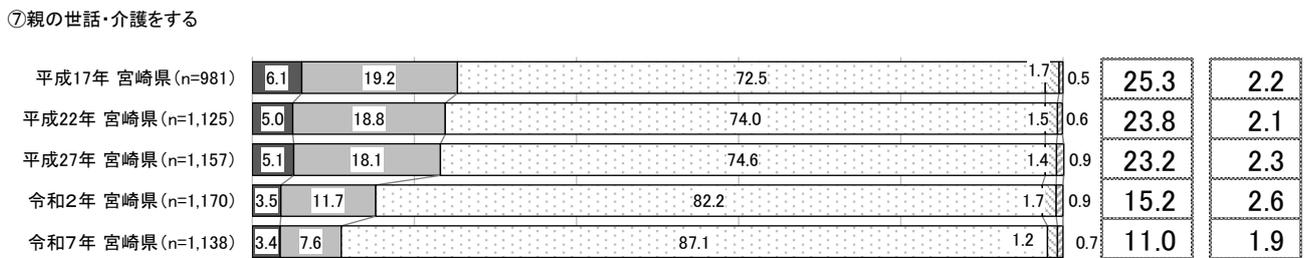
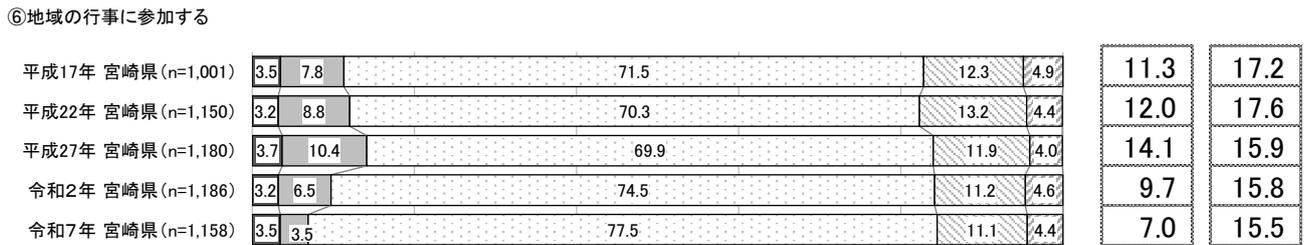
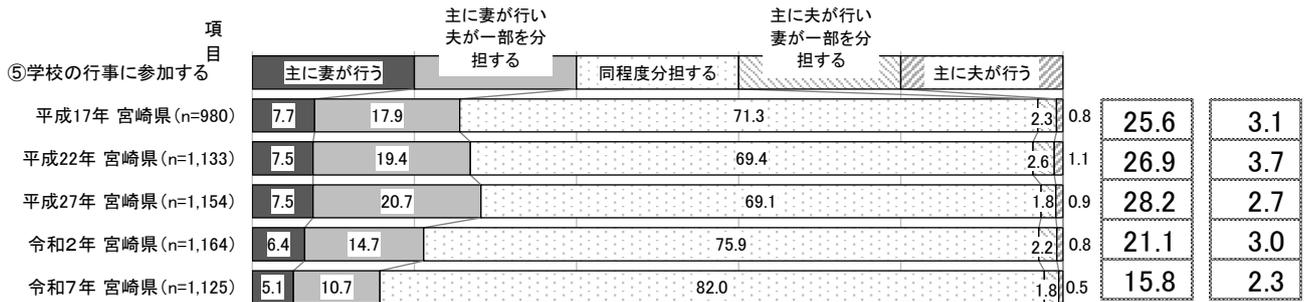


■ **時系列**で比較すると、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事をする」、「日々の家計の管理をする」、「育児、子どものしつけをする」、「親の世話・介護をする」では『主に妻計』が低下傾向にあり、「家計を支える」、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」、「家庭の問題における最終的な決定をする」では『主に夫計』が低下傾向にある。

■ 全ての項目において、「同程度分担する」が最も高く、上昇傾向にある。

図表 5-5 理想とする夫婦の役割分担(時系列比較)

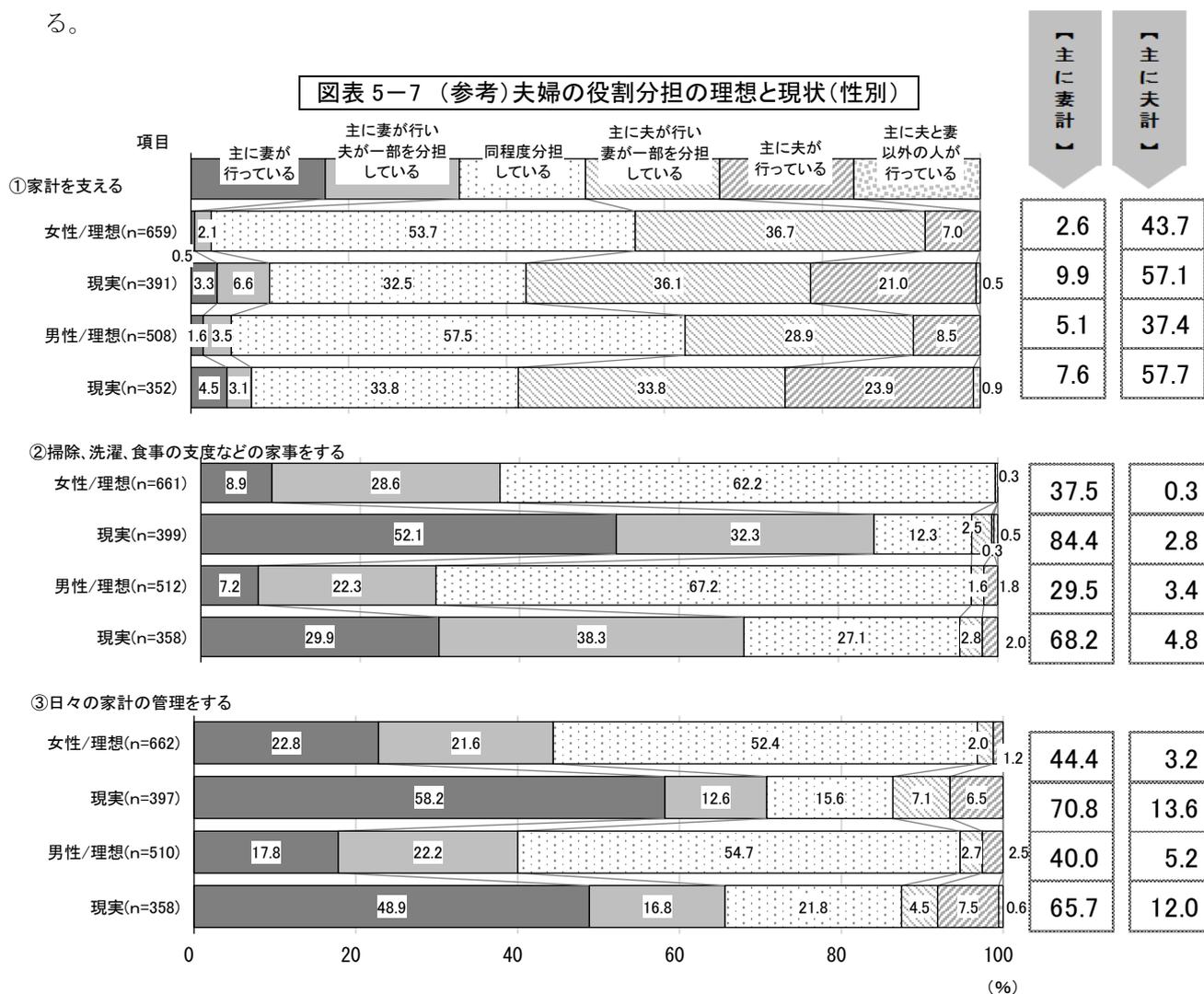


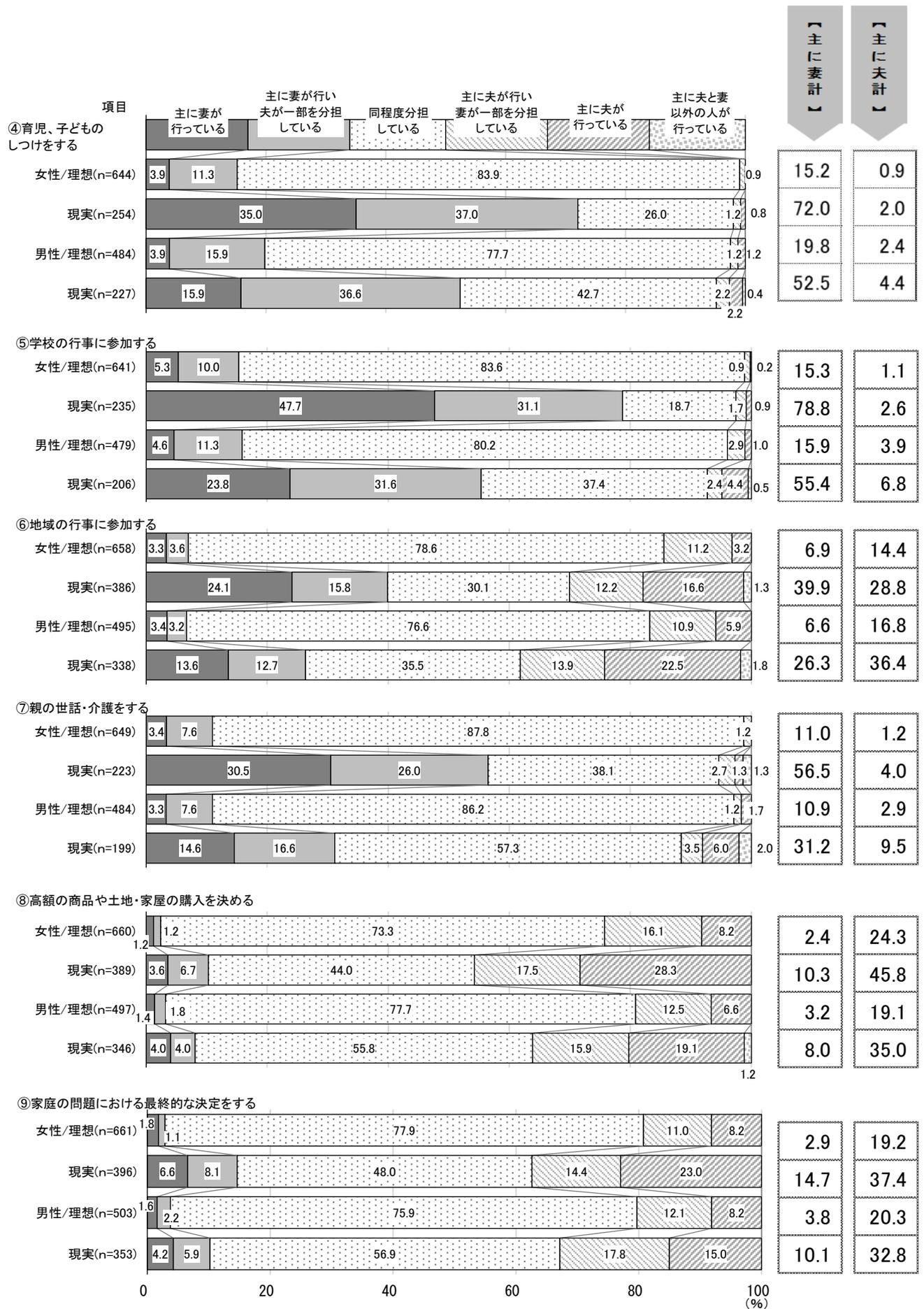


(参考) 家庭生活での夫婦の役割分担の理想と現状

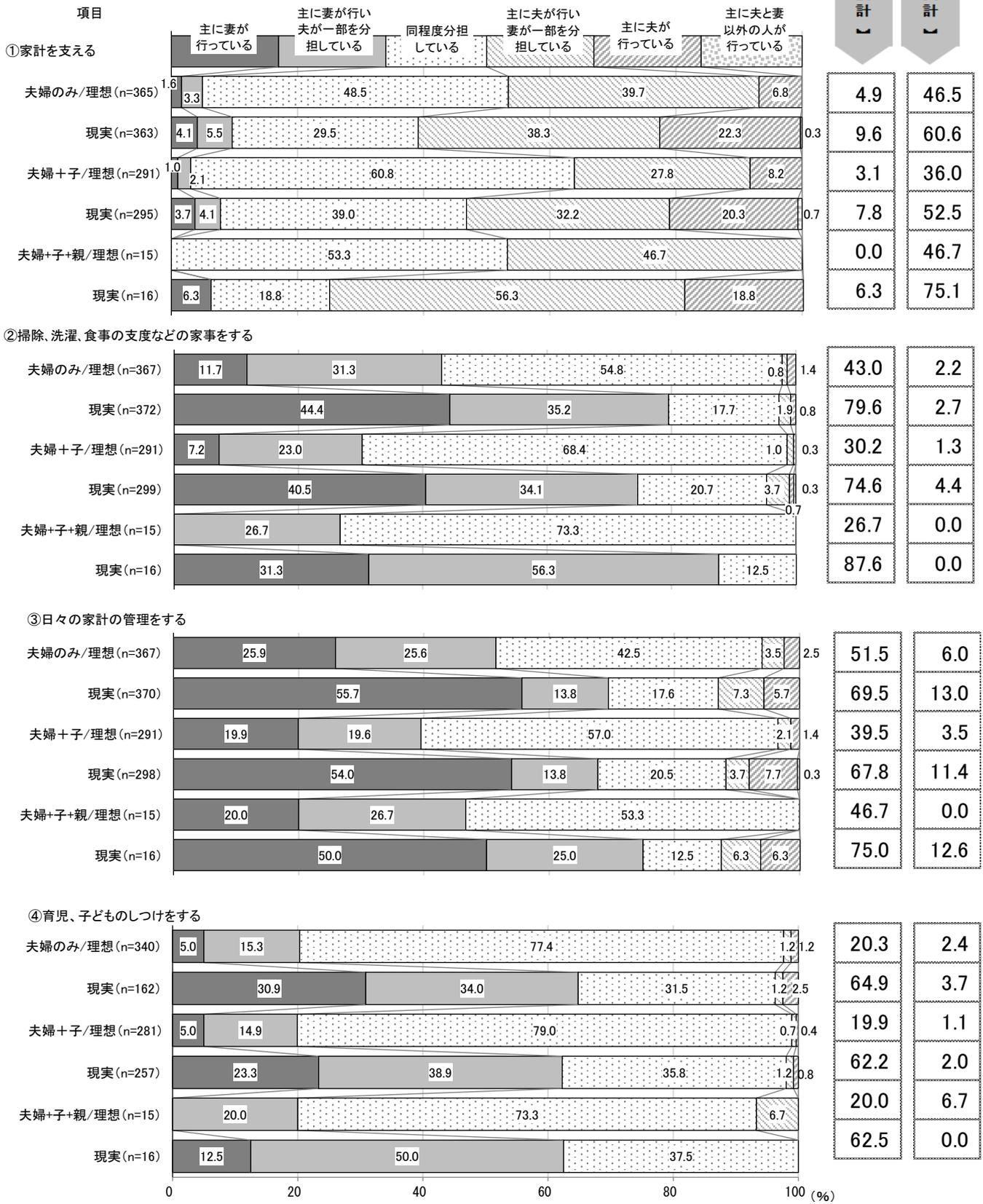
「同程度分担している」の理想と現実の割合差は、  
男女ともに「学校の行事に参加する」が最も大きい

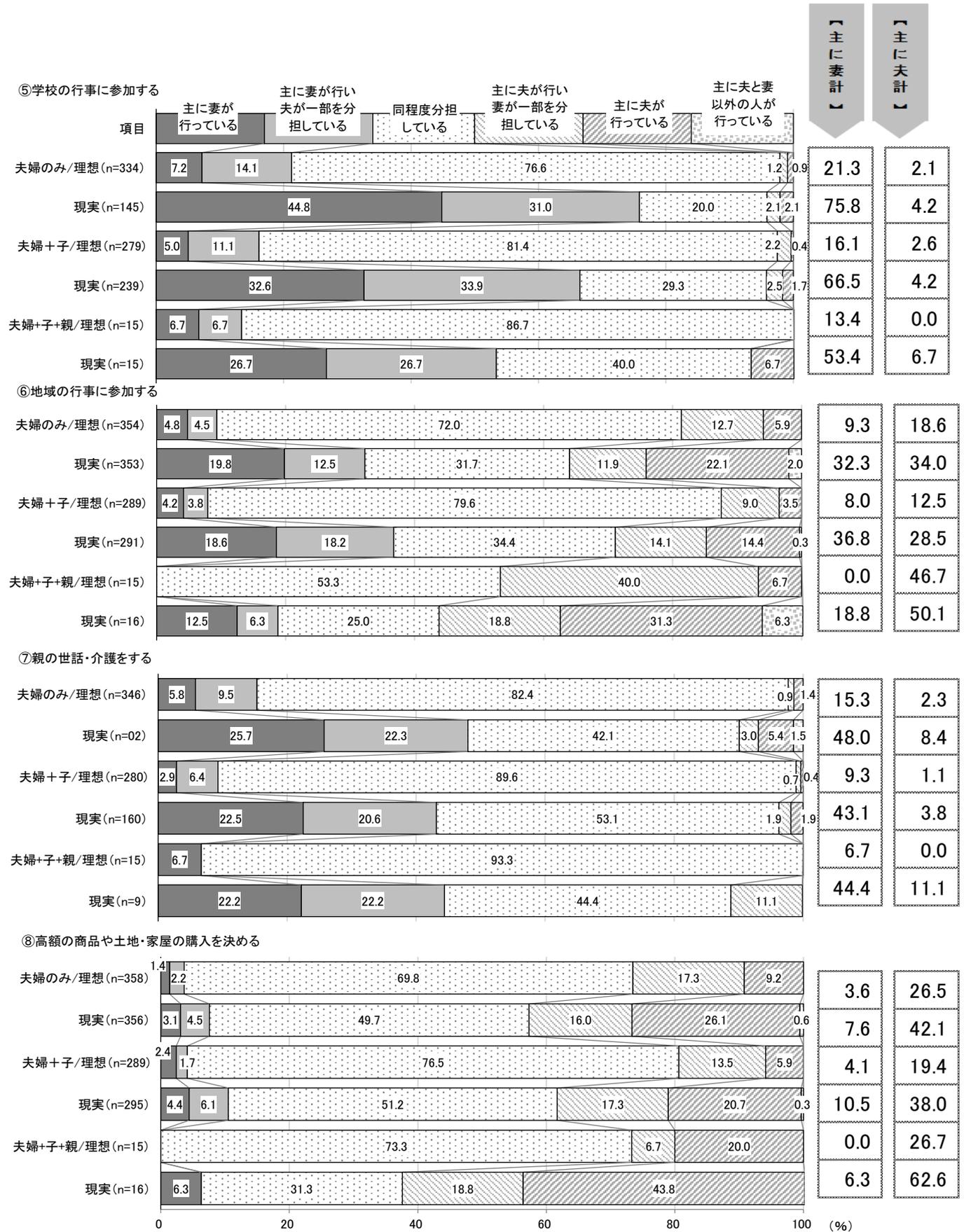
- 「同程度分担している」の理想と現実の割合差は、女性では「学校の行事に参加する」(理想 83.6%、現実 18.7%) が 64.9 ポイントと最も高く、次いで「育児、子どものしつけをする」(理想 83.9%、現実 26.0%) が 57.9 ポイントとなっている。男性では、「学校の行事に参加する」(理想 80.2%、現実 37.4%) が 42.8 ポイントと最も高く、「地域の行事に参加する」(理想 76.6%、現実 35.5%) が 41.1 ポイントとなっている。



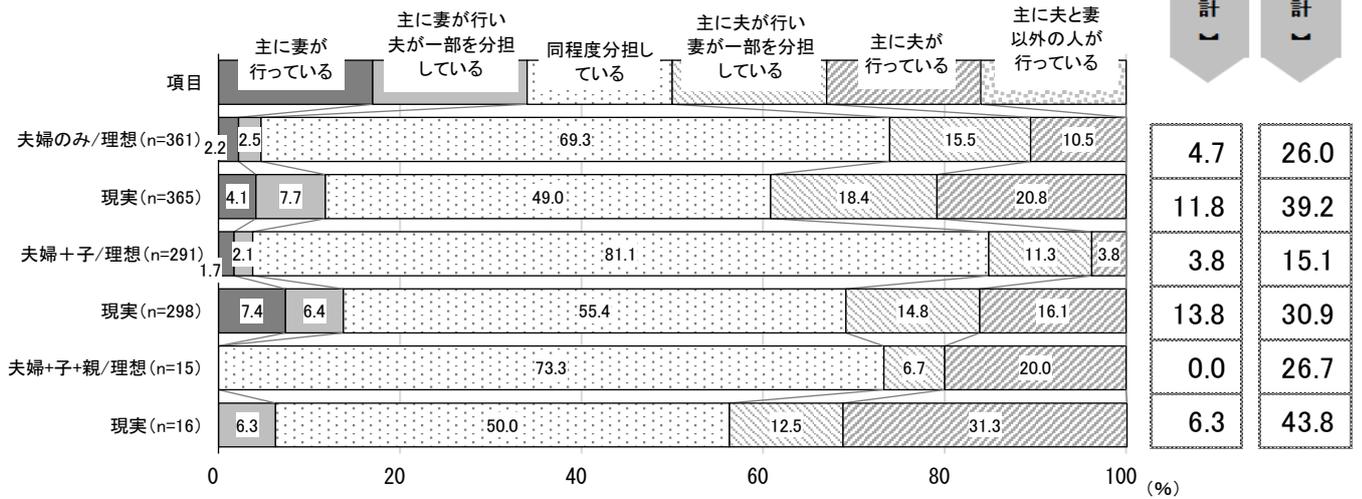


図表 5-8 (参考) 夫婦の役割分担の理想と現状(同居の家族)

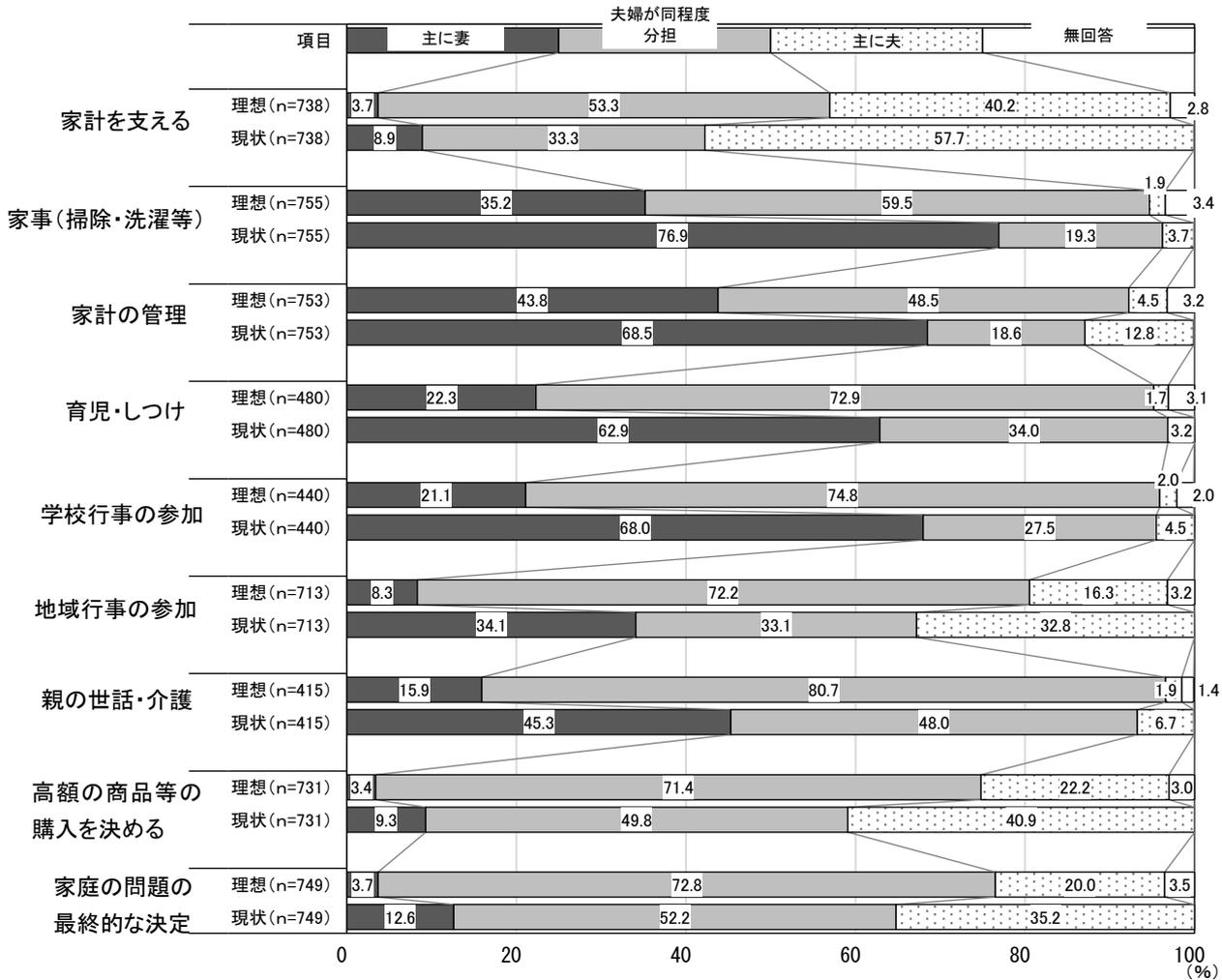




⑨家庭の問題における最終的な決定をする



図表 5-9 (参考) 夫婦の役割分担の理想と現状(全体)



※図表 5-9 の『理想』の集計対象は『現状』を回答した人のみとしている(『現状』は「主に夫と妻以外の人が行っている」、「対象がない」、「無回答」の人を除く)

(6) 子どものしつけや教育について

あなたは次の①～③にあげるような子どものしつけや教育に対する考えについて、どのようにお考えですか。(〇はそれぞれ1つずつ)

子どものしつけや教育については、

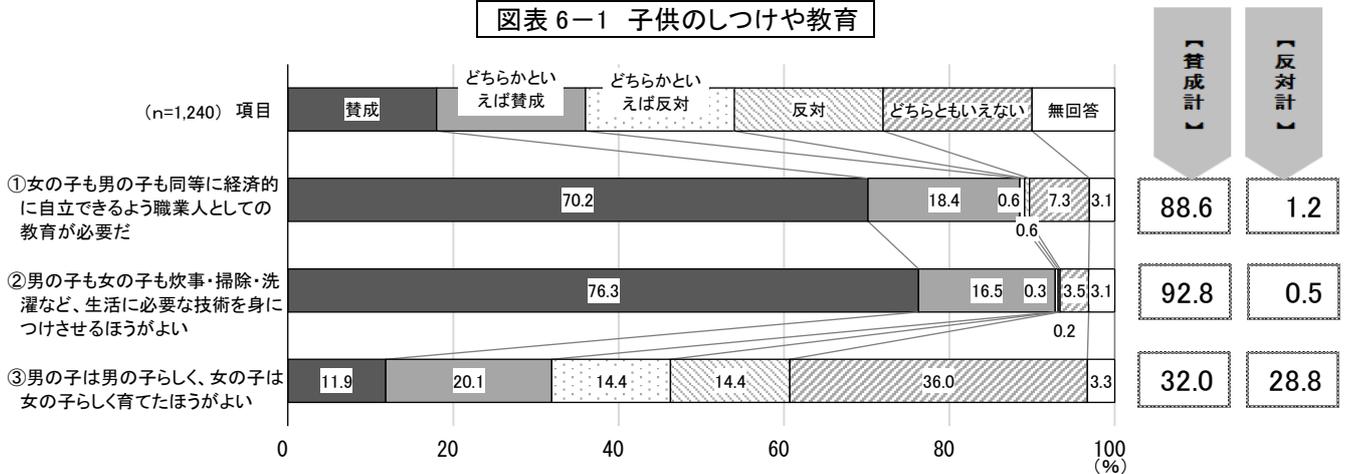
「女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」、

「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい」については賛成が約9割

「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」については賛成が3割強、反対が3割弱

- 「女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」、「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい」では、『賛成計』は約90%となっている。
- 「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」では、『賛成計』は32.0%、『反対計』は28.8%となっている。

図表 6-1 子供のしつけや教育

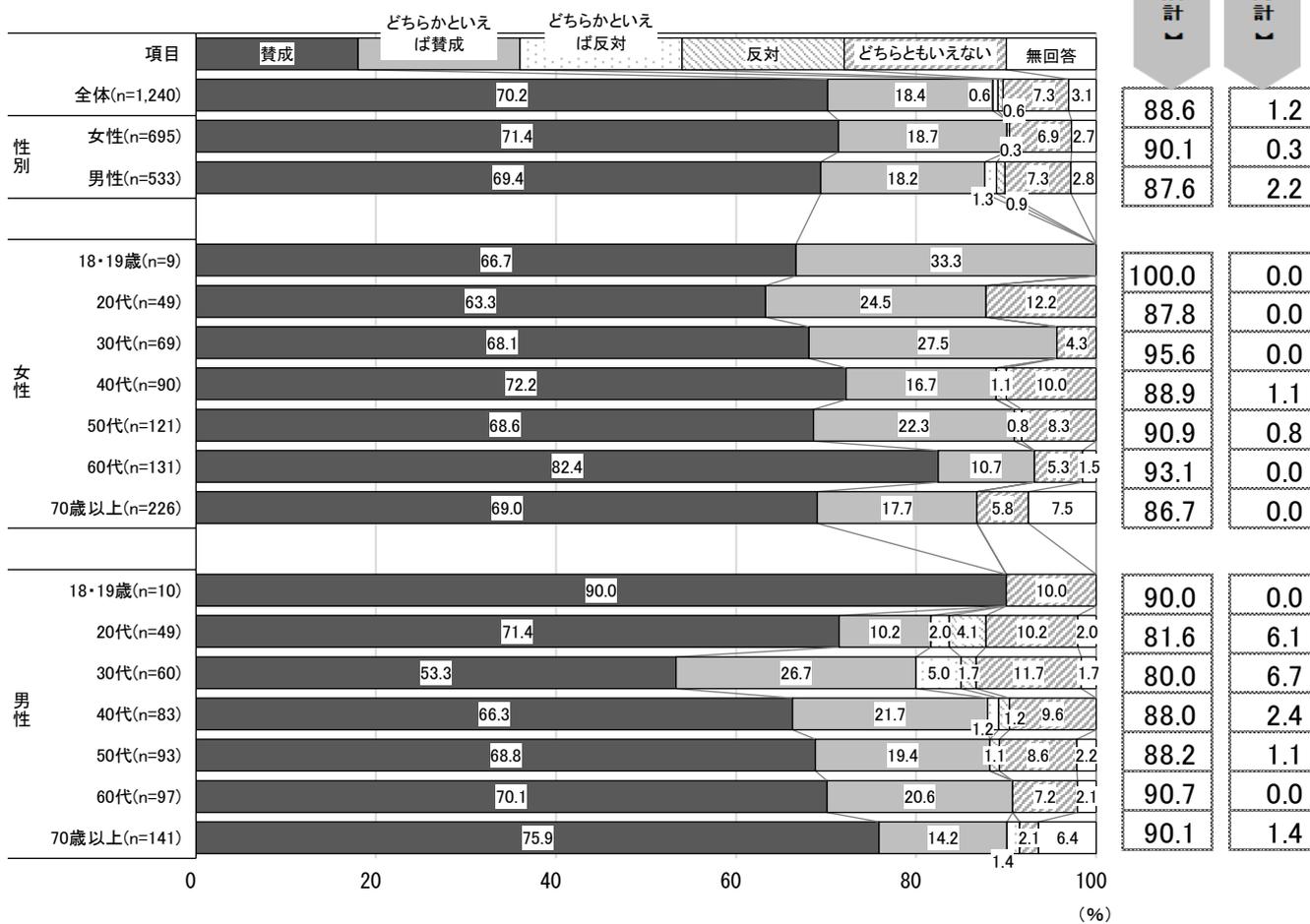


① 女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ

～『賛成意見』が女性では9割、男性では9割弱

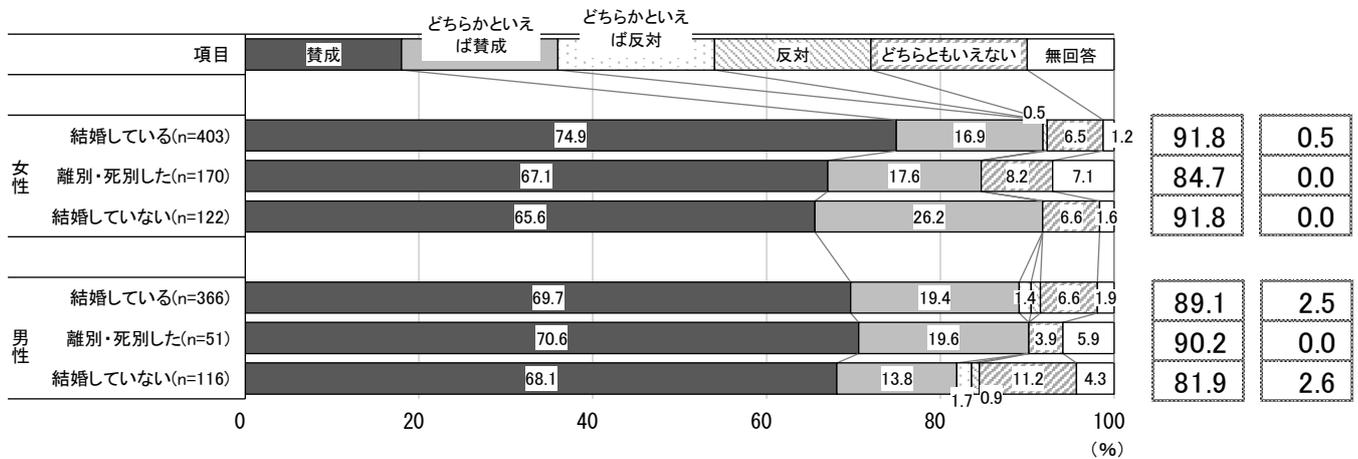
- 全体では、『賛成計』が88.6%、『反対計』が1.2%となっている。
- 性別で見ると、『賛成計』は、女性が90.1%、男性が87.6%となっており、女性の方が2.5ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、30代、50～60代女性と、60代以上男性で『賛成計』が90%を超えている。

図表 6-①-1 職業人としての教育が必要(性別・年代別)



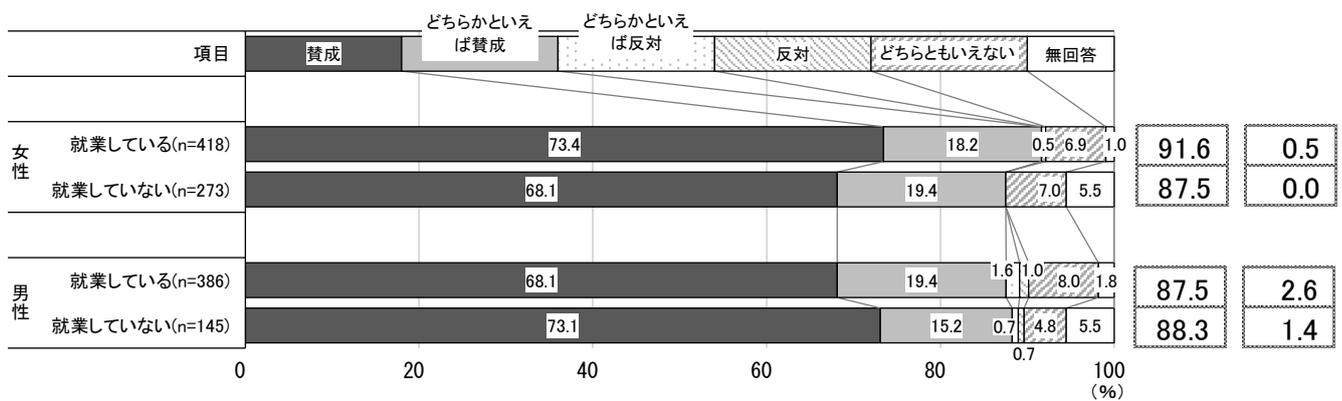
- **性別・婚姻状況別**でみると、『賛成計』は男女とも婚姻状況に関わらず高くなっており、『反対計』は3%未満となっている。

図表 6-①-2 職業人としての教育が必要(性別・婚姻状況別)



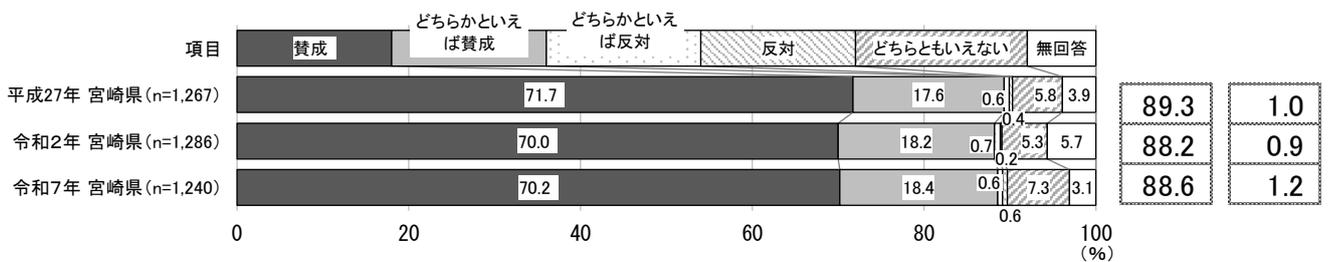
- **性別・就業状況別**でみると、『賛成計』は、女性では就業している人(91.6%)の方が就業していない人(87.5%)より高く、男性では就業していない人(88.3%)の方が就業している人(87.5%)より高くなっている。

図表 6-①-3 職業人としての教育が必要(性別・就業状況別)



- **時系列**で比較すると、『賛成計』は、平成27年調査では89.3%、令和2年調査では88.2%、今回調査では88.6%となっている。

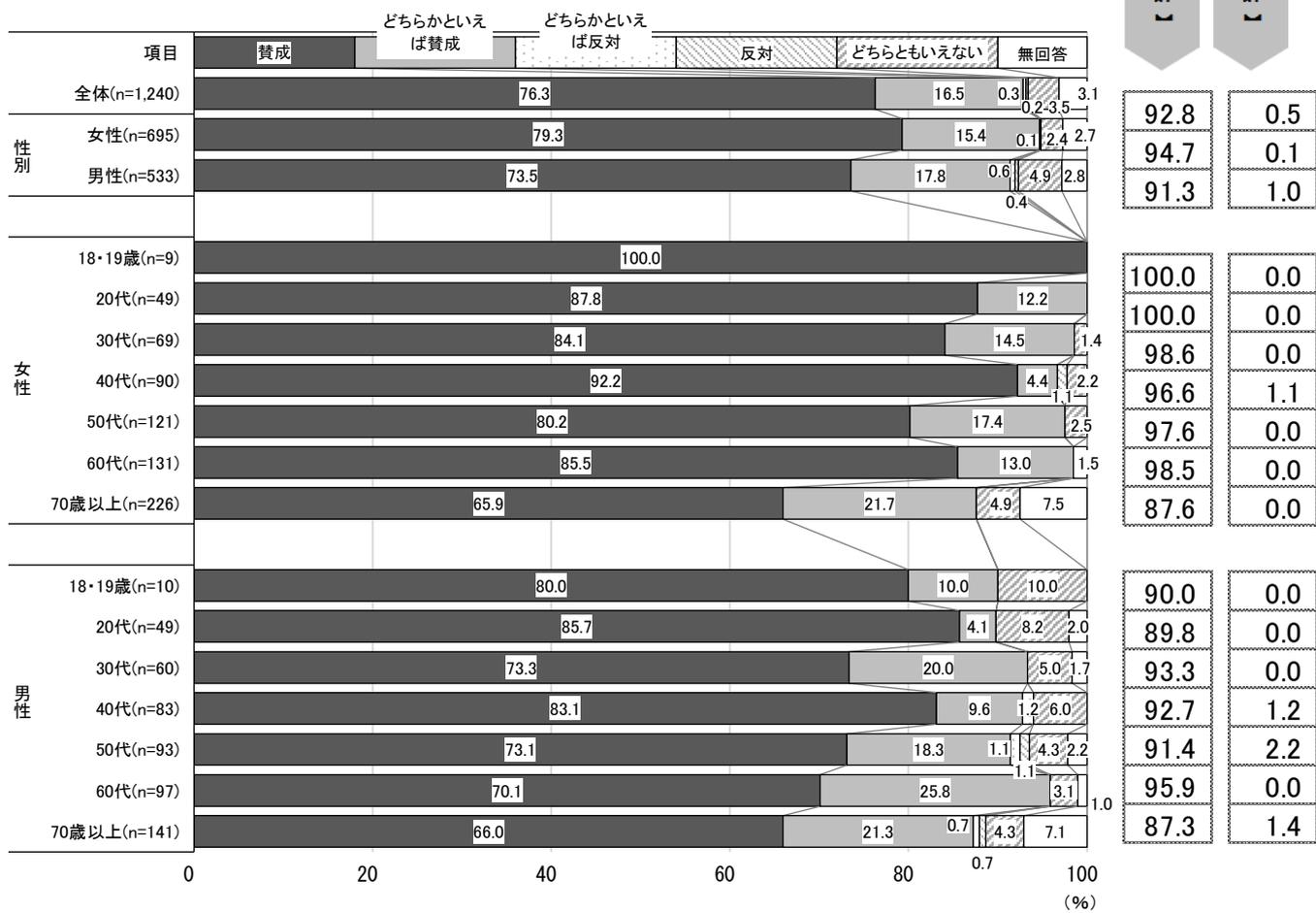
図表 6-①-4 職業人としての教育が必要(時系列比較)



② 男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい  
 ～『賛成意見』が女性も男性も9割強

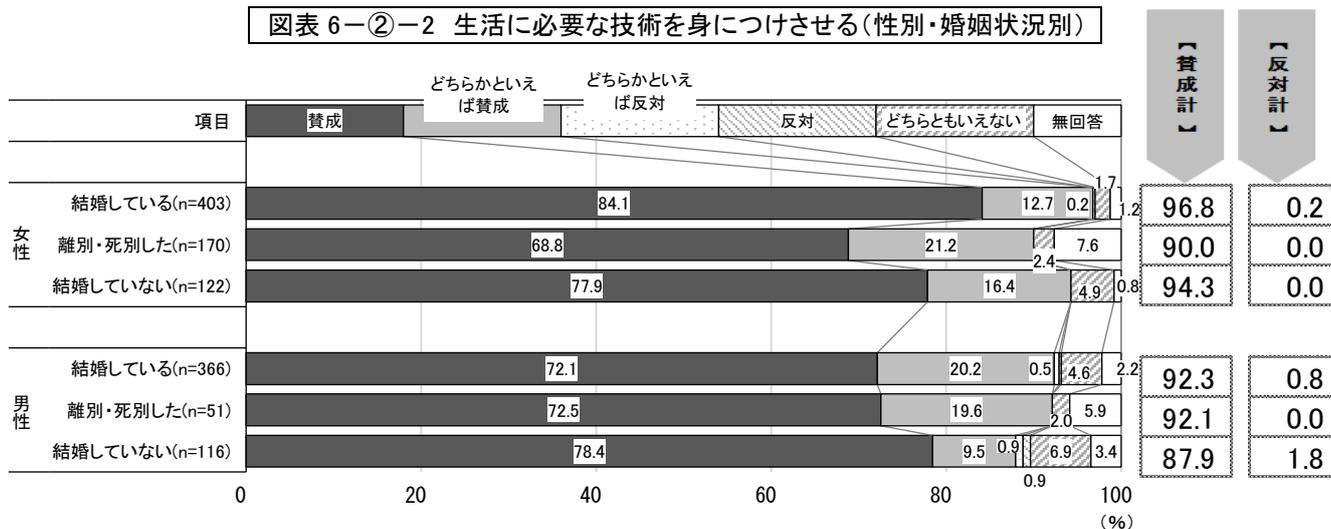
- 全体では、『賛成計』が92.8%、『反対計』が0.5%となっている。
- 性別で見ると、『賛成計』は女性が94.7%、男性が91.3%となっており、女性の方が3.4ポイント高くっている。
- 性別・年代別で見ると、『賛成計』は20代女性では100%、30～60代女性、30～60代男性で90%を超えている。

図表 6-②-1 生活に必要な技術を身につけさせる(性別・年代別)



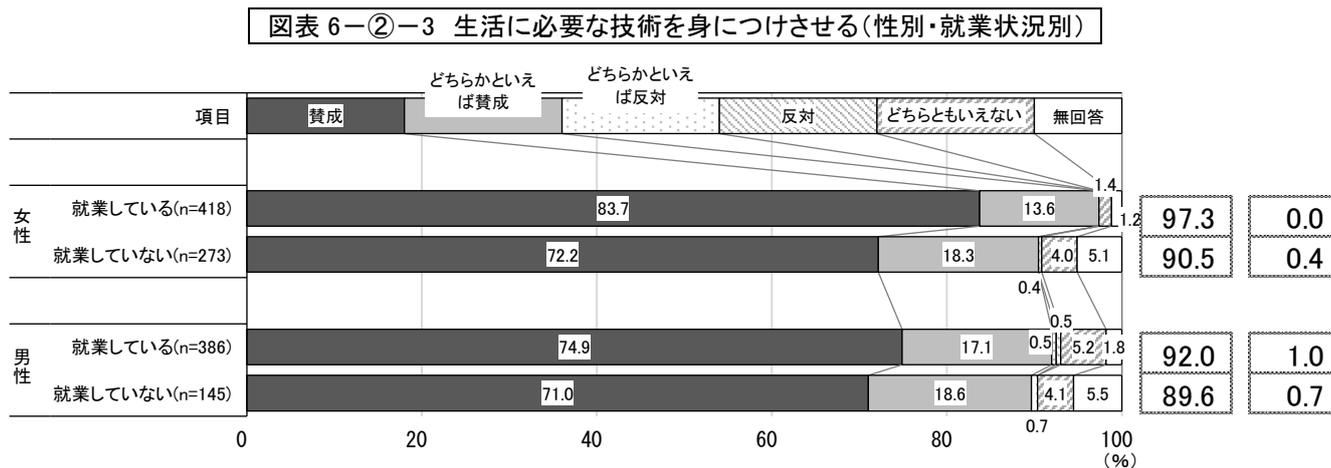
■ 性別・婚姻状況別で見ると、『賛成計』は男女とも婚姻状況に関わらず高くなっており、『反対計』は2%未満となっている。

図表 6-②-2 生活に必要な技術を身につけさせる(性別・婚姻状況別)



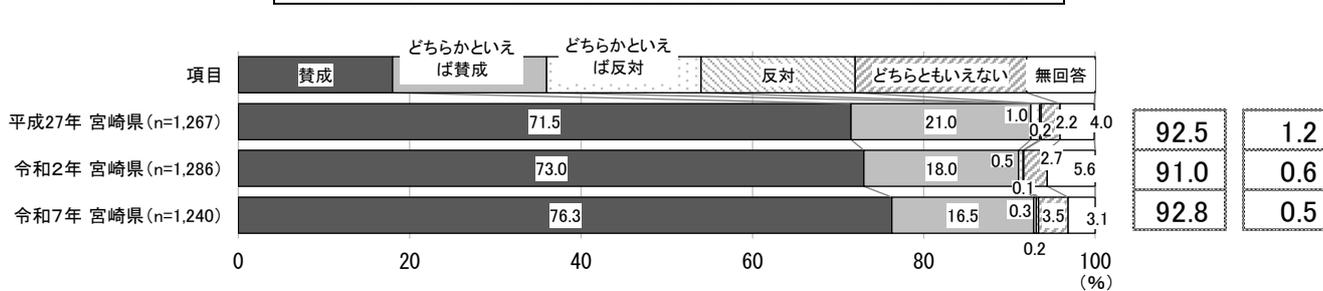
■ 性別・就業状況別で見ると、『賛成計』は就業している人(女性 97.3%、男性 92.0%)の方が就業していない人(女性 90.5%、男性 89.6%)より男女とも高くなっている。

図表 6-②-3 生活に必要な技術を身につけさせる(性別・就業状況別)



■ 時系列で比較すると、『賛成計』は、平成27年調査では92.5%、令和2年調査では91.0%、今回調査では92.8%となっている。

図表 6-②-4 生活に必要な技術を身につけさせる(時系列比較)

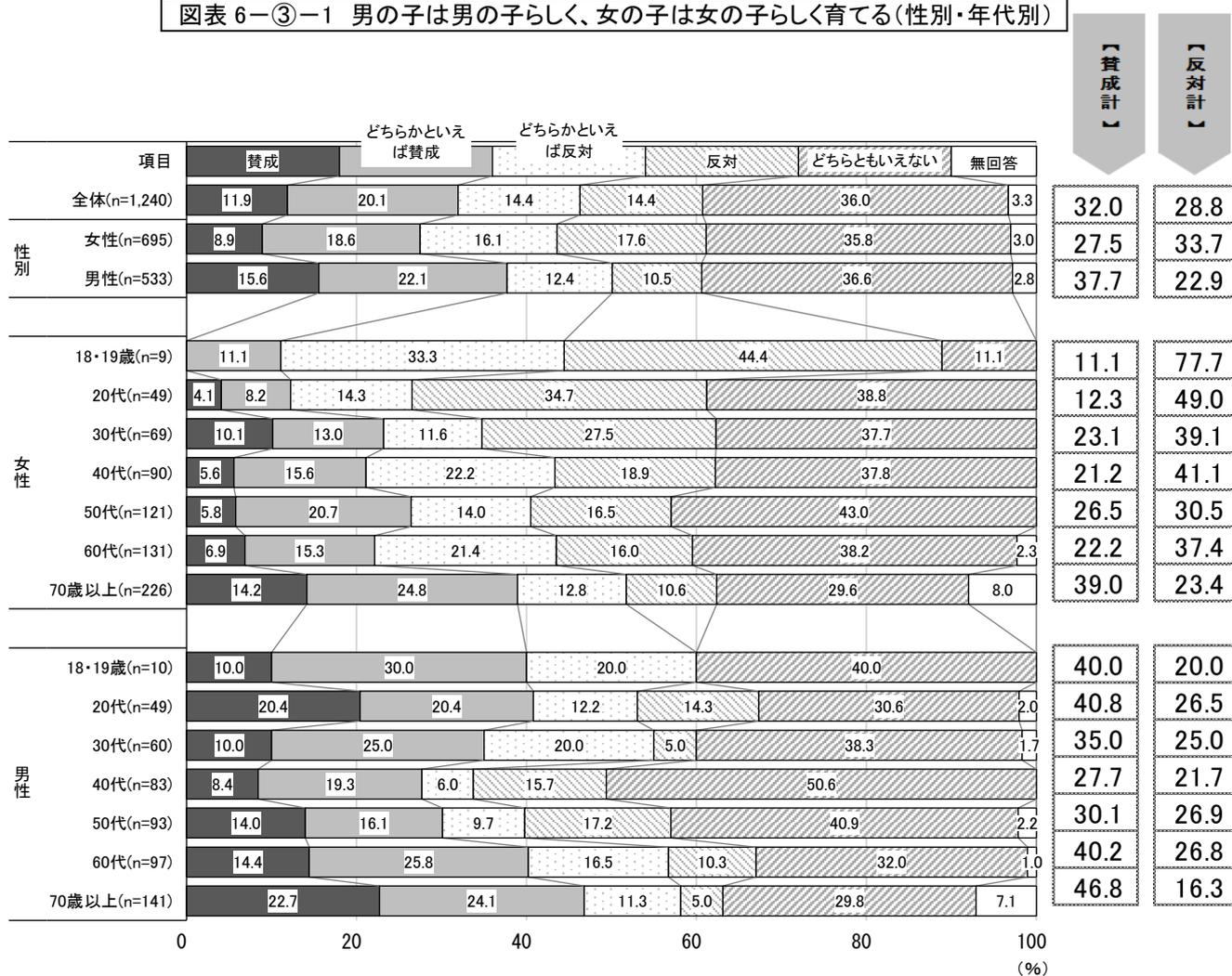


③ 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい

～『賛成意見』が女性では3割弱、男性では4割弱

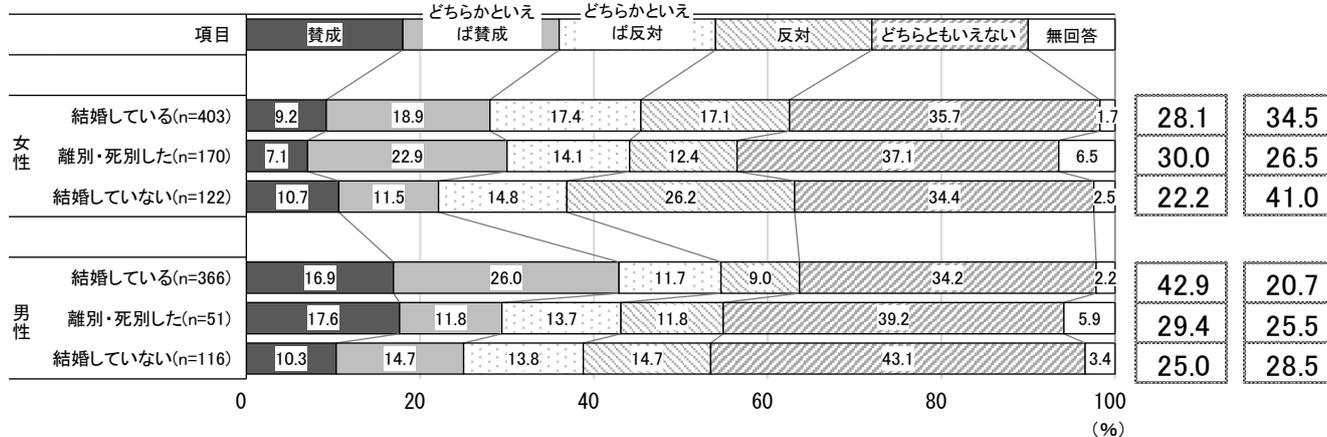
- 全体では、『賛成計』が32.0%、『反対計』が28.8%、「どちらともいえない」が36.0%となっている。
- 性別で見ると、『反対計』は女性が33.7%、男性が22.9%となっており、女性の方が10.8ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、20代男性、60歳以上男性で『賛成計』が40%を超えている。

図表6-③-1 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる(性別・年代別)



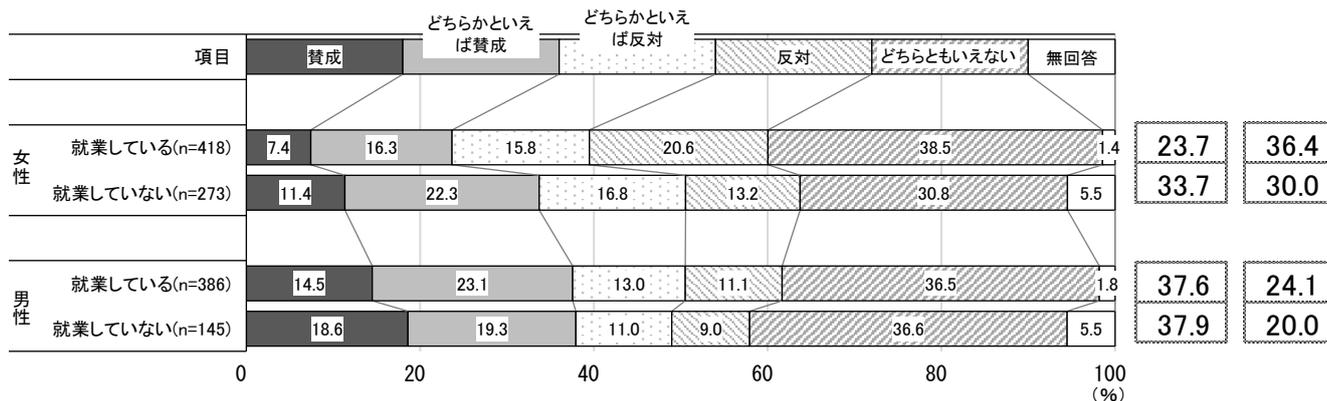
- 性別・婚姻状況別で見ると、『賛成計』は、結婚している人（女性 28.1%、男性 42.9%）の方が結婚していない人（女性 22.2%、男性 25.0%）より男女とも高くなっている。

図表 6-③-2 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる(性別・婚姻状況別)



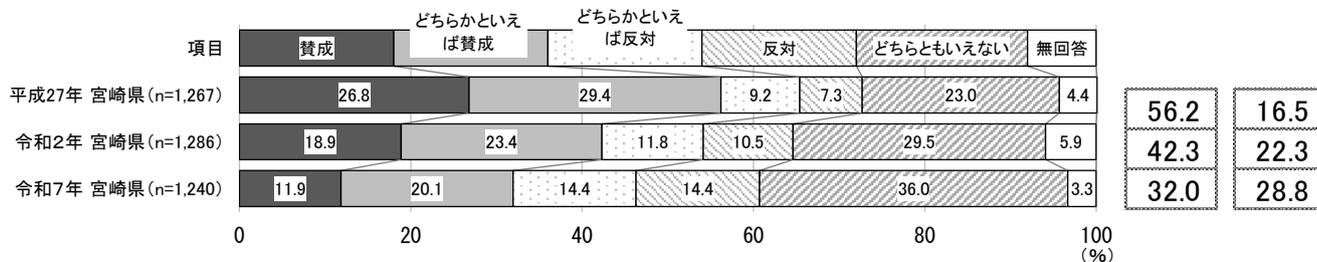
- 性別・就業状況別で見ると、『反対計』は、就業している人（女性 36.4%、男性 24.1%）の方が就業していない人（女性 30.0%、男性 20.0%）より男女とも高くなっている。

図表 6-③-3 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、『賛成計』は、平成 27 年調査では 56.2%、令和 2 年調査では 42.3%、今回調査では 32.0%となっており、低下傾向にある。

図表 6-③-4 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てる(時系列比較)



(7) 男性が家事、育児に参加するために必要なこと

あなたは、今後、男性が育児・介護・家事・地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

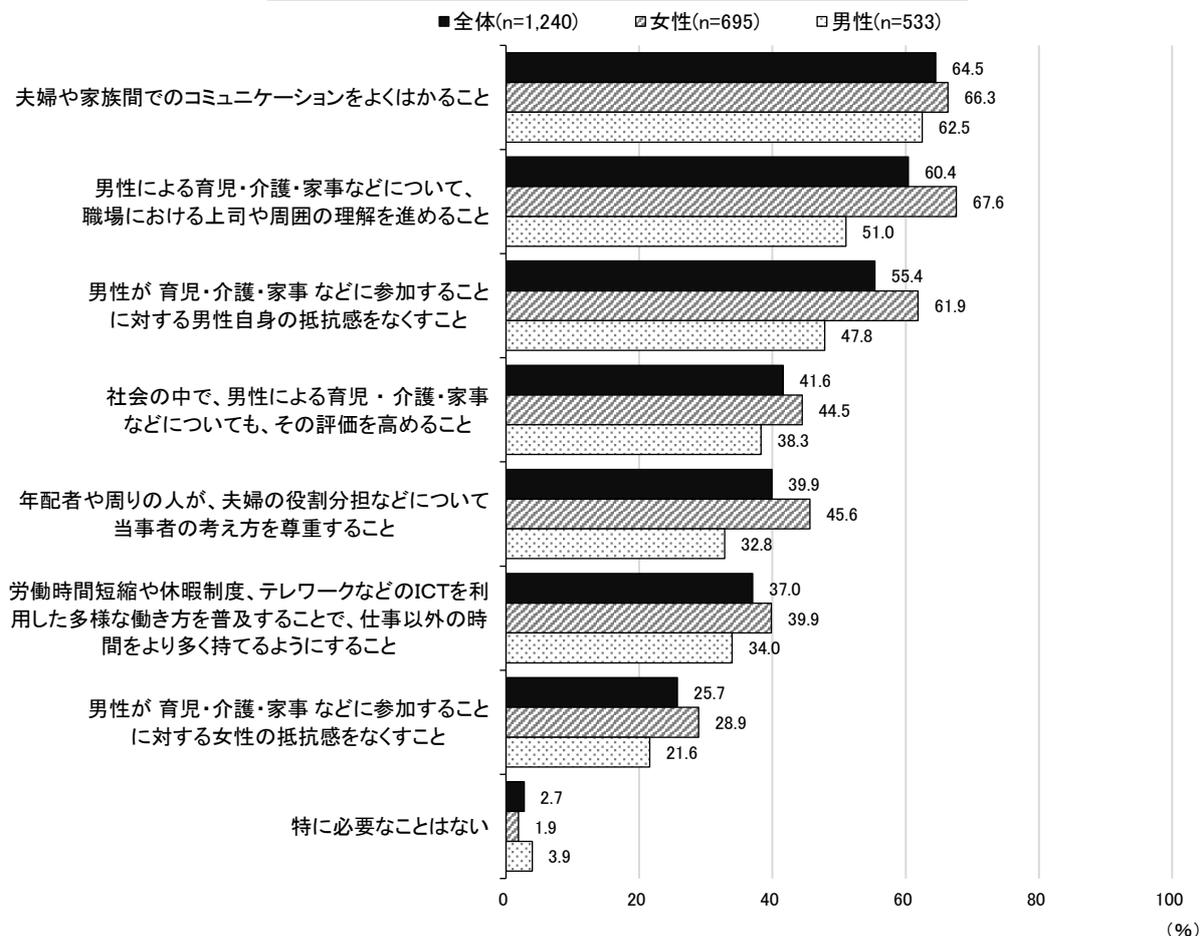
男性が家事、育児に参加するために必要なことについては、

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が6割強

「男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が6割

- 全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が64.5%と最も高く、次いで「男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が60.4%、「男性が育児・介護・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が55.4%となっている。
- 性別で見ると、男女の割合差は、「男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」(女性67.6%、男性51.0%)が16.6ポイントと最も高く、次いで「男性が育児・介護・家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(女性61.9%、男性47.8%)が14.1ポイントとなっている。

図表 7-1 男性が家事、育児に参加するために必要なこと



図表 7-2 男性が家事、育児に参加するために必要なこと

		と男性が に対する 育児・ 介護・ 家事 などの 参加する こと	と男性が に対する 女性の 抵抗感 をなくす こと	夫婦や 家族間 での コミュニ ケーシ ョンを よくは かるこ と	で、C Tを利 用した 多様な 働き方 を普及 すること にす ること	労働時 間短縮 や休暇 制度、 テレワ ークな どのI T	社会の 中で、 男性に よる育 児・介 護・家 事など について も、そ の評価 を高め ること	年配者 や周り の人が 、夫婦 の役割 分担な どにつ いて当 事者の 考え方 を尊重 すること	場男性 における 上司や 周囲の 理解を 進める こと、 職	特に 必要な ことは ない
全体(n=1,240)		55.4	25.7	64.5	37.0	41.6	39.9	60.4	2.7	
性別	女性(n=695)	61.9	28.9	66.3	39.9	44.5	45.6	67.6	1.9	
	男性(n=533)	47.8	21.6	62.5	34.0	38.3	32.8	51.0	3.9	
性別・ 年齢別	女性									
	18・19歳(n=9)	88.9	33.3	88.9	33.3	44.4	44.4	66.7	0.0	
	20代(n=49)	73.5	24.5	57.1	44.9	44.9	51.0	63.3	2.0	
	30代(n=69)	66.7	31.9	71.0	62.3	56.5	55.1	76.8	4.3	
	40代(n=90)	48.9	31.1	65.6	45.6	43.3	36.7	67.8	2.2	
	50代(n=121)	67.8	28.1	62.8	46.3	48.8	46.3	70.2	3.3	
	60代(n=131)	60.3	23.7	74.8	38.2	44.3	48.9	71.0	0.8	
	70歳以上(n=226)	59.7	31.4	63.3	27.4	38.9	42.9	62.4	0.9	
	男性									
	18・19歳(n=10)	60.0	20.0	30.0	20.0	30.0	20.0	30.0	10.0	
	20代(n=49)	49.0	32.7	59.2	57.1	40.8	32.7	61.2	6.1	
	30代(n=60)	46.7	25.0	58.3	45.0	48.3	43.3	55.0	6.7	
	40代(n=83)	41.0	24.1	61.4	42.2	41.0	30.1	45.8	4.8	
	50代(n=93)	46.2	22.6	60.2	34.4	38.7	29.0	51.6	2.2	
60代(n=97)	58.8	19.6	68.0	21.6	42.3	35.1	57.7	5.2		
70歳以上(n=141)	44.7	15.6	66.0	25.5	29.1	31.9	45.4	1.4		
性別・ 婚姻 状況別	女性									
	結婚している(n=403)	62.0	30.0	65.0	42.9	47.4	44.9	69.2	1.7	
	離別・死別した(n=170)	57.6	24.7	67.6	31.8	37.6	43.5	65.9	0.6	
	結婚していない(n=122)	67.2	31.1	68.9	41.0	44.3	50.8	64.8	4.1	
	男性									
	結婚している(n=366)	45.6	19.1	65.8	32.5	37.2	33.9	50.3	2.7	
離別・死別した(n=51)	58.8	25.5	58.8	29.4	43.1	25.5	49.0	3.9		
結婚していない(n=116)	50.0	27.6	53.4	40.5	39.7	32.8	54.3	7.8		
性別・ 就業 状況別	女性									
	就業している(n=418)	62.7	29.7	66.3	43.5	47.4	48.1	67.7	2.2	
	就業していない(n=273)	61.5	28.2	66.3	34.1	39.9	42.1	67.4	1.5	
	男性									
就業している(n=386)	48.2	22.8	60.1	36.0	40.7	32.9	52.3	4.1		
就業していない(n=145)	46.9	18.6	68.3	29.0	32.4	33.1	46.9	3.4		

### 3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

#### (8) 仕事と生活のバランスの希望

あなたは、「仕事」と「家庭生活(家事・育児・介護等)」または「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・娯楽等)」のどれを優先したいと思いますか。（○は1つだけ）

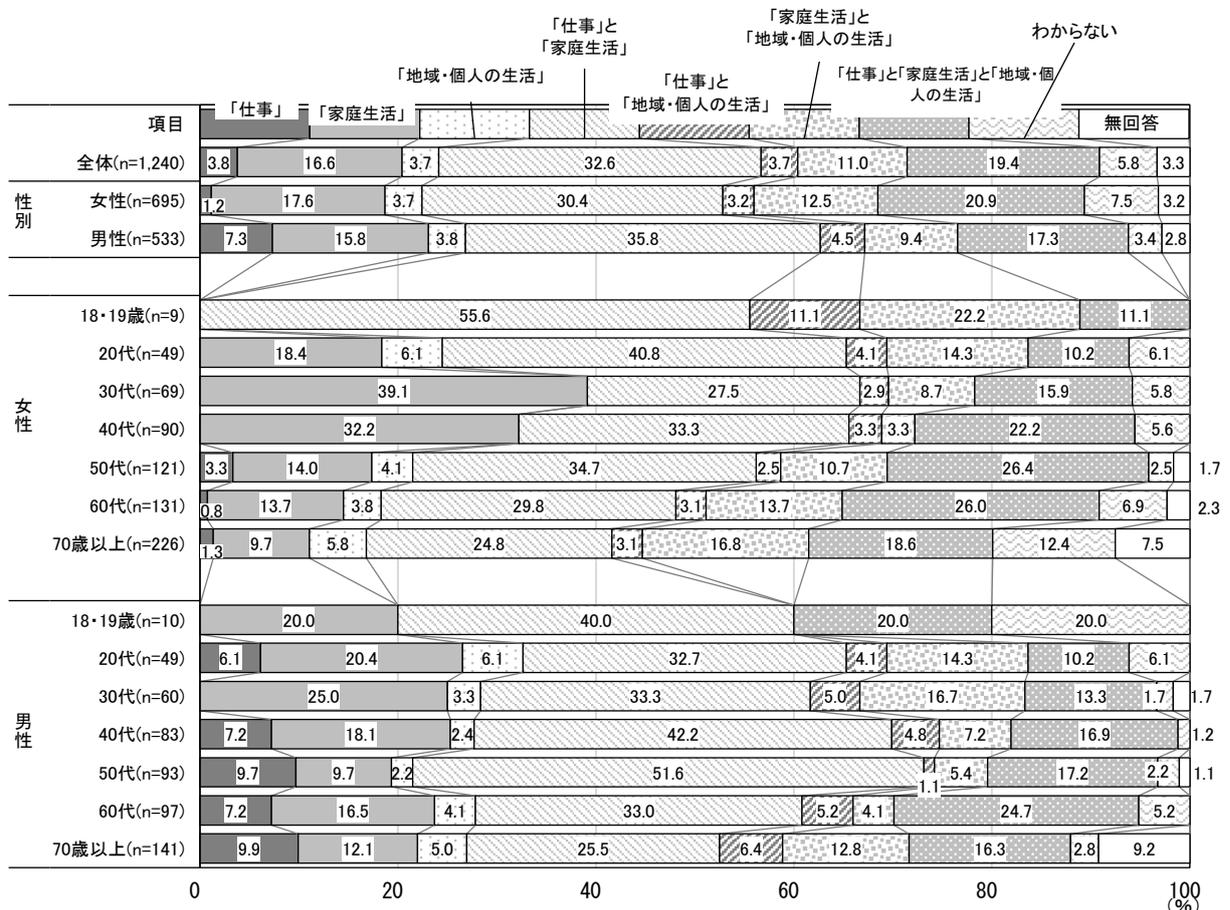
仕事と生活のバランスの希望は、

「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが3割強

「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを両立したいが2割弱

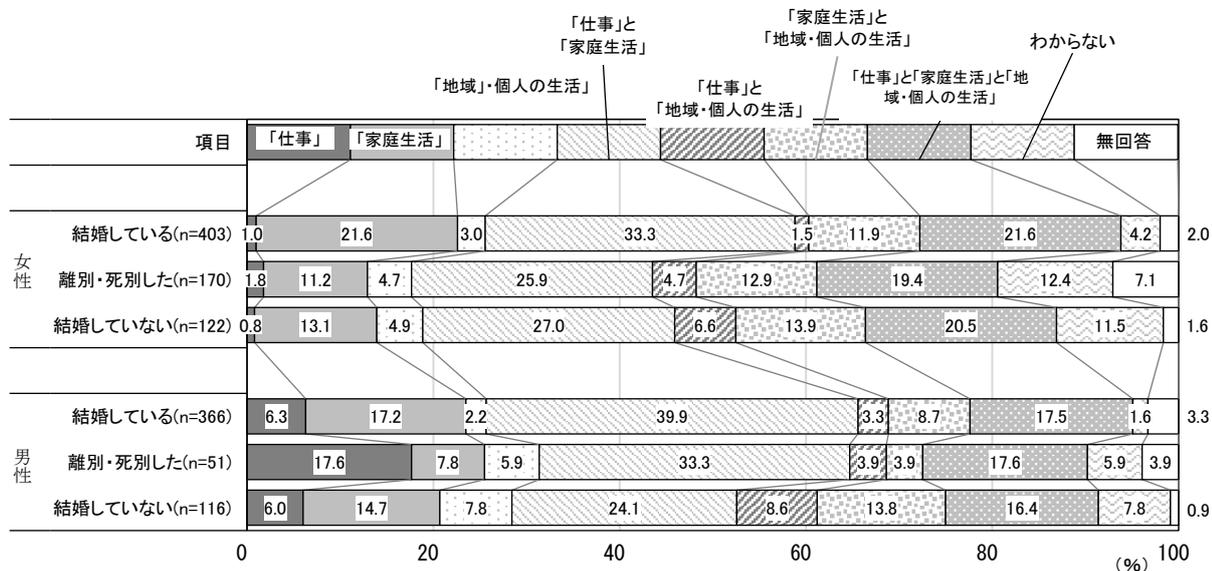
- 全体では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいが32.6%と最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを両立したいが19.4%となっている。
- 性別で見ると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいは、女性が30.4%、男性が35.8%となっており、男性の方が5.4ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、女性では20代から50代、男性では20代から60代で、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを両立したいが年齢が上がるにつれ、高くなっている。

図表 8-1 仕事と生活のバランスの希望(性別・年齢別)



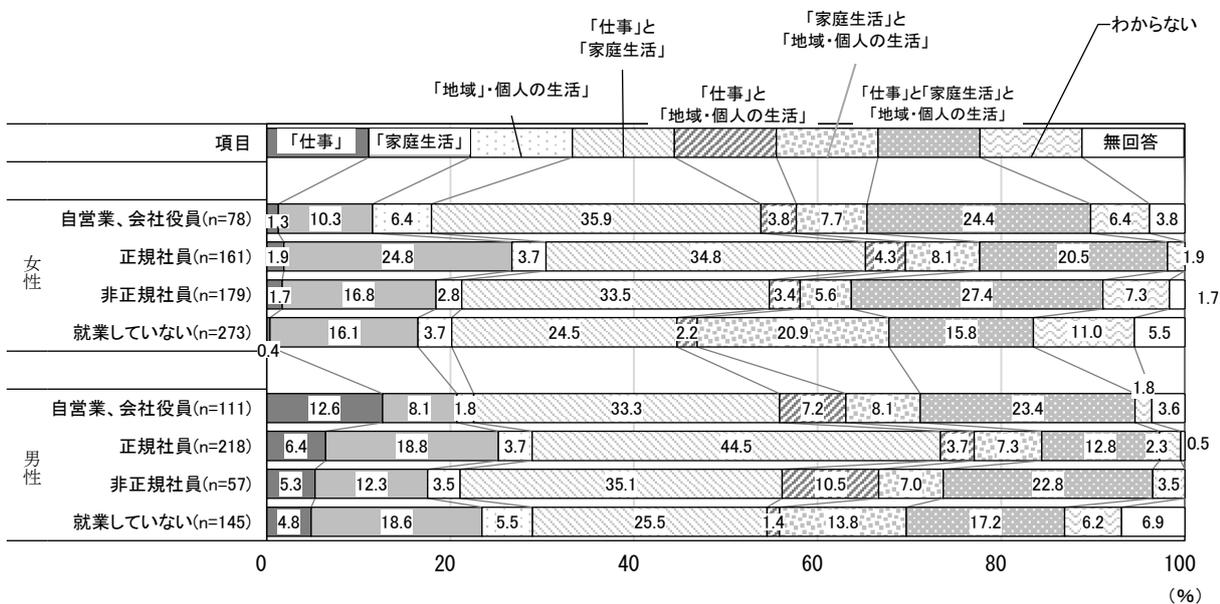
- 性別・婚姻状況別で見ると、「仕事」と「家庭生活」とともに優先したいは、結婚している人（女性 33.3%、男性 39.9%）の方が結婚していない人（女性 27.0%、男性 24.1%）より男女とも高くなっている。

図表 8-2 仕事と生活のバランスの希望(性別・婚姻状況別)



- 性別・就業状況別で見ると、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを両立したいは、非正規社員（女性 27.4%、男性 22.8%）の方が正規社員（女性 20.5%、男性 12.8%）より男女とも高くなっている。

図表 8-3 仕事と生活のバランスの希望(性別・就業状況別)



(9) 仕事と生活のバランスの現状

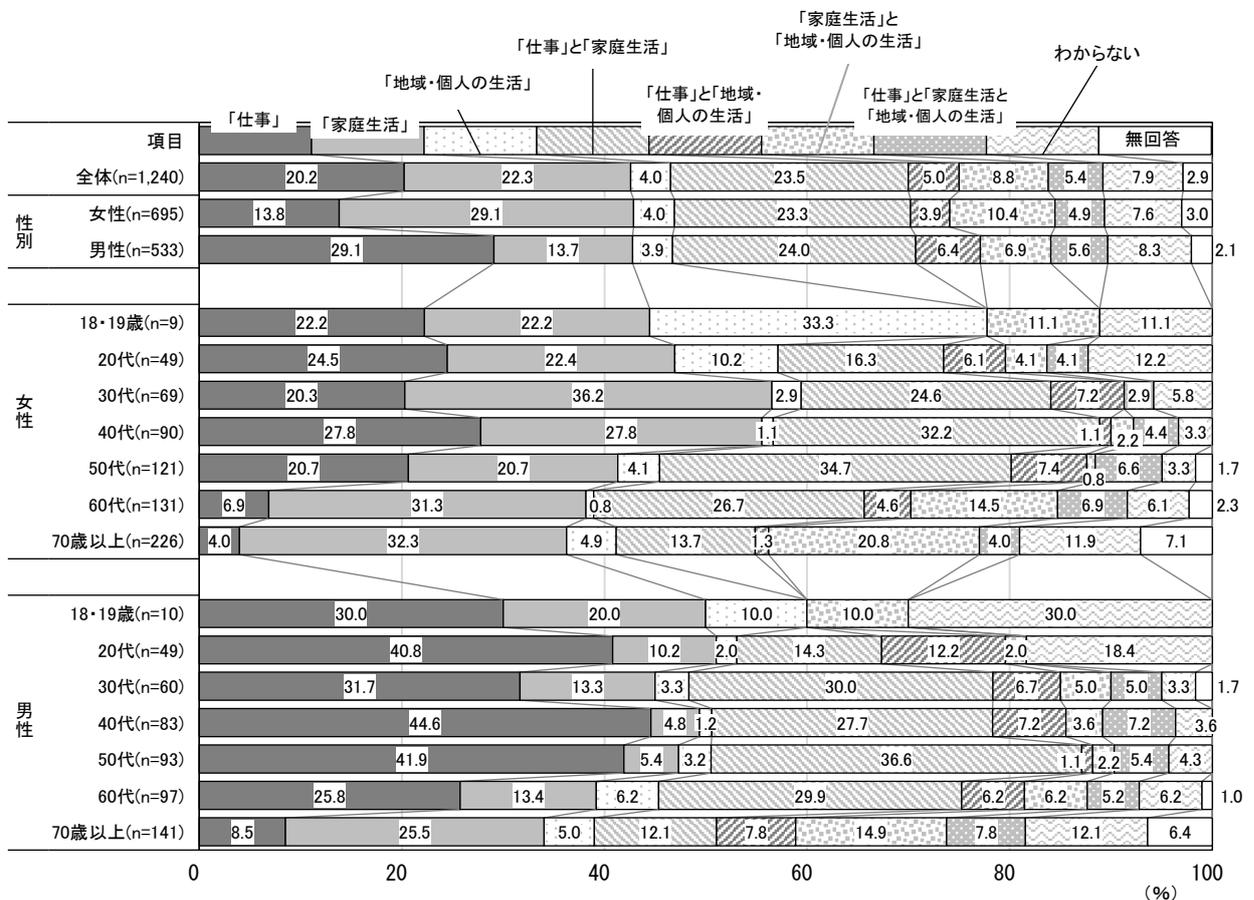
現在の状況では、あなたは次のどれに当てはまりますか。(○は1つだけ)

仕事と生活のバランスの現状は、

「仕事」と「家庭生活」をともに優先している、「家庭生活」を優先している」が2割強

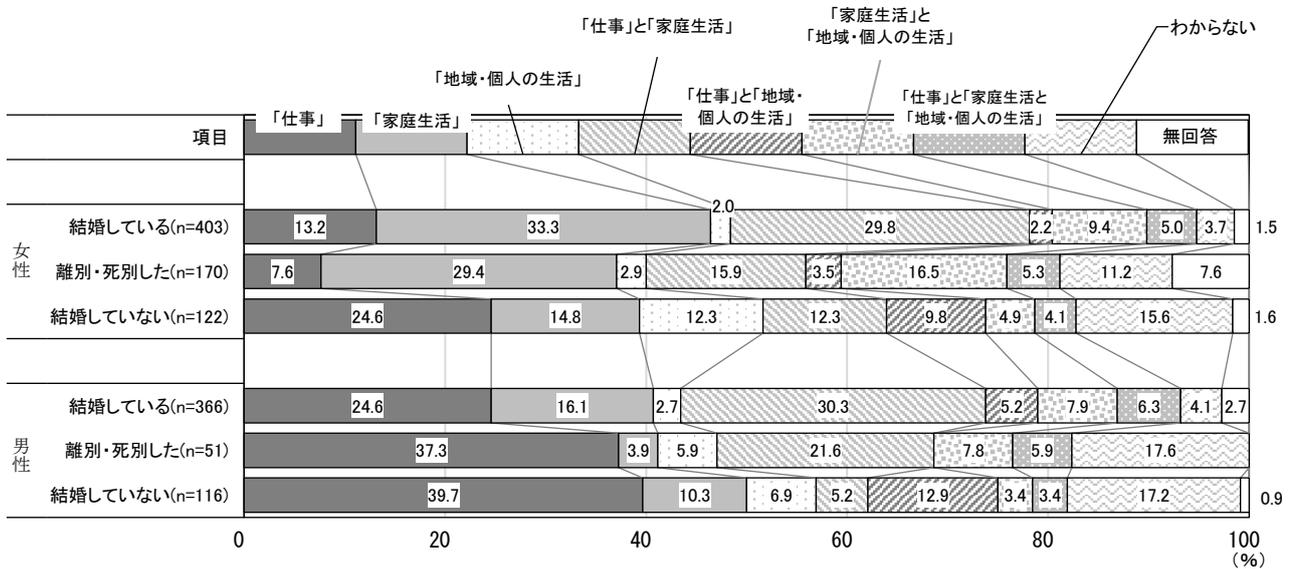
- 全体では、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が23.5%と最も高く、次いで「家庭生活」を優先している」が22.3%となっている。
- 性別で見ると、「家庭生活」を優先している」は、女性が29.1%、男性が13.7%となっており、女性の方が15.4ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、20代から50代女性では「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が年齢が上がるにつれ、高くなっている。20代、40代から50代男性では「仕事」を優先している」が40%を超えている。

図表 9-1 仕事と生活のバランスの現状(性別・年齢別)



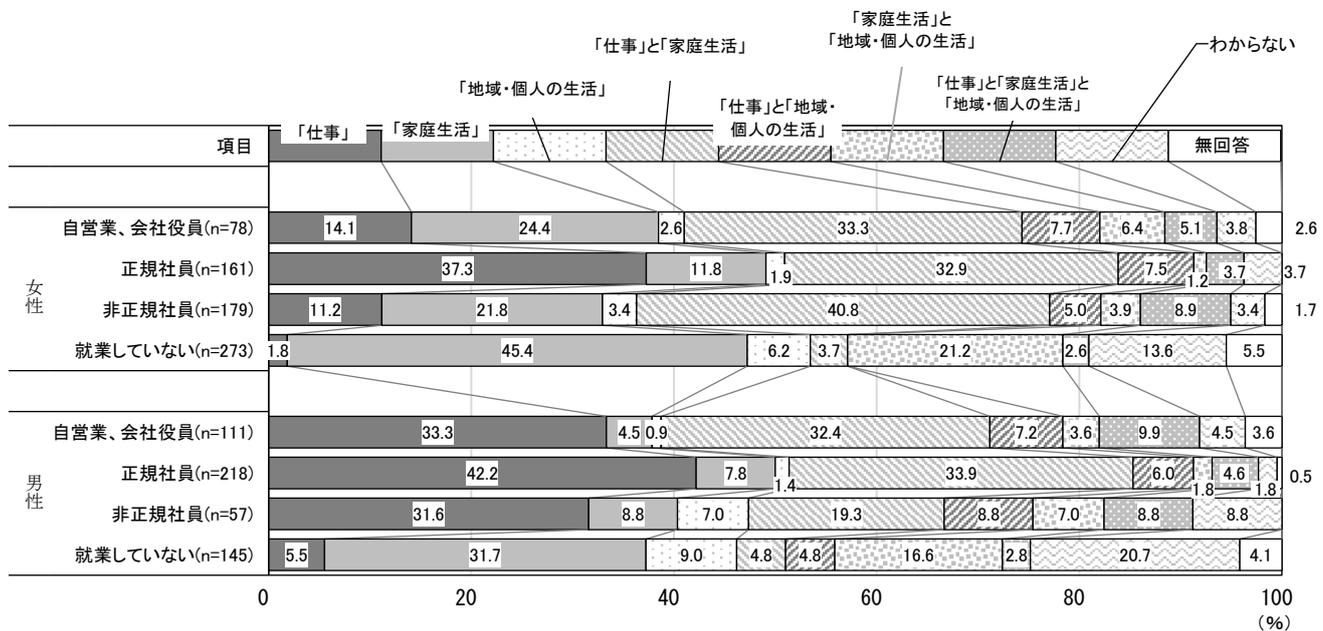
■ 性別・婚姻状況別でみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」は、結婚している人（女性 29.8%、男性 30.3%）の方が結婚していない人（女性 12.3%、男性 5.2%）より男女とも高くなっている。

図表 9-2 仕事と生活のバランスの現状(性別・婚姻状況別)



■ 性別・就業状況別でみると、「仕事」を優先している」は正規社員（女性 37.3%、男性 42.2%）の方が非正規社員（女性 11.2%、男性 31.6%）より男女とも高くなっている。

図表 9-3 仕事と生活のバランスの現状(性別・就業状況別)

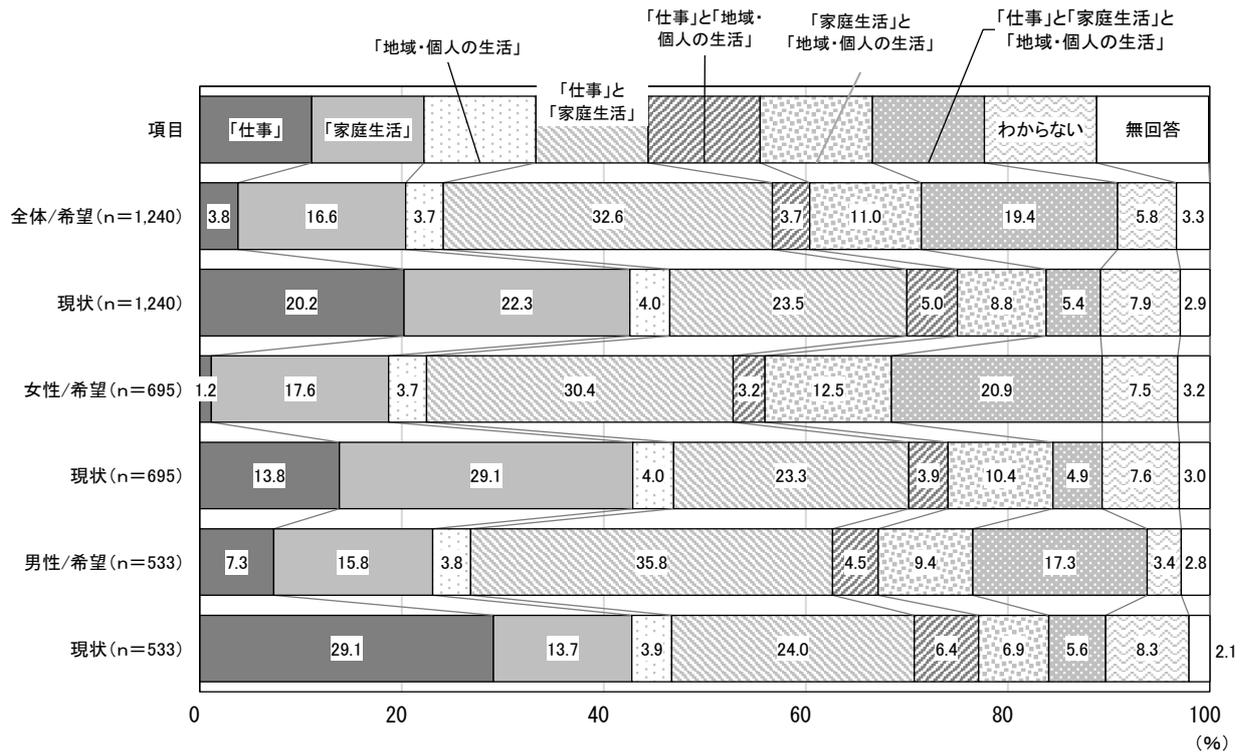


(参考) 仕事と生活のバランスの希望 (優先したい) と現状 (優先している)

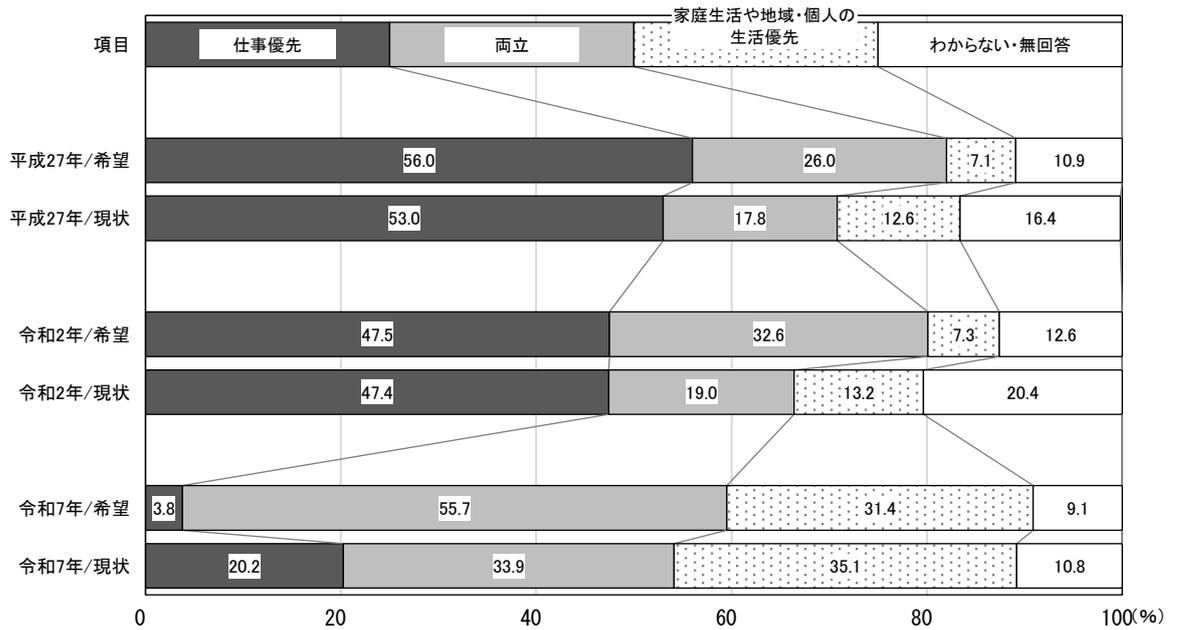
**仕事と生活のバランスの希望と現状の割合差について、  
「仕事」を優先したい・しているが最も大きい**

- 全体では、希望と現状の割合差は、「仕事」を優先したい・している (希望 3.8%、現状 20.2%) で 16.4 ポイントと最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを両立したい・している (希望 19.4%、現状 5.4%) で 14.0 ポイントとなっている。
- 性別で見ると、希望と現状の割合差は、女性では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを両立したい・している (希望 20.9%、現状 4.9%) で 16.0 ポイントと最も高く、男性では「仕事」を優先したい・している (希望 7.3%、現状 29.1%) で 21.8 ポイントと最も高くなっている。

図表 9-4 仕事と生活のバランスの希望と現状



図表 9-5 仕事と生活のバランスの希望と現状(時系列比較)



※『仕事優先』について、令和2年までは「家庭生活や地域活動よりも、仕事に専念する」、「家庭生活や地域活動にも携わるが、あくまで仕事を優先させる」、令和7年は「仕事」と回答した割合で集計した。『両立』について、令和2年までは「家庭生活や地域活動と同じように両立させる」、令和7年は「仕事と家庭生活」、「仕事と地域・個人の活動」、「仕事と家庭生活と地域・個人の活動」と回答した割合で集計した。『家庭生活や地域・個人の生活優先』について、令和2年までは「仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させる」、「仕事よりも、家庭生活や地域活動に専念する」、令和7年は「家庭生活」、「地域・個人の活動」と回答した割合で集計した。

(10) 職場での男女差

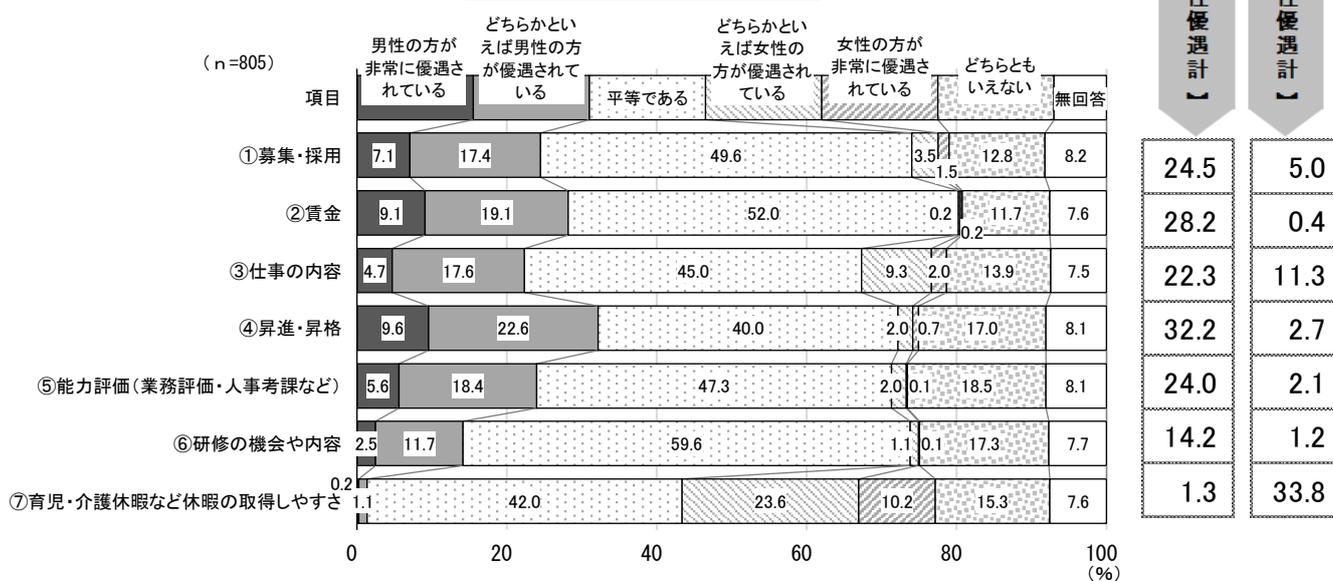
あなたの職場では、次の①～⑦にあげる分野で、性別によって差があると思いますか。  
(〇はそれぞれ1つずつ)

職場での男女差については、

「昇進・昇格」で男性優遇感が強く、「育児・介護休暇など休暇の取得しやすさ」で女性優遇感が強い。

- 『男性優遇計』は「昇進・昇格」が32.2%と最も高く、次いで「賃金」が28.2%となっている。
- 『女性優遇計』は「育児・介護休暇など休暇の取得しやすさ」が33.8%と最も高くなっている。
- 「平等である」は「研修の機会や内容」が59.6%と最も高く、次いで「賃金」が52.0%となっている。

図表 10-1 職場での男女差

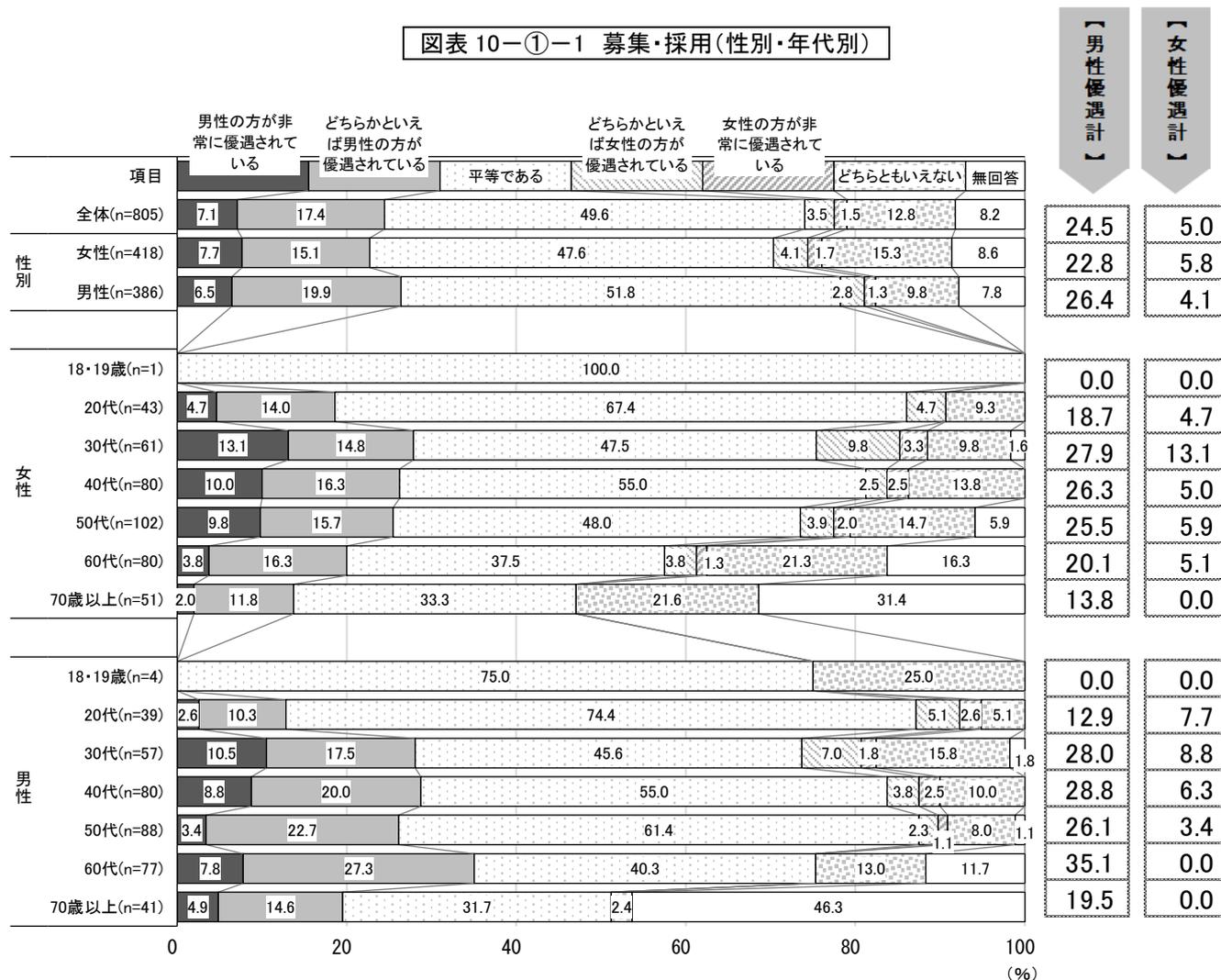


① 募集・採用

～平等と感じる人は5割弱、男性優遇感を持つ人は2割強

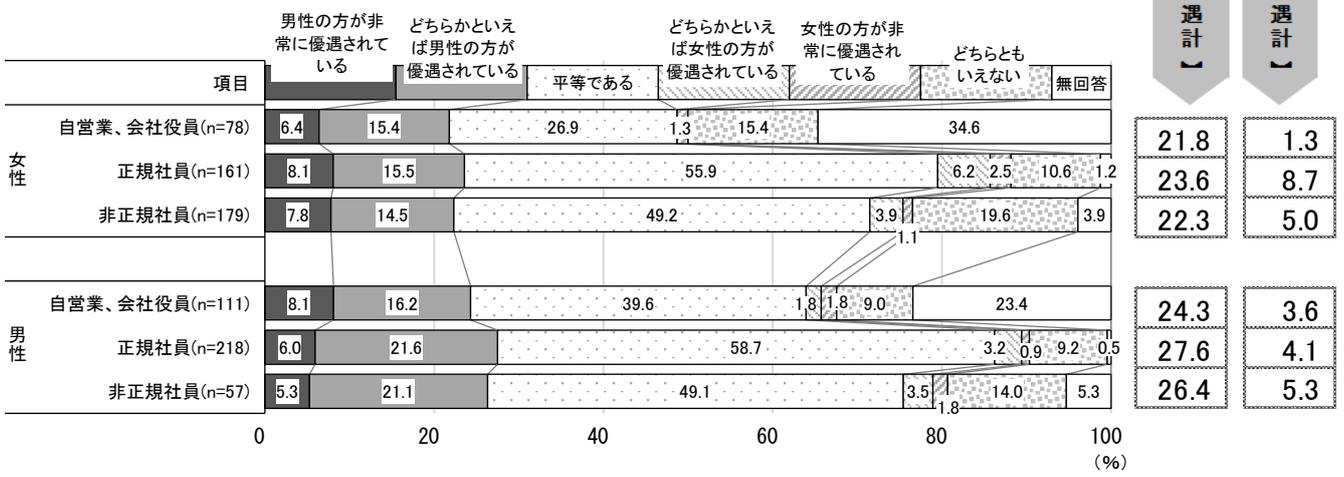
- 全体では、「平等である」は49.6%、『男性優遇計』は24.5%、『女性優遇計』は5.0%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は女性が47.6%、男性が51.8%と男性の方が4.2ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、『男性優遇計』は30代から70歳以上女性で年齢が上がるにつれ、低くなっている。

図表 10-①-1 募集・採用(性別・年代別)



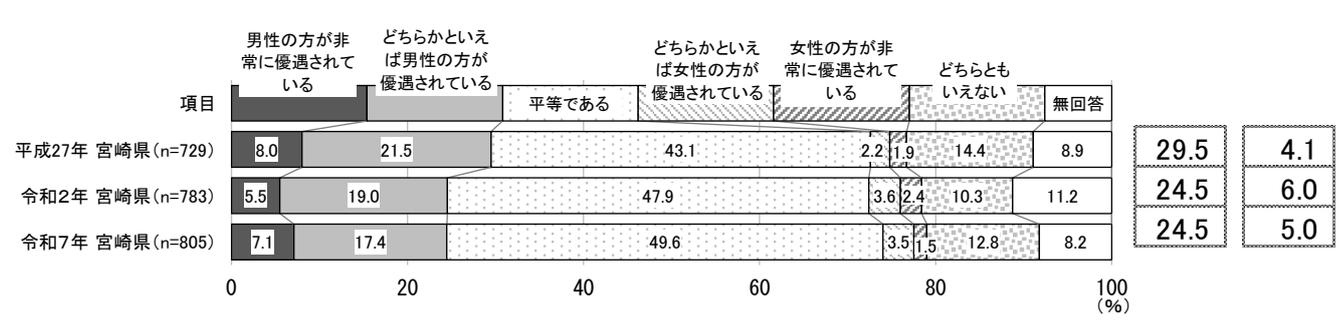
- 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は正規社員（女性 55.9%、男性 58.7%）の方が非正規社員（女性 49.2%、男性 49.1%）より男女とも高くなっている。

図表 10-①-2 募集・採用(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、「平等である」は平成 27 年調査では 43.1%、令和 2 年調査では 47.9%、今回調査では 49.6%となっており、上昇傾向にある。

図表 10-①-3 募集・採用(時系列比較)

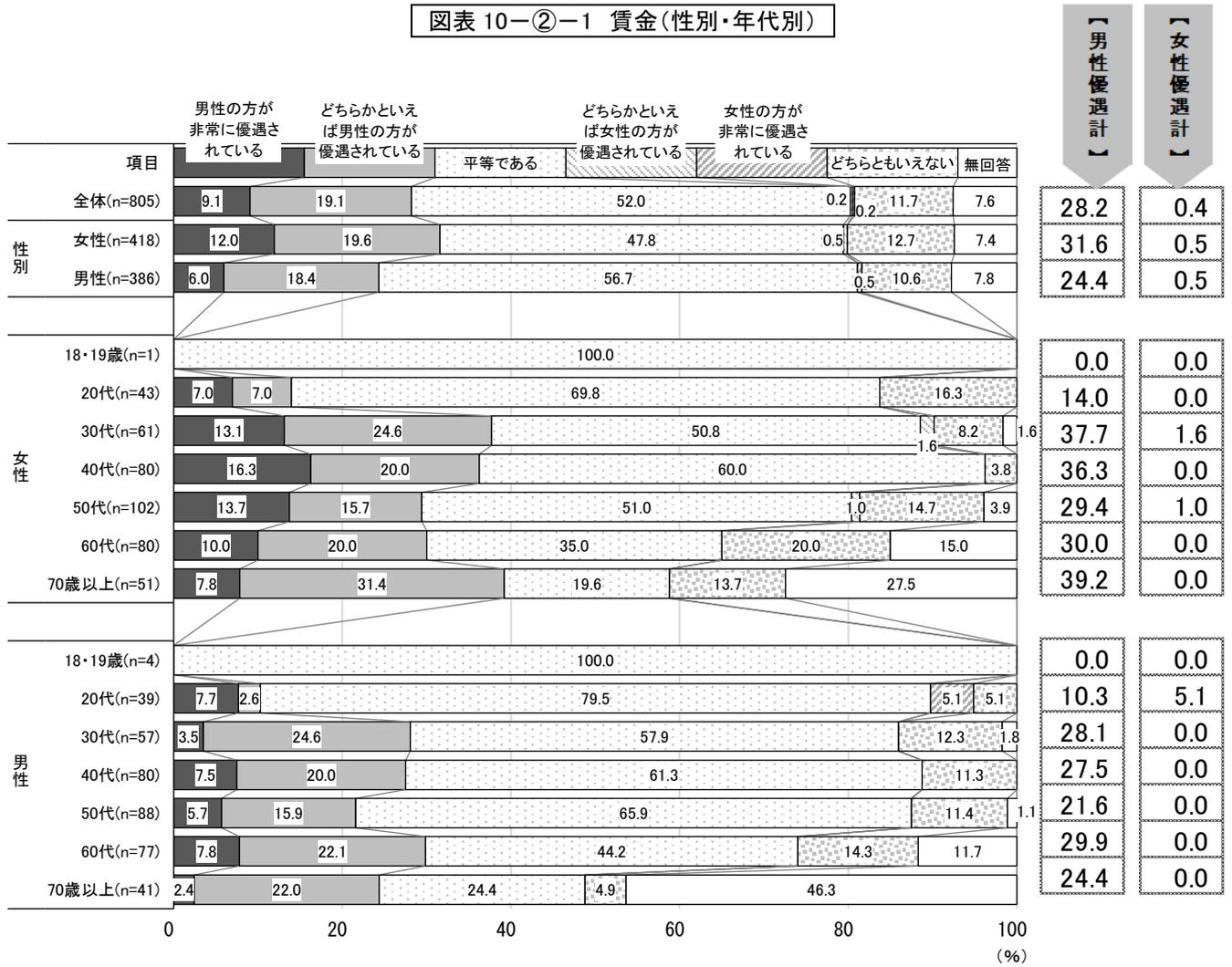


② 賃金

～平等と感じる人は5割強、男性優遇感を持つ人は3割弱

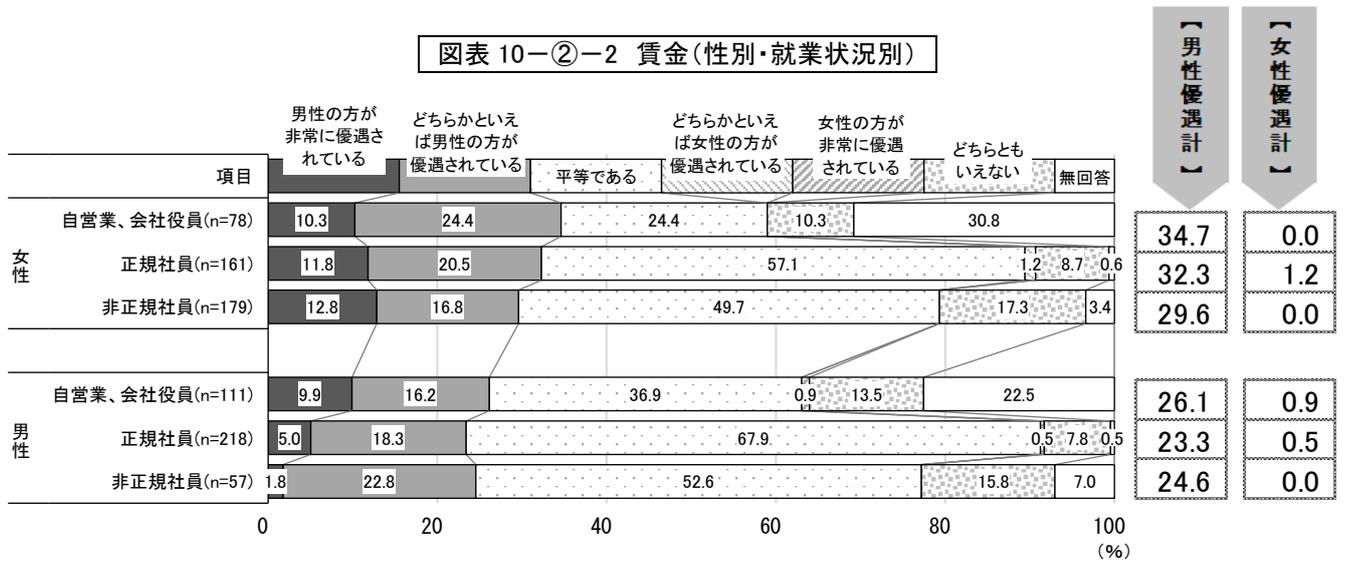
- 全体では、「平等である」は52.0%、『男性優遇計』は28.2%、『女性優遇計』は0.4%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は女性が47.8%、男性が56.7%となっており、男性の方が8.9ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、「平等である」は20代から50代で男女ともに50%を超えている。

図表 10-②-1 賃金(性別・年代別)



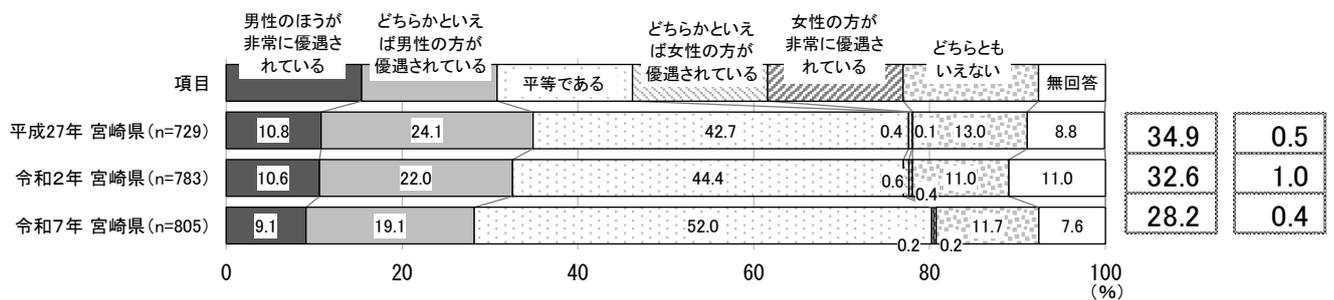
- 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は正規社員（女性 57.1%、男性 67.9%）の方が非正規社員（女性 49.7%、男性 52.6%）より男女とも高くなっている。

図表 10-②-2 賃金(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、「平等である」は平成 27 年調査では 42.7%、令和 2 年調査では 44.4%、今回調査では 52.0%と上昇傾向にあり、『男性優遇計』は低下傾向にある。

図表 10-②-3 賃金(時系列比較)

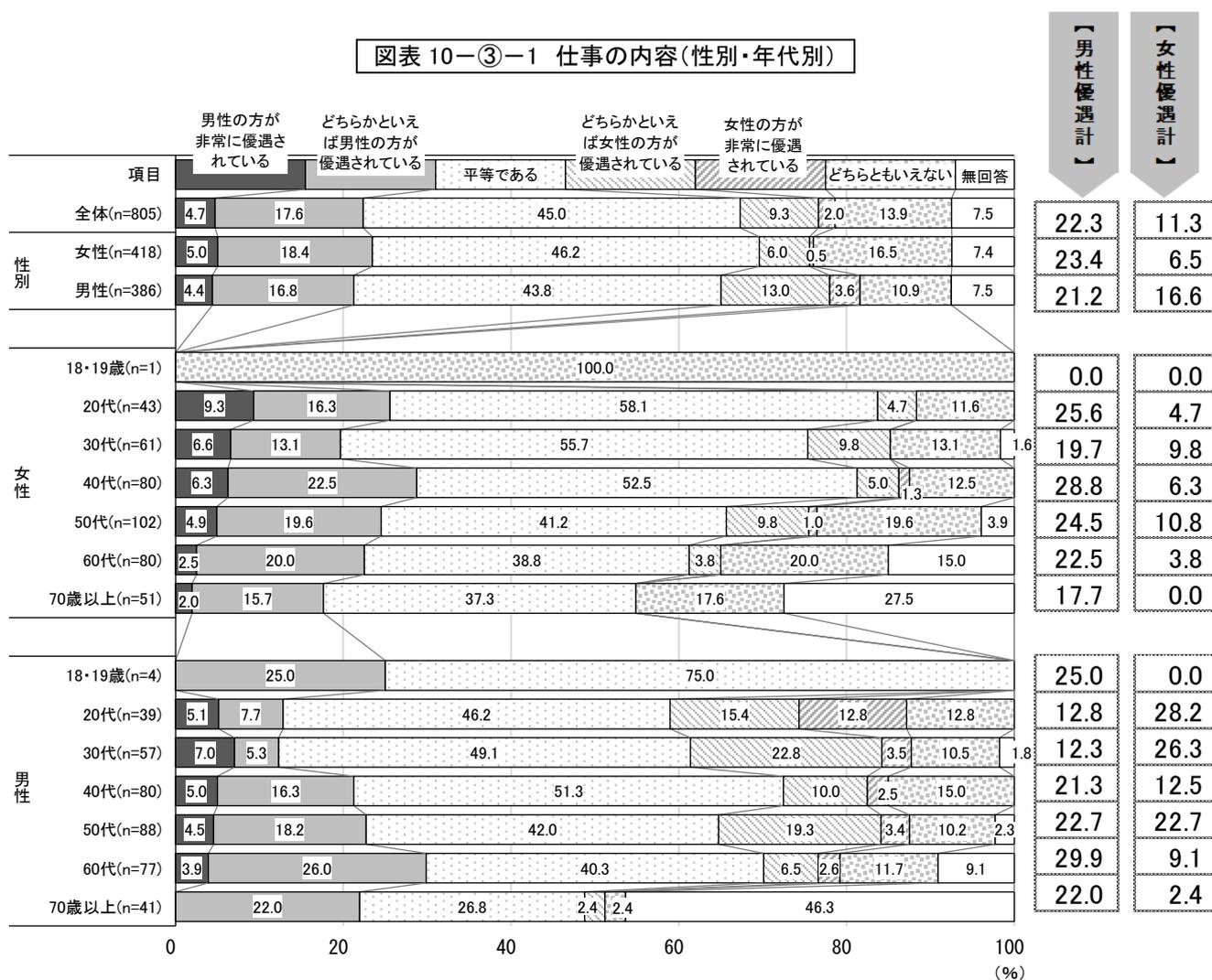


### ③ 仕事の内容

～平等と感じる人は4割強、男性優遇感を持つ人は2割強

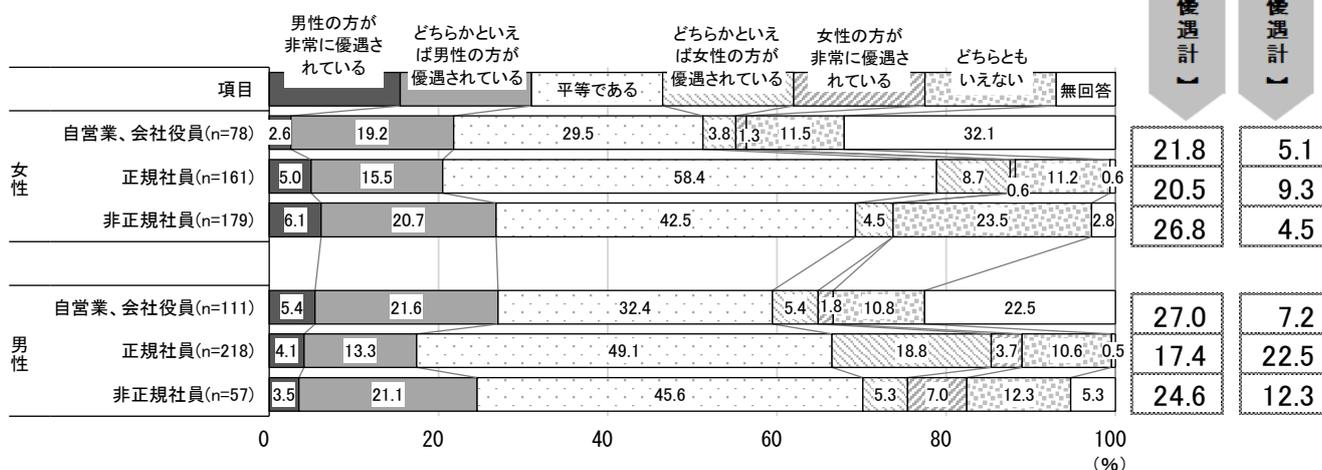
- 全体では、「平等である」は45.0%、『男性優遇計』は22.3%、『女性優遇計』は11.3%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は女性が46.2%、男性が43.8%となっており、女性の方が2.4ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、「平等である」は20代から40代女性、40代男性で50%を超えている。

図表 10-③-1 仕事の内容(性別・年代別)



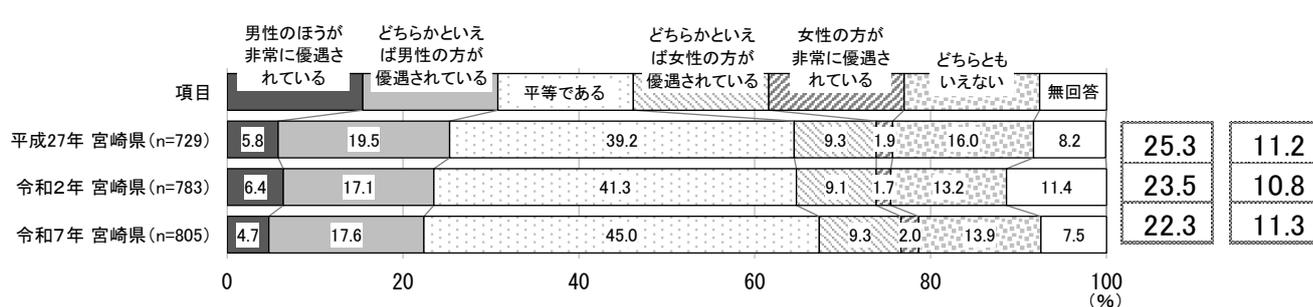
- 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は正規社員（女性 58.4%、男性 49.1%）の方が非正規社員（女性 42.5%、男性 45.6%）より男女とも高くなっている。

図表 10-③-2 仕事の内容(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、「平等である」は、平成 27 年調査では 39.2%、令和 2 年調査では 41.3%、今回調査では 45.0%と上昇傾向にあり、『男性優遇計』は低下傾向にある。

図表 10-③-3 仕事の内容(時系列比較)

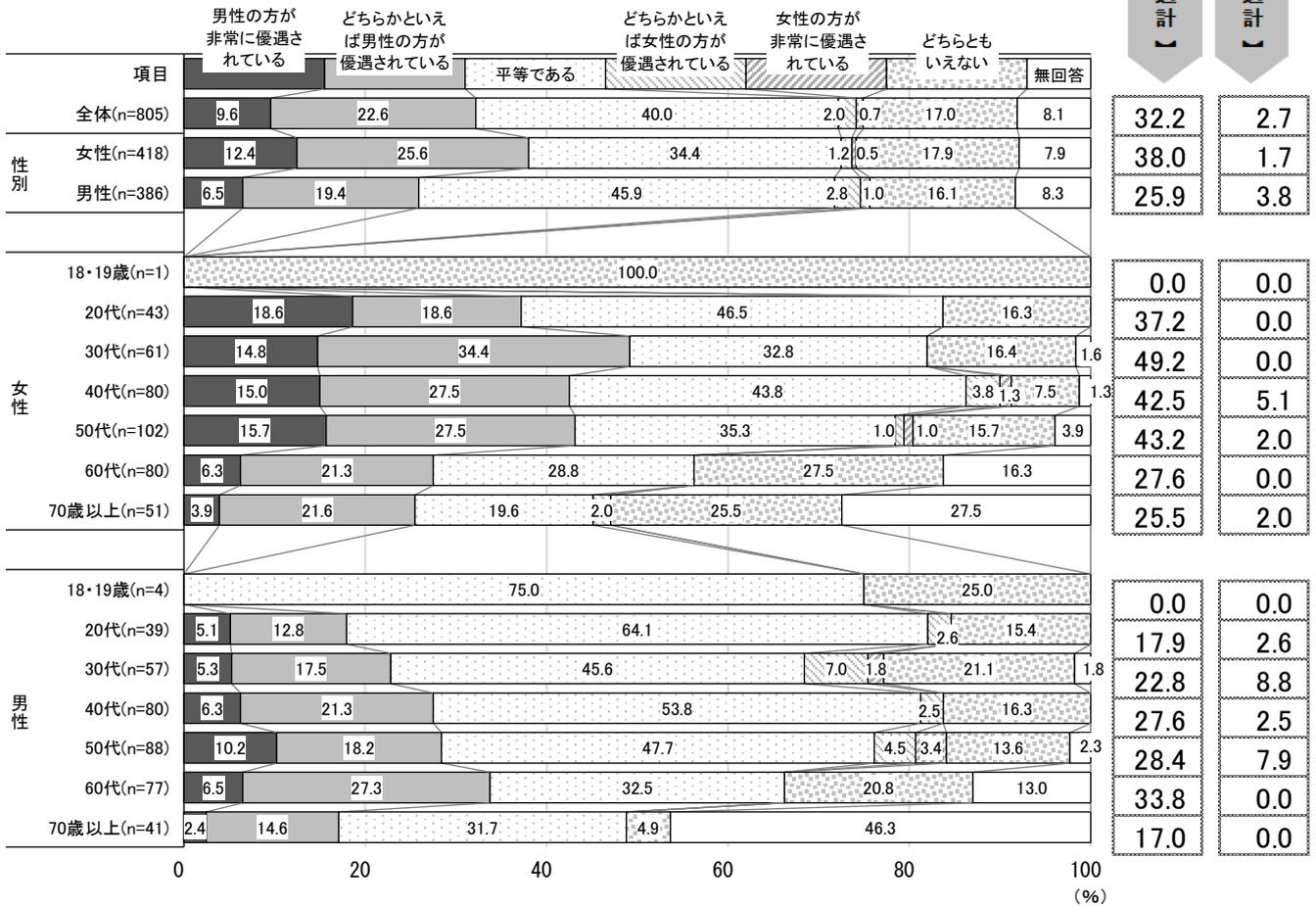


④ 昇進・昇格

～平等と感じる人は4割、男性優遇感を持つ人は3割強

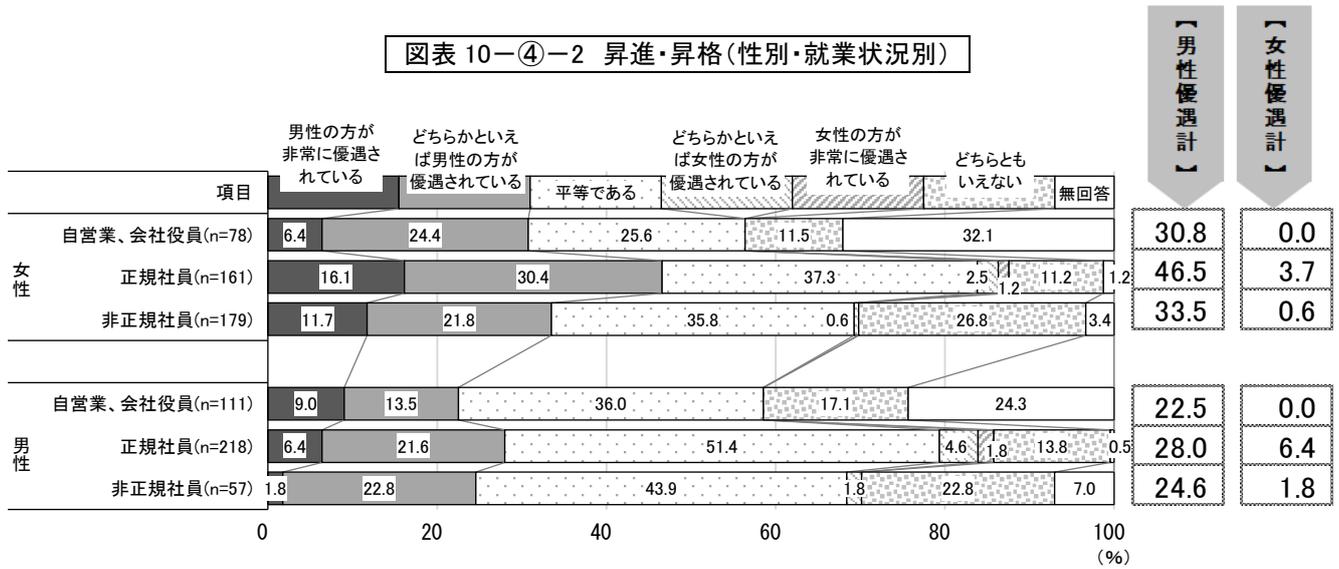
- 全体では、「平等である」が40.0%、『男性優遇計』が32.2%、『女性優遇計』が2.7%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は女性が34.4%、男性が45.9%となっており、男性の方が11.5ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、『男性優遇計』は20代から60代男性で年齢が上がるにつれ、高くなっている。

図表 10-④-1 昇進・昇格(性別・年代別)



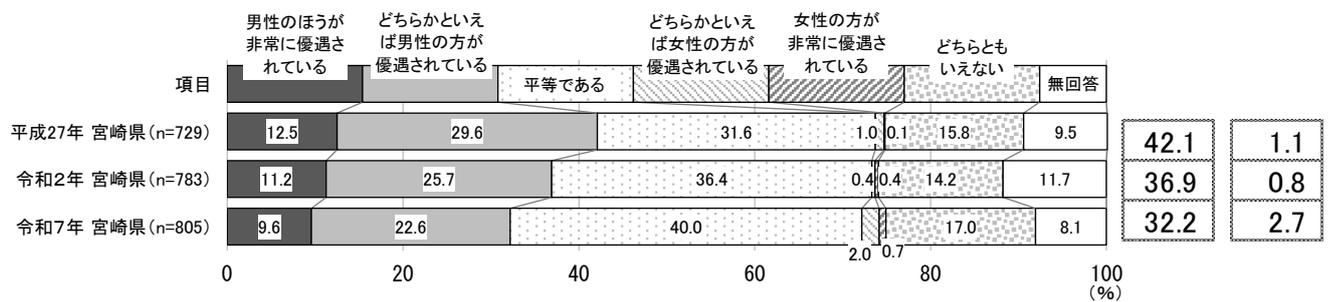
- 性別・就業状況別でみると、「平等である」は正規社員（女性 37.3%、男性 51.4%）の方が非正規社員（女性 35.8%、男性 43.9%）より男女とも高くなっている。

図表 10-④-2 昇進・昇格(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、「平等である」は平成27年調査では31.6%、令和2年調査では36.4%、今回調査では40.0%と上昇傾向にあり、『男性優遇計』は低下傾向にある。

図表 10-④-3 昇進・昇格(時系列比較)

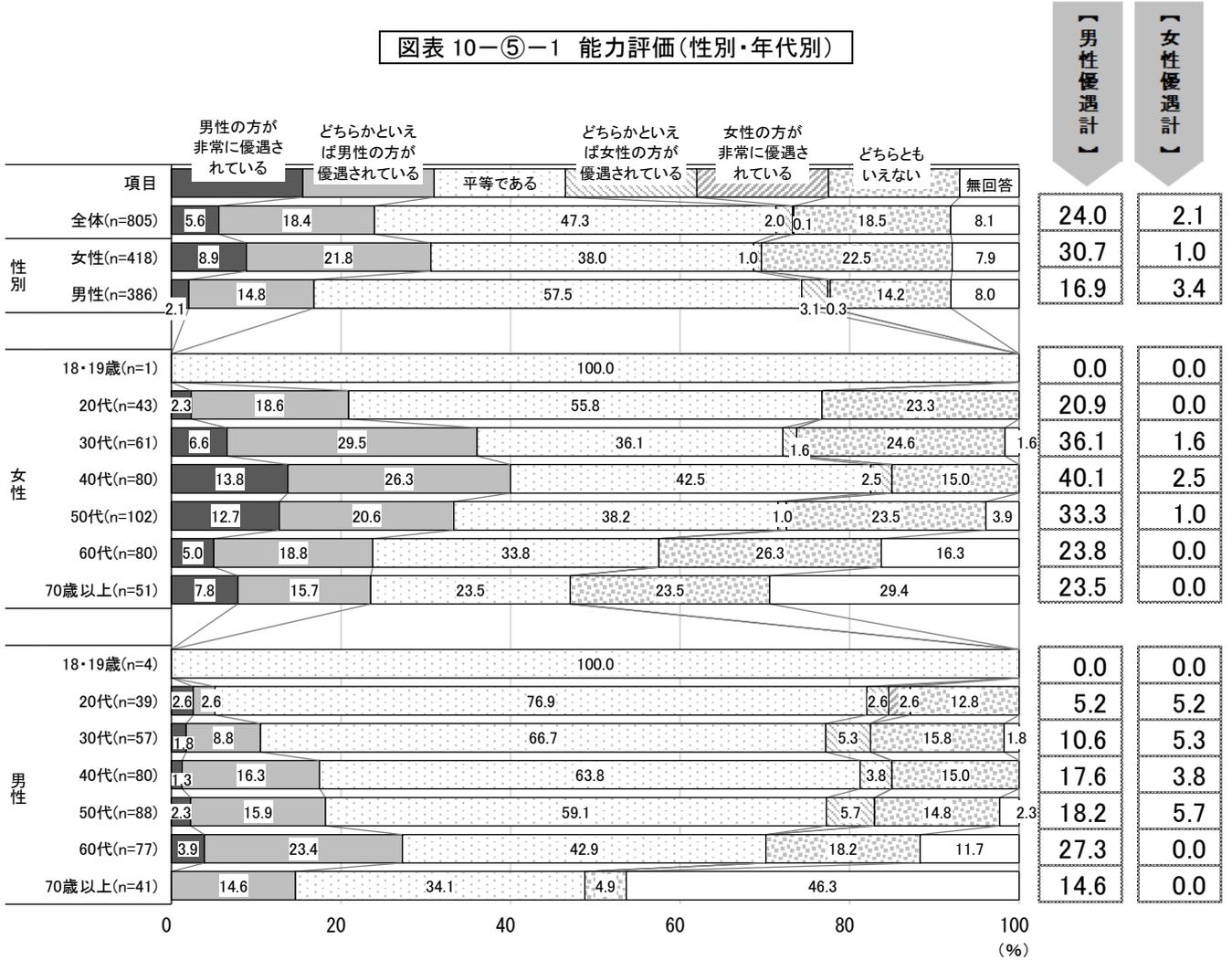


⑤ 能力評価

～平等と感じる人は5割弱、男性優遇感を持つ人は2割強

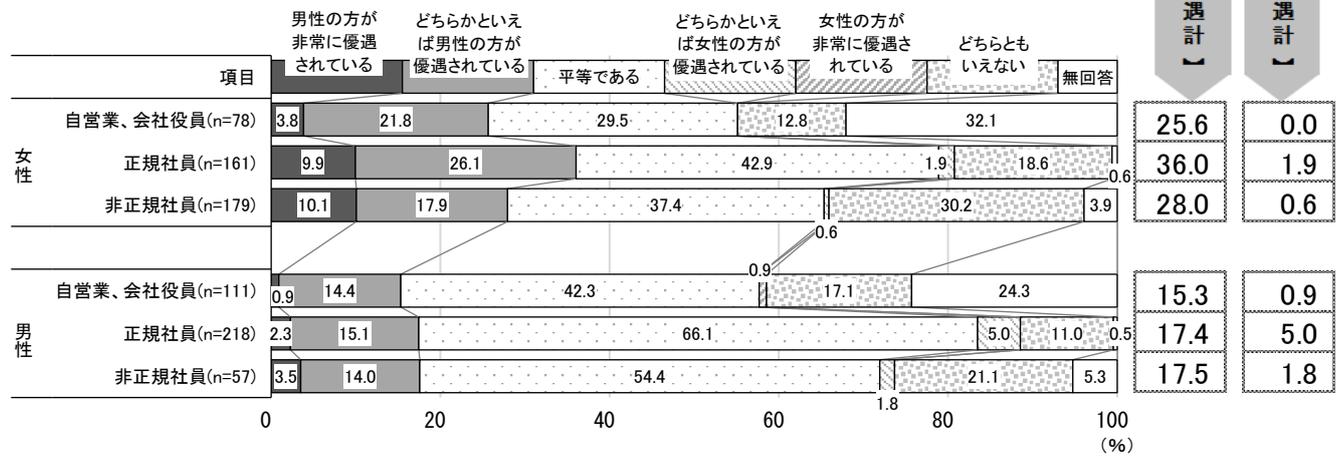
- 全体では、「平等である」は47.3%、『男性優遇計』は24.0%、『女性優遇計』は2.1%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は女性が38.0%、男性が57.5%となっており、男性の方が19.5ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、『男性優遇計』は20代から60代男性で、年齢が上がるにつれ高くなっている。

図表 10-⑤-1 能力評価(性別・年代別)



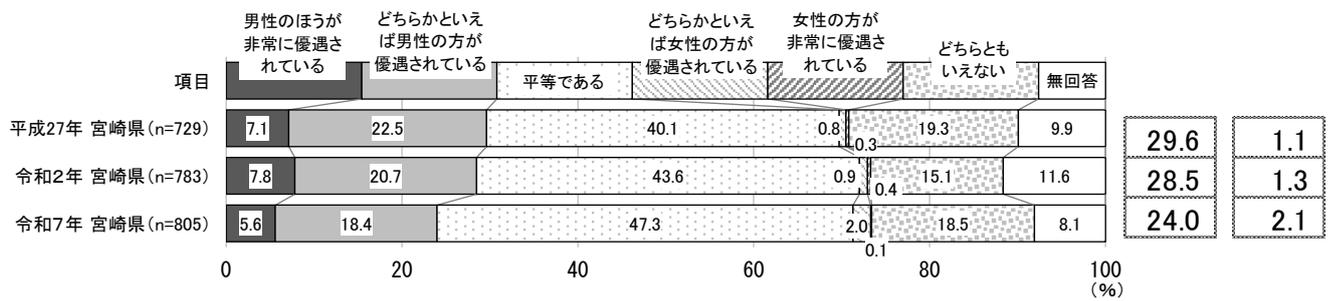
- 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は正規社員（女性 42.9%、男性 66.1%）の方が非正規社員（女性 37.4%、男性 54.4%）より男女とも高くなっている。

図表 10-⑤-2 能力評価(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、「平等である」は、平成 27 年調査では 40.1%、令和 2 年調査では 43.6%、今回調査では 47.3%と上昇傾向にあり、『男性優遇計』は低下傾向にある。

図表 10-⑤-3 能力評価(時系列比較)

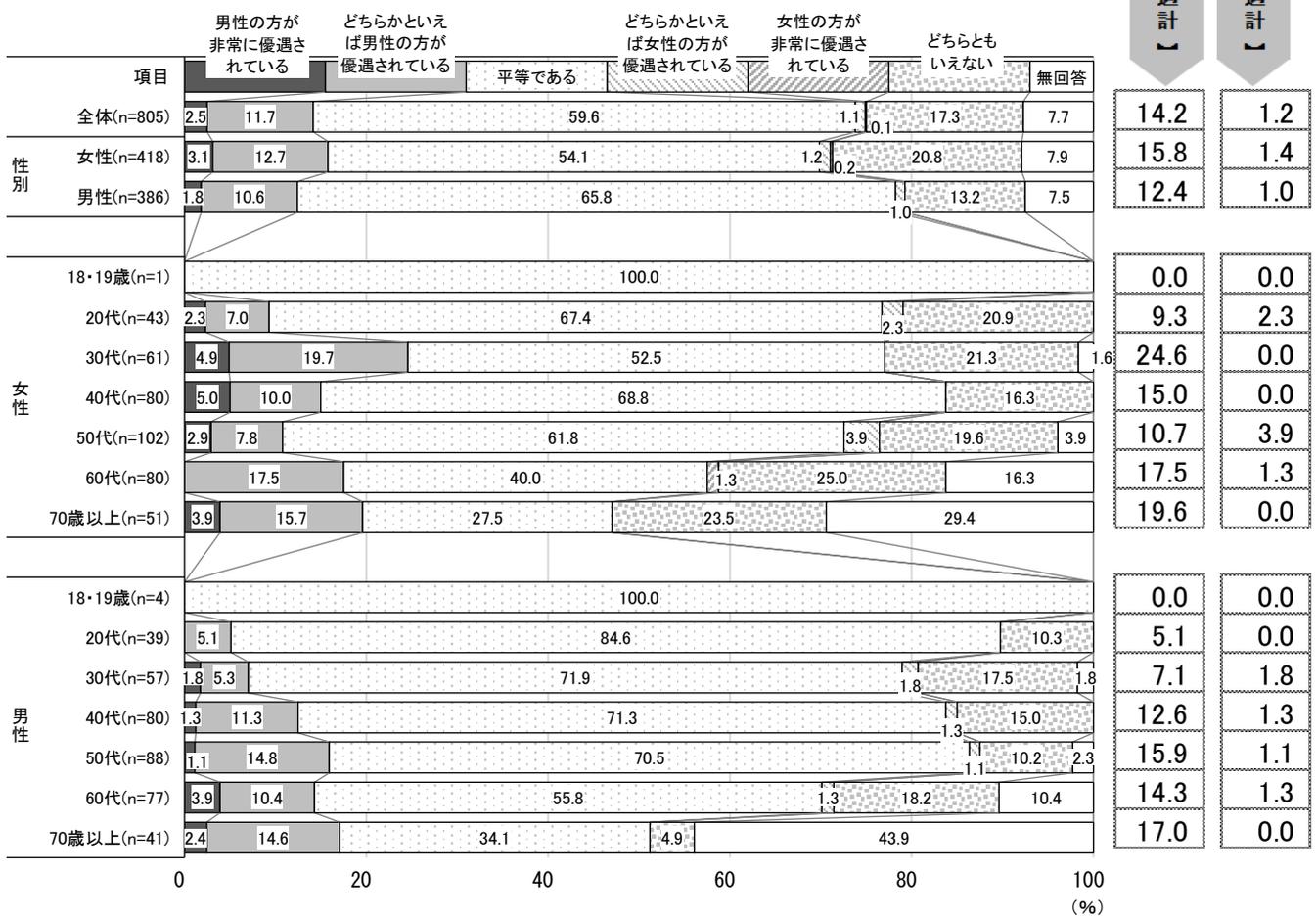


⑥ 研修の機会や内容

～平等と感じる人は6割弱

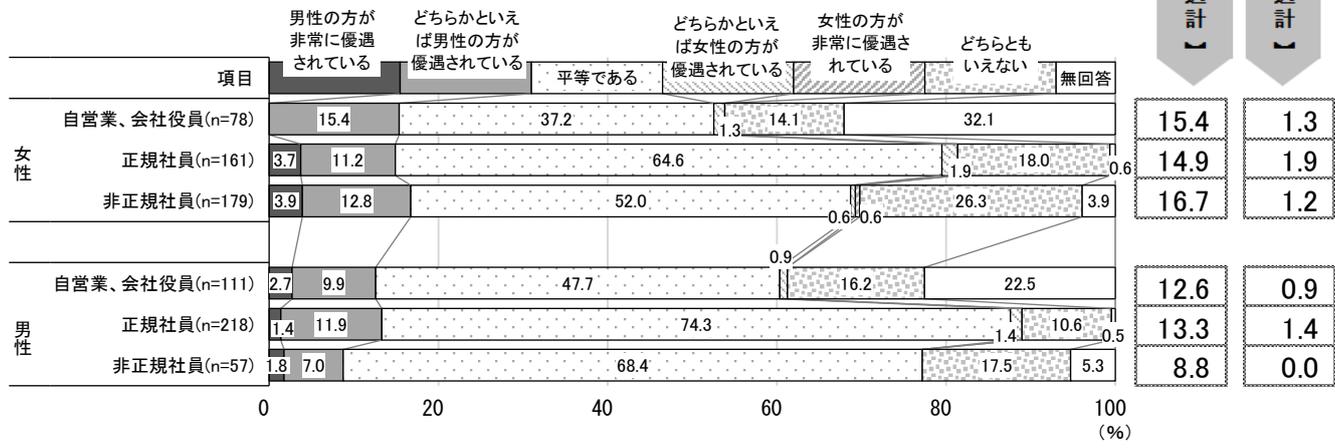
- 全体では、「平等である」は59.6%、『男性優遇計』は14.2%、『女性優遇計』は1.2%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は女性が54.1%、男性が65.8%となっており、男性の方が11.7ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、「平等である」は20代、40代から50代女性で60%を超えており、20代から50代男性では70%を超えている。

図表 10-⑥-1 研修の機会や内容(性別・年代別)



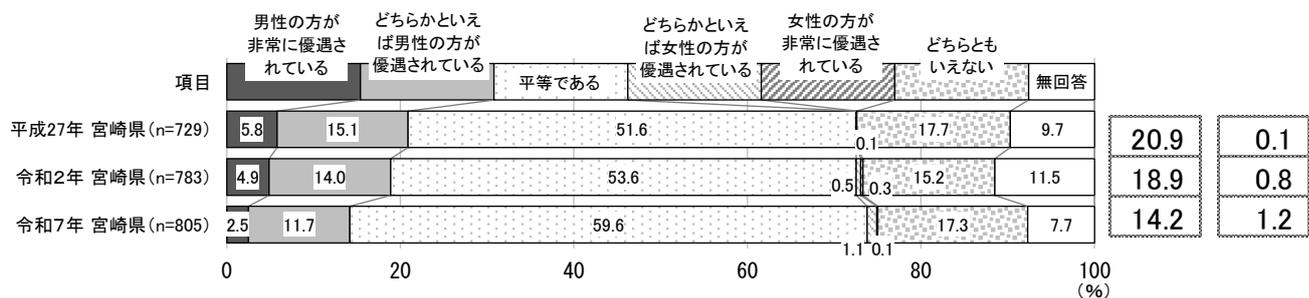
- 性別・就業状況別で見ると、「平等である」は正規社員（女性 64.6%、男性 74.3%）の方が非正規社員（女性 52.0%、男性 68.4%）より男女とも高くなっている。

図表 10-⑥-2 研修の機会や内容(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、「平等である」は、平成 27 年調査では 51.6%、令和 2 年調査では 53.6%、今回調査では 59.6%と上昇傾向にあり、『男性優遇計』は低下傾向にある。

図表 10-⑥-3 研修の機会や内容(時系列比較)

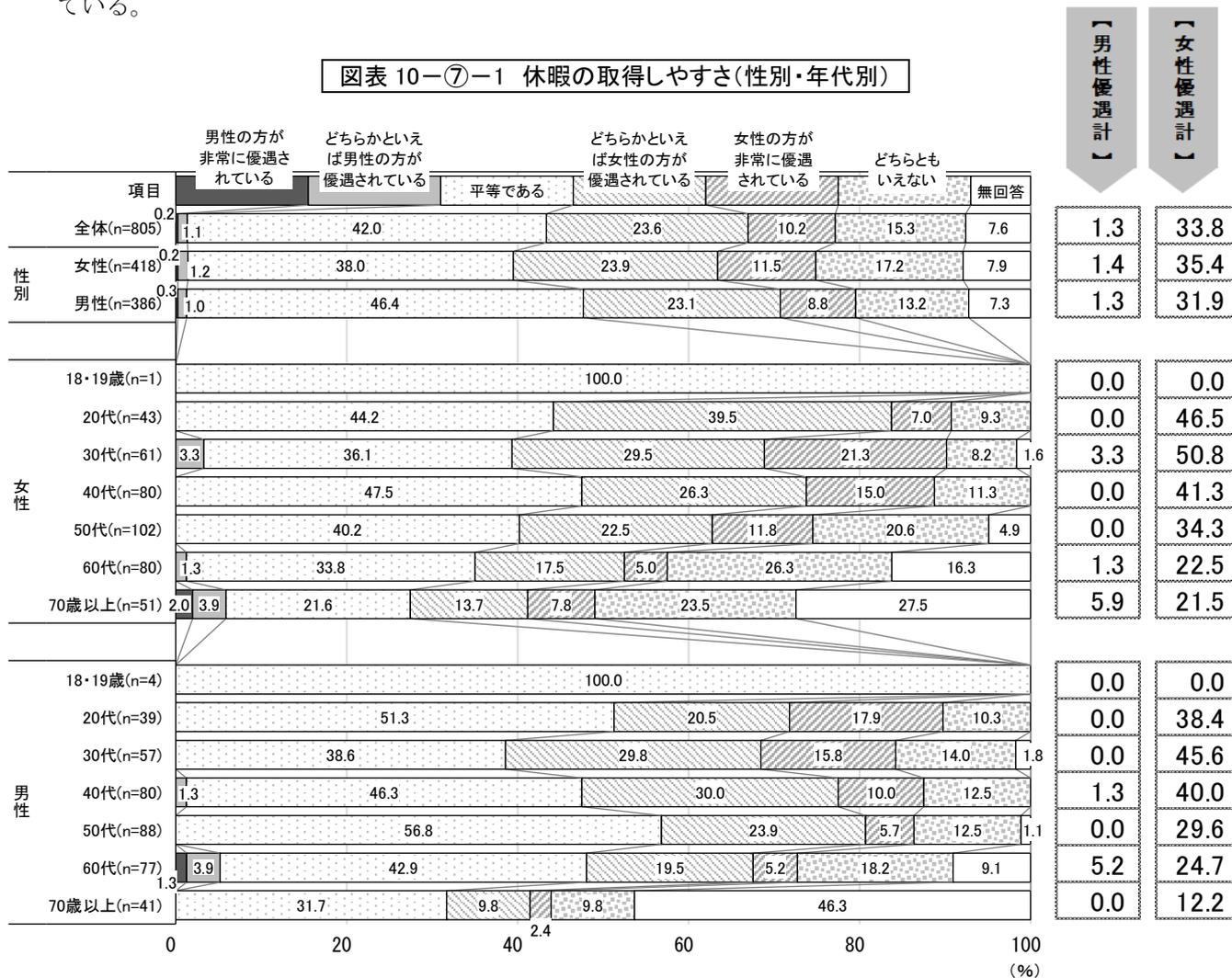


⑦ 育児・介護休暇など休暇の取得しやすさ

～平等と感じる人は4割強、女性優越感をもつ人は3割強

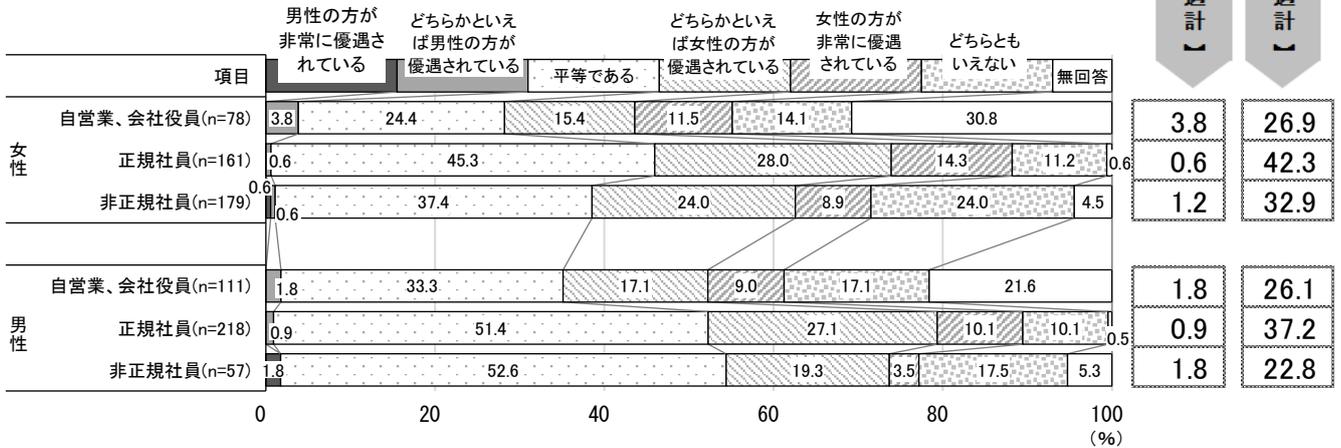
- 全体では、「平等である」は42.0%、『男性優遇計』は1.3%、『女性優遇計』は33.8%となっている。
- 性別で見ると、「平等である」は女性が38.0%、男性が46.4%となっており、男性の方が8.4ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、『女性優遇計』は、30代から70歳以上で男女ともに年齢が下がるにつれ高くなっている。

図表 10-⑦-1 休暇の取得しやすさ(性別・年代別)



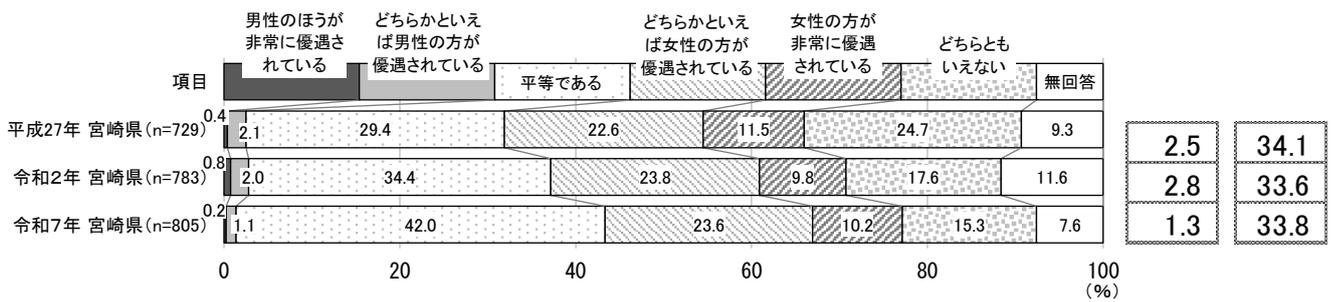
- 性別・就業状況別で見ると、『女性優遇計』は正規社員（女性 42.3%、男性 37.2%）の方が非正規社員（女性 32.9%、男性 22.8%）より男女とも高くなっている。

図表 10-⑦-2 休暇の取得しやすさ(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、「平等である」は、平成 27 年調査では 29.4%、令和 2 年調査では 34.4%、今回調査では 42.0%となっており、上昇傾向にある。

図表 10-⑦-3 休暇の取得しやすさ(時系列比較)



(11) 女性の就業についての意識

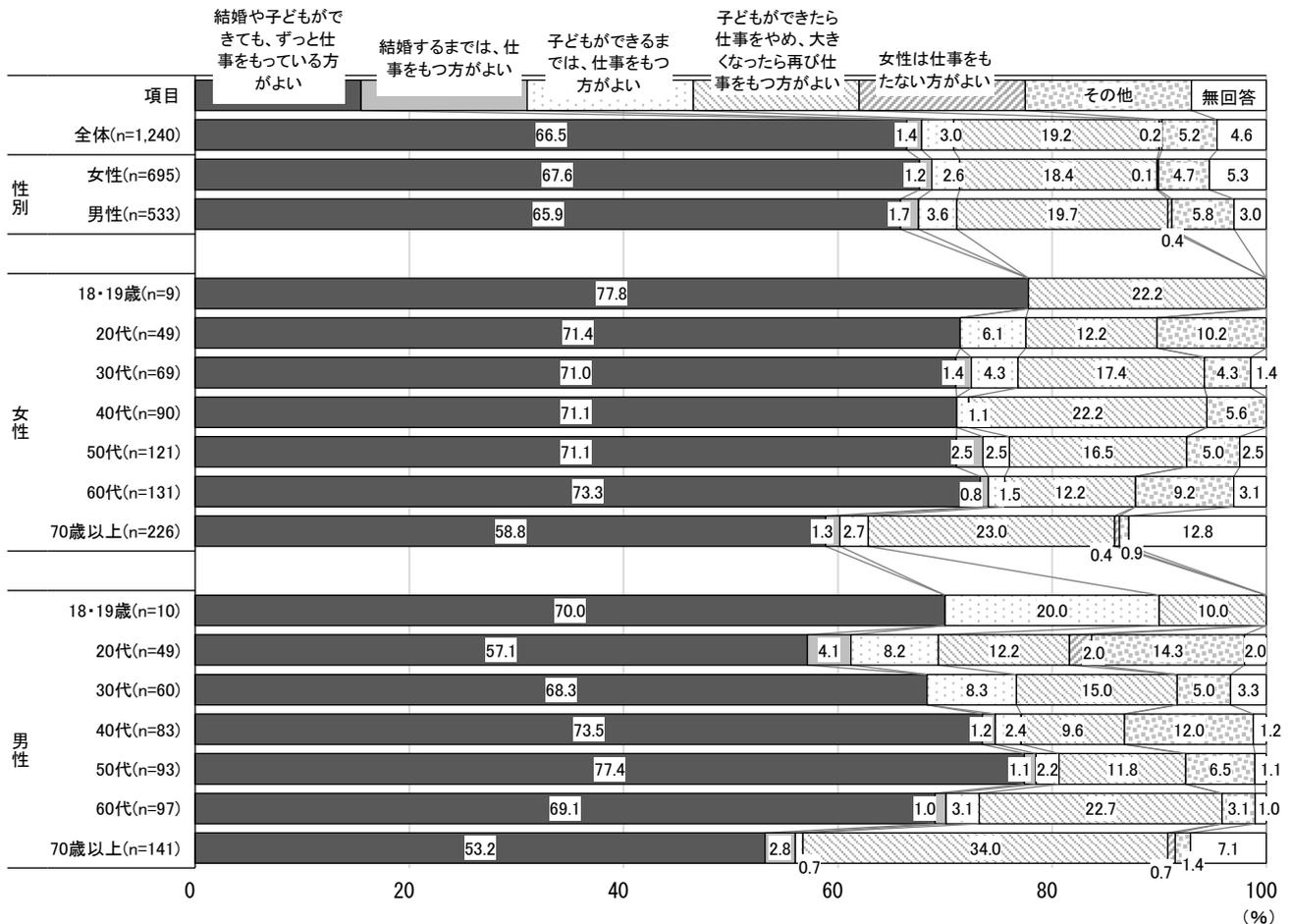
女性の就業について、あなたはどのような考えをお持ちですか。(〇は1つだけ)

女性の働き方についての意識は、

『就業継続型』が7割弱、『中断再就職型』が2割弱  
時系列でみると、『就業継続型』は上昇している

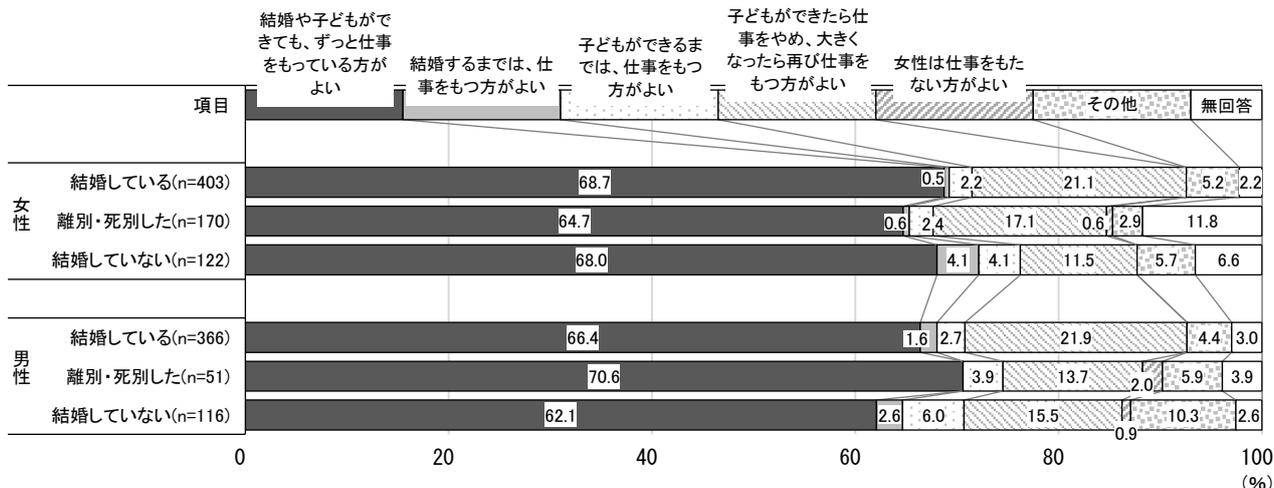
- 全体では、『就業継続型（結婚や子どもができて、ずっと仕事をもっている方がよい）』が66.5%と最も高く、次いで『中断再就職型（子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい）』が19.2%となっている。
- 性別でみると、女性では『就業継続型』が67.6%、『中断再就職型』が18.4%となっており、男性では『就業継続型』が65.9%、『中断再就職型』が19.7%となっている。
- 性別・年代別でみると、男女ともに全ての年代において『就業継続型』が50%を超えている。

図表 11-1 女性の就業についての意識(性別・年代別)



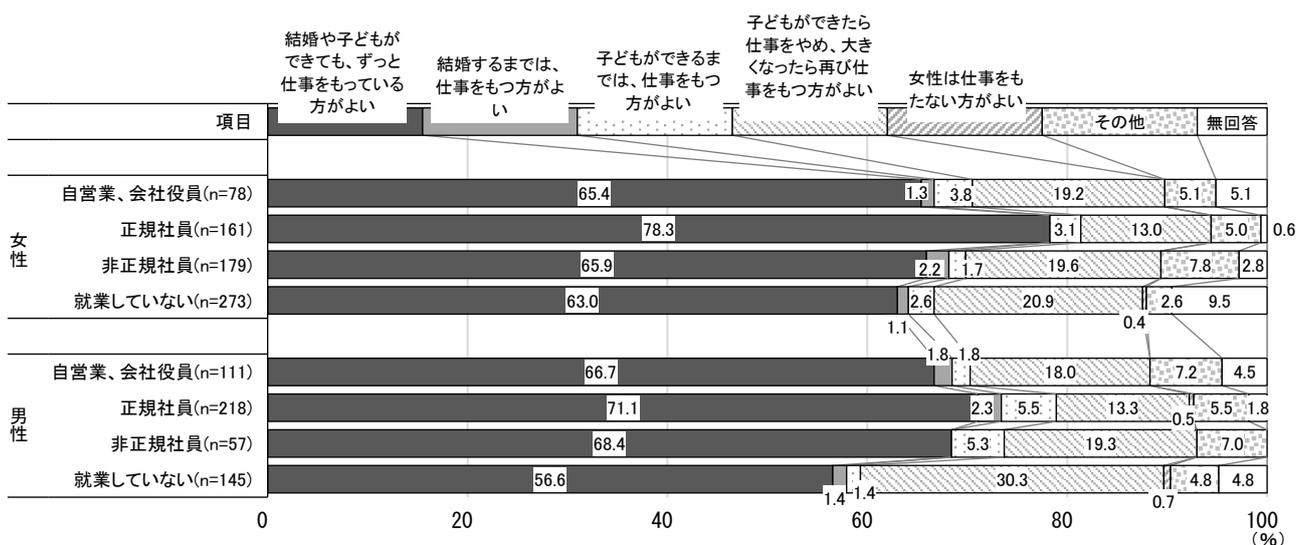
- 性別・婚姻状況別で見ると、『中断再就職型』は結婚している人（女性 21.1%、男性 21.9%）の方が結婚していない人（女性 11.5%、男性 15.5%）より男女とも高くなっている。

図表 11-2 女性の就業についての意識(性別・婚姻状況別)



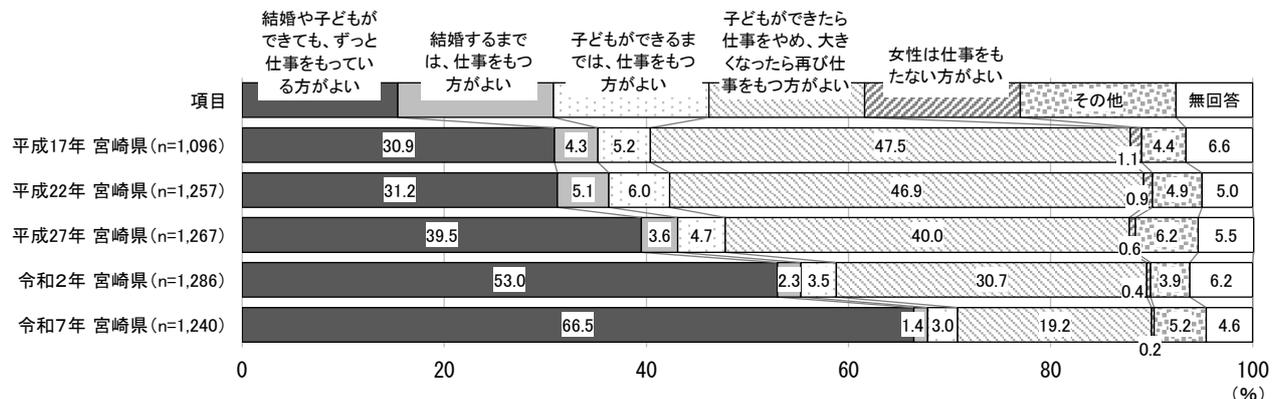
- 性別・就業状況別で見ると、『就業継続型』は正規社員（女性 78.3%、男性 71.1%）の方が非正規社員（女性 65.9%、男性 68.4%）より男女とも高くなっている。

図表 11-3 女性の就業についての意識(性別・就業状況別)



- 時系列で比較すると、『就業継続型』は平成 17 年調査では 30.9%であったが、22 年調査では 31.2%、27 年調査では 39.5%、令和 2 年調査では 53.0%と推移しており、今回調査では 66.5%となっている。

図表 11-4 女性の就業についての意識(時系列比較)



※選択肢「結婚や子どもができて、ずっと仕事をもっている方がよい」について、平成 27 年は「子どもができて、仕事を続ける方がよい」、平成 17-22 年は「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」という表現であるが、同一として集計した。

※選択肢の順については、平成 27 年調査以前とは異なっている。

(12) 女性の就業継続について

女性が結婚・出産後も職業を持ち、働き続けるためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

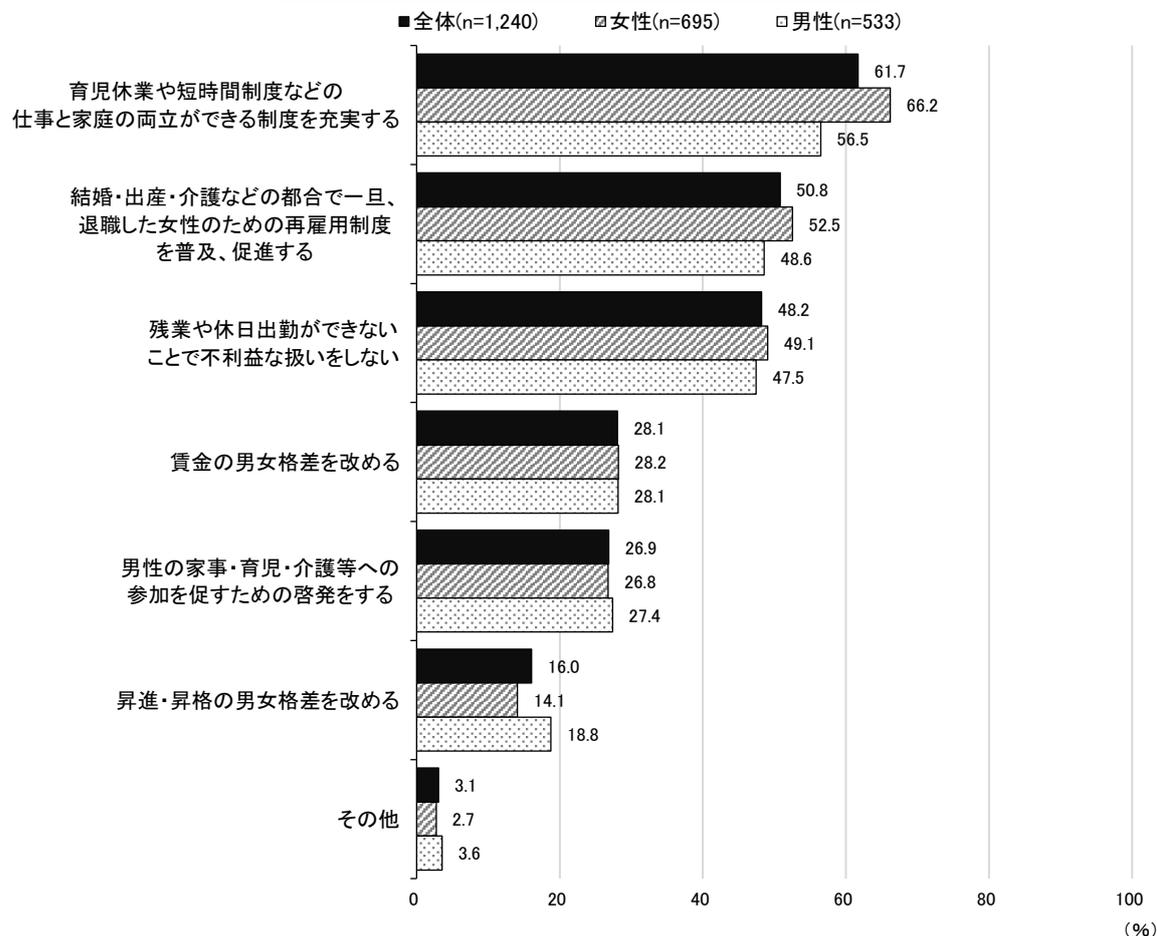
女性が結婚・出産後も職業を持ち、働き続けるために必要だと思うことは

「育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」が6割強

「結婚・出産・介護などの都合で一旦、退職した女性のための再雇用制度を普及、促進する」が5割

- 全体では、「育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」が 61.7%と最も高く、次いで「結婚・出産・介護などの都合で一旦、退職した女性のための再雇用制度を普及、促進する」が 50.8%、「残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしない」が 48.2%となっている。
- 性別で見ると、男女の割合差は、「育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」(女性 66.2%、男性 56.5%) で 9.7 ポイントと最も高く、次いで「昇進・昇格の男女格差を改める」(女性 14.1%、男性 18.8%) で 4.7 ポイントとなっている。

図表 12-1 女性の就業継続のために必要な措置



図表 12-2 女性の就業継続のために必要な措置

		賃金の男女格差を改める	昇進・昇格の男女格差を改める	残業や休日出勤ができないことで不利益な扱いをしない	が育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する	の男性の家事・育児・介護等への参加を促すための啓発をする	結婚・出産・介護などの都合で一旦、退職した女性のための再雇用制度を普及・促進する	その他
全体(n=1,240)		28.1	16.0	48.2	61.7	26.9	50.8	3.1
性別	女性(n=695)	28.2	14.1	49.1	66.2	26.8	52.5	2.7
	男性(n=533)	28.1	18.8	47.5	56.5	27.4	48.6	3.6
性別・年齢別	女性							
	18・19歳(n=9)	55.6	33.3	55.6	77.8	11.1	44.4	0.0
	20代(n=49)	32.7	20.4	55.1	67.3	32.7	46.9	0.0
	30代(n=69)	29.0	21.7	53.6	71.0	29.0	52.2	4.3
	40代(n=90)	34.4	17.8	55.6	66.7	23.3	42.2	7.8
	50代(n=121)	32.2	17.4	51.2	65.3	35.5	51.2	3.3
	60代(n=131)	26.0	10.7	54.2	78.6	27.5	54.2	2.3
	70歳以上(n=226)	22.6	8.4	39.4	57.1	21.7	58.0	0.9
	男性							
	18・19歳(n=10)	40.0	30.0	40.0	50.0	40.0	30.0	10.0
	20代(n=49)	24.5	24.5	63.3	59.2	40.8	40.8	4.1
	30代(n=60)	21.7	10.0	48.3	63.3	35.0	50.0	5.0
	40代(n=83)	27.7	21.7	45.8	53.0	31.3	49.4	8.4
	50代(n=93)	22.6	17.2	49.5	58.1	29.0	45.2	1.1
60代(n=97)	32.0	20.6	51.5	58.8	18.6	47.4	3.1	
70歳以上(n=141)	32.6	17.7	39.0	52.5	21.3	54.6	1.4	
性別・婚姻状況別	女性							
	結婚している(n=403)	27.3	14.6	53.6	69.5	27.8	52.9	3.0
	離別・死別した(n=170)	24.1	8.8	40.0	58.8	24.1	55.9	2.4
	結婚していない(n=122)	36.9	19.7	46.7	65.6	27.0	46.7	2.5
	男性							
	結婚している(n=366)	27.6	16.9	49.2	56.3	26.2	50.5	2.7
離別・死別した(n=51)	35.3	21.6	41.2	58.8	27.5	41.2	3.9	
結婚していない(n=116)	26.7	23.3	44.8	56.0	31.0	45.7	6.0	
性別・就業状況別	女性							
	就業している(n=418)	29.2	16.0	53.1	66.0	31.3	51.0	2.9
	就業していない(n=273)	27.1	11.0	42.9	66.7	19.4	54.9	2.6
	男性							
就業している(n=386)	26.7	18.7	49.7	57.3	27.2	46.4	4.1	
就業していない(n=145)	32.4	19.3	41.4	53.8	28.3	54.5	2.1	
前々回	平成27年(n=1,267)	18.3	11.5	52.2	63.5	24.5	61.0	2.9
前回	令和 2年(n=1,286)	25.8	14.4	50.6	62.5	21.5	58.4	1.5
今回	令和 7年(n=1,240)	28.1	16.0	48.2	61.7	26.9	50.8	3.1

## 4 人権への配慮について

### (13) 配偶者等からの暴力を受けた経験

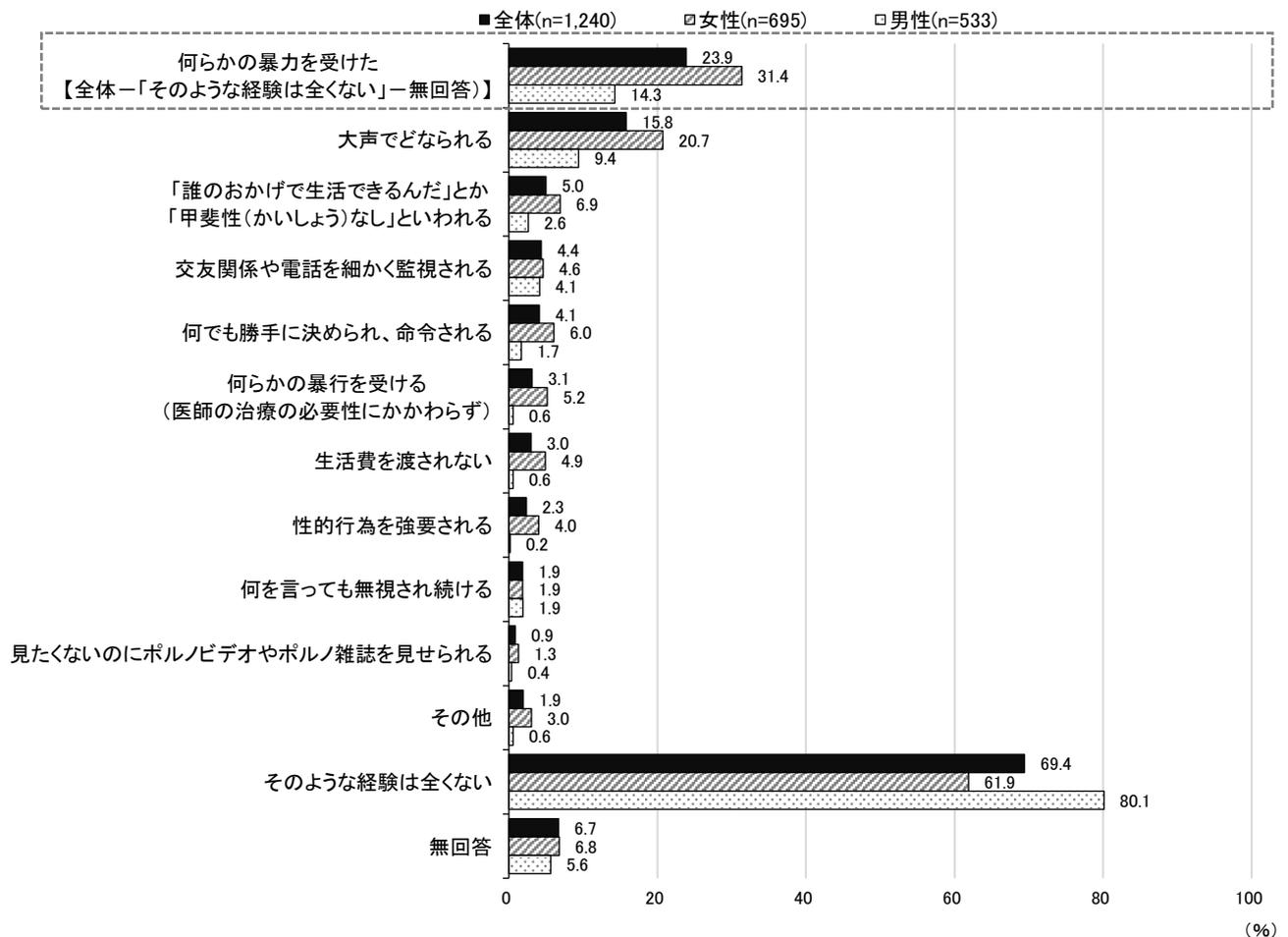
あなたは、あなたの夫や妻または恋人から、次のようなことをされたことがありますか。

(○はいくつでも)

**配偶者等から何らかの暴力を受けた経験のある人が、女性は3割強、男性は1割強**

- 全体では、『何らかの暴力を受けた（全体から「そのような経験は全くない（69.4%）と無回答（6.7%）を除いた割合）』は23.9%となっている。暴力を受けた行為は、「大声でどなられる」が15.8%と最も高く、次いで「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性なし」といわれる」が5.0%、「交友関係や電話を細かく監視される」が4.4%となっている。
- 性別で見ると、『何らかの暴力を受けた』は女性が31.4%、男性が14.3%となっており、女性の方が17.1ポイント高くなっている。また、「何を言っても無視され続ける」を除いた全てにおいて、男性より女性の方が高くなっている。

図表 13-1 配偶者からの暴力を受けた経験の有無



図表 13-2 配偶者からの暴力を受けた経験の有無

		大声でどなられる	「誰のおかげで生活できるんだ」とか「甲斐性（かいしょう）なし」といわれる	交友関係や電話を細かく監視される	十分な生活費を渡されない	何でも勝手に決められ、命令される	何を言っても無視され続ける	見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せられる	性的行為を強要される	（何らかの暴力を受ける（医師の治療の必要性にかかわらず）	その他	そのような経験は全くない	
全体(n=1,240)		15.8	5.0	4.4	3.0	4.1	1.9	0.9	2.3	3.1	1.9	69.4	
性別	女性(n=695)	20.7	6.9	4.6	4.9	6.0	1.9	1.3	4.0	5.2	3.0	61.9	
	男性(n=533)	9.4	2.6	4.1	0.6	1.7	1.9	0.4	0.2	0.6	0.6	80.1	
性別・年齢別	女性												
	18・19歳(n=9)	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	88.9	
	20代(n=49)	8.2	0.0	4.1	2.0	2.0	0.0	0.0	4.1	0.0	0.0	85.7	
	30代(n=69)	18.8	7.2	2.9	2.9	4.3	4.3	5.8	1.4	2.9	2.9	69.6	
	40代(n=90)	25.6	11.1	4.4	4.4	3.3	2.2	0.0	4.4	2.2	5.6	62.2	
	50代(n=121)	26.4	9.1	5.0	6.6	4.1	1.7	0.8	7.4	10.7	5.8	60.3	
	60代(n=131)	20.6	7.6	5.3	5.3	8.4	3.8	0.8	1.5	4.6	1.5	64.1	
	70歳以上(n=226)	19.9	5.3	4.4	5.3	8.0	0.4	0.9	4.0	5.8	2.2	52.7	
	男性												
	18・19歳(n=10)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	20代(n=49)	2.0	0.0	4.1	0.0	4.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	89.8	
	30代(n=60)	11.7	1.7	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	
	40代(n=83)	18.1	8.4	6.0	1.2	1.2	3.6	0.0	0.0	1.2	1.2	74.7	
	50代(n=93)	11.8	1.1	5.4	1.1	2.2	3.2	1.1	1.1	1.1	1.1	80.6	
60代(n=97)	6.2	1.0	4.1	1.0	2.1	2.1	0.0	0.0	1.0	1.0	82.5		
70歳以上(n=141)	7.1	2.8	2.8	0.0	1.4	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	75.2		
性別・婚姻状況別	女性												
	結婚している(n=403)	23.8	6.5	3.2	3.2	4.2	2.0	0.2	2.0	3.2	2.7	62.5	
	離別・死別した(n=170)	22.9	11.8	9.4	11.2	12.4	2.9	2.4	8.8	12.9	4.1	51.2	
	結婚していない(n=122)	7.4	1.6	2.5	1.6	3.3	0.0	3.3	4.1	0.8	2.5	74.6	
	男性												
	結婚している(n=366)	10.7	1.9	2.5	0.0	0.8	0.8	0.3	0.0	0.5	0.3	81.4	
離別・死別した(n=51)	9.8	7.8	9.8	2.0	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	2.0	60.8		
結婚していない(n=116)	5.2	2.6	6.9	1.7	2.6	3.4	0.9	0.9	0.9	0.9	84.5		
性別・就業状況別	女性												
	就業している(n=418)	22.7	7.4	5.5	4.8	5.5	2.4	1.7	4.5	5.7	3.6	62.0	
	就業していない(n=273)	17.6	5.9	3.3	5.1	7.0	1.1	0.7	3.3	4.4	2.2	61.9	
	男性												
就業している(n=386)	10.1	2.8	3.4	0.8	1.3	1.8	0.3	0.3	0.8	0.8	80.6		
就業していない(n=145)	7.6	2.1	6.2	0.0	2.8	2.1	0.7	0.0	0.0	0.0	78.6		
前々回	平成17年(n=1,096)	26.0	7.4	8.1	-	-	7.8	0.9	6.9	-	1.2	48.8	
	平成22年(n=1,257)	23.1	8.0	5.8	3.3	5.4	4.9	1.0	5.1	-	1.7	54.0	
	平成27年(n=1,267)	23.4	6.9	4.4	3.9	5.1	4.2	0.5	4.8	-	1.3	56.3	
	前回	令和 2年(n=1,286)	21.3	6.2	5.4	4.6	5.7	3.2	0.6	3.7	4.0	0.7	60.6
	今回	令和 7年(n=1,240)	15.8	5.0	4.4	3.0	4.1	1.9	0.9	2.3	3.1	1.9	69.4

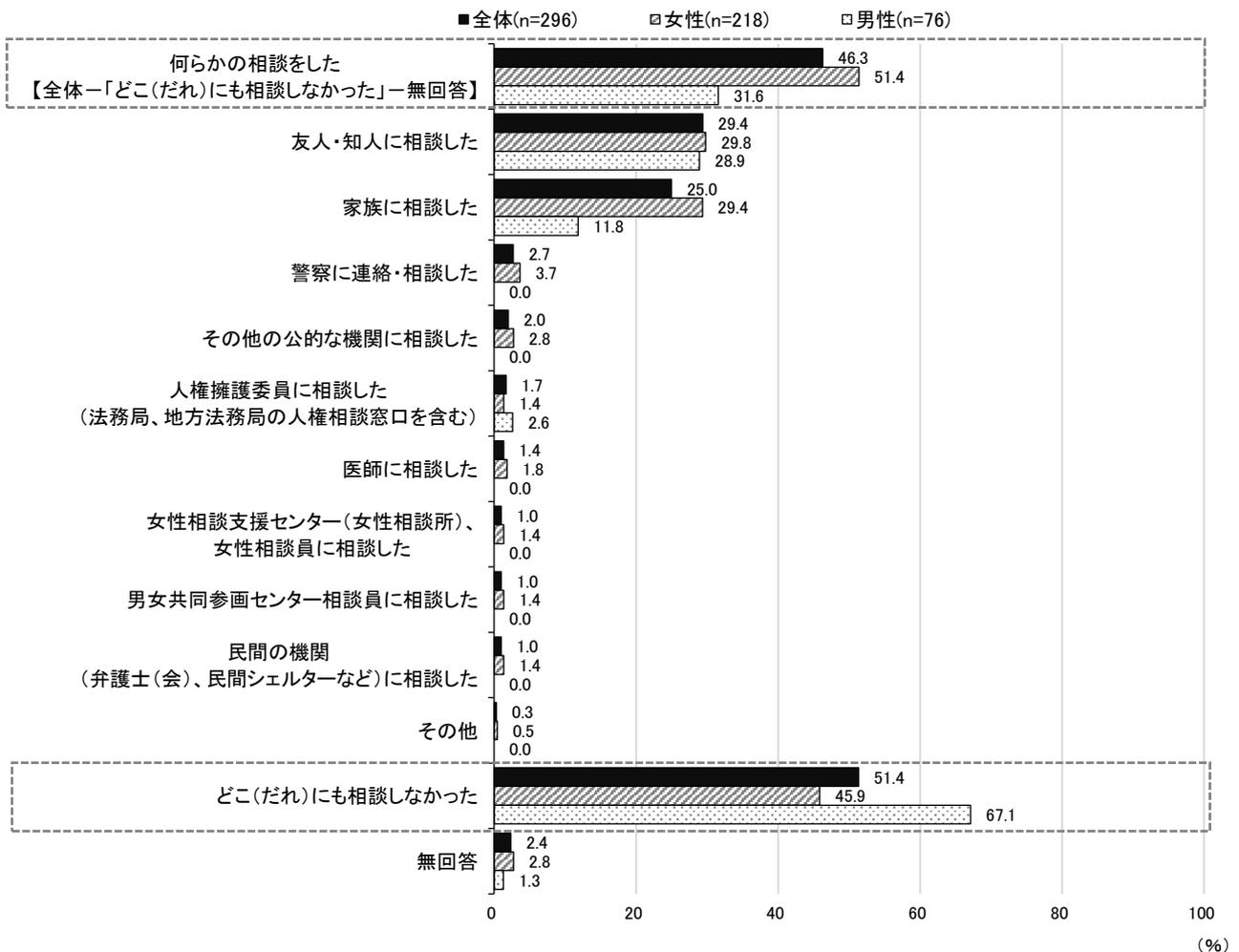
(14) 配偶者等からの暴力を受けた時の相談先

あなたは、問(13)であげたような夫や妻または恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇はいくつでも)

**配偶者等から暴力を受けた時、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が5割強**  
**相談しなかった人の割合は、女性よりも男性が高い**

- 全体では、『何らかの相談をした(全体から「どこ(だれ)にも相談しなかった」(51.4%)と「無回答(2.4%)を除いた割合』は46.3%、「どこ(だれ)にも相談しなかった」は51.4%となっている。相談先は、「友人・知人に相談した」が29.4%と最も高く、次いで「家族に相談した」が25.0%、「警察に連絡・相談した」が2.7%となっている。
- 性別で見ると、『何らかの相談をした』は女性が51.4%、男性が31.6%となっており、女性の方が19.8ポイント高くなっている。また、「どこ(だれ)にも相談しなかった」は女性が45.9%、男性が67.1%となっており、男性の方が21.2ポイント高くなっている。

図表 14-1 配偶者等からの暴力を受けた時の相談先



図表 14-2 配偶者等からの暴力を受けた時の相談先

		警察に連絡・相談した	人権擁護委員に相談した(法務局、地方方法務局の人権相談窓口を含む)	女性相談所、女性相談員に相談した	男女共同参画センター相談員に相談した	その他の公的な機関に相談した	民間の機関(弁護士会、民間シェルターなど)に相談した	医師に相談した	家族に相談した	友人・知人に相談した	どこ(だれ)にも相談しなかった	その他
全体(n=296)		2.7	1.7	1.0	1.0	2.0	1.0	1.4	25.0	29.4	51.4	0.3
性別	女性(n=218)	3.7	1.4	1.4	1.4	2.8	1.4	1.8	29.4	29.8	45.9	0.5
	男性(n=76)	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	28.9	67.1	0.0
性別・年齢別	女性											
	18・19歳(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	20代(n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	57.1	42.9	14.3	0.0
	30代(n=19)	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	31.6	31.6	52.6	0.0
	40代(n=32)	6.3	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	3.1	28.1	25.0	50.0	0.0
	50代(n=44)	4.5	0.0	2.3	0.0	2.3	0.0	2.3	29.5	40.9	38.6	2.3
	60代(n=42)	4.8	0.0	0.0	0.0	2.4	4.8	0.0	38.1	28.6	42.9	0.0
	70歳以上(n=73)	2.7	4.1	2.7	2.7	2.7	1.4	0.0	21.9	24.7	50.7	0.0
	男性											
	18・19歳(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0
	30代(n=8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	50.0	0.0
	40代(n=21)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	76.2	0.0
	50代(n=14)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	78.6	0.0
60代(n=12)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	25.0	75.0	0.0	
70歳以上(n=17)	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.5	29.4	58.8	0.0	
性別・婚姻状況別	女性											
	結婚している(n=130)	1.5	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	1.5	33.1	30.8	45.4	0.8
	離別・死別した(n=67)	9.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	0.0	25.4	26.9	46.3	0.0
	結婚していない(n=21)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	9.5	19.0	33.3	47.6	0.0
	男性											
	結婚している(n=49)	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.2	24.5	71.4	0.0
離別・死別した(n=14)	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	64.3	0.0	
結婚していない(n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	46.2	53.8	0.0	
性別・就業状況別	女性											
	就業している(n=138)	2.9	0.0	0.7	0.7	2.2	0.7	1.4	26.1	34.8	47.1	0.7
	就業していない(n=79)	5.1	3.8	2.5	2.5	3.8	2.5	2.5	34.2	21.5	44.3	0.0
	男性											
就業している(n=53)	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.4	24.5	71.7	0.0	
就業していない(n=23)	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.4	39.1	56.5	0.0	
前々回 前回 今回	平成17年(n=393)	2.5	0.5	1.0	1.3	0.3	1.3	1.3	18.6	24.9	52.7	3.3
	平成22年(n=399)	1.8	1.3	1.5	0.8	1.3	1.3	1.5	17.0	30.3	48.6	2.5
	平成27年(n=554)	2.2	0.2	1.4	0.2	0.5	1.1	1.3	15.2	21.7	34.3	2.5
	令和 2年(n=360)	3.3	0.8	0.6	1.1	1.1	0.8	1.7	23.6	26.1	53.1	1.9
	令和 7年(n=296)	2.7	1.7	1.0	1.0	2.0	1.0	1.4	25.0	29.4	51.4	0.3
内閣府調査 令和 5年(n=462)		3.0	0.2	-	1.9	1.5	1.9	4.3	29.9	34.8	44.2	1.5

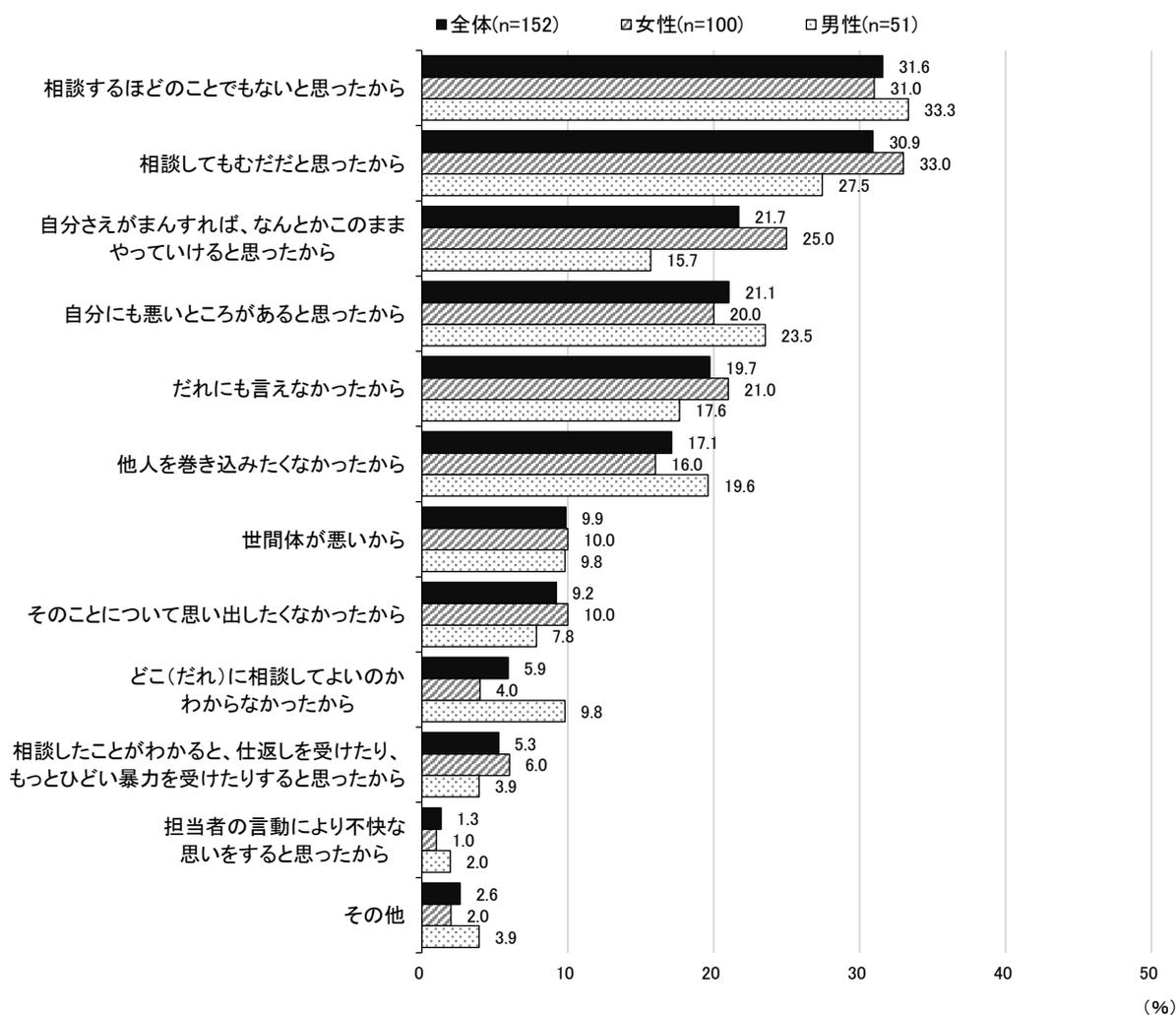
(15) 配偶者等から暴力を受け時に相談しなかった理由

どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)

配偶者等からの暴力を相談しなかった理由は、  
「相談するほどのことでもないと思ったから」が3割強

- 全体では、「相談するほどのことでもないと思ったから」が31.6%と最も高く、次いで「相談してもむだだと思ったから」30.9%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が21.7%となっています。
- 性別でみると、男女の割合差は「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(女性25.0%、男性15.7%)で女性の方が9.3ポイント高く、次いで「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから」(女性4.0%、男性9.8%)で男性の方が5.8ポイント高くなっている。

図表 15-1 配偶者等から暴力を受けた時に相談しなかった理由



図表 15-2 配偶者等から暴力を受けた時に相談しなかった理由

		たどこ から (だれ れ)に 相談 して よい の か わ か ら な か っ た か ら	だ れ に も い え な か っ た か ら	相 談 し て も む だ だ と 思 っ た か ら	も っ と と ひ ど い 暴 力 を 受 け た り す る と 思 っ た か ら	相 談 し た こ と が わ か る と 、 仕 返 し を 受 け た り 、 も っ と と ひ ど い 暴 力 を 受 け た り す る と 思 っ た か ら	担 当 者 の 言 動 に よ り 不 快 な 思 い を す る と 思 っ た か ら	自 分 さ え が ま ん ず れ ば 、 な ん と か こ の ま ま や っ て い け る と 思 っ た か ら	世 間 体 が 悪 い か ら	他 人 を 巻 き 込 み た く な か っ た か ら	そ の こ と に つ い て 思 い 出 し た く な か っ た か ら	自 分 に も 悪 い と こ ろ が あ る と 思 っ た か ら	相 談 す る ほ ど の こ と で も な い と 思 っ た か ら	そ の 他
全体(n=152)		5.9	19.7	30.9	5.3	1.3	21.7	9.9	17.1	9.2	21.1	31.6	2.6	
性別	女性(n=100)	4.0	21.0	33.0	6.0	1.0	25.0	10.0	16.0	10.0	20.0	31.0	2.0	
	男性(n=51)	9.8	17.6	27.5	3.9	2.0	15.7	9.8	19.6	7.8	23.5	33.3	3.9	
性別・年齢別	女性													
	18・19歳(n=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	20代(n=1)	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
	30代(n=10)	0.0	20.0	30.0	0.0	0.0	40.0	0.0	30.0	20.0	30.0	30.0	0.0	
	40代(n=16)	6.3	31.3	37.5	0.0	0.0	18.8	18.8	31.3	6.3	12.5	31.3	0.0	
	50代(n=17)	5.9	23.5	52.9	17.6	5.9	17.6	11.8	11.8	17.6	11.8	23.5	5.9	
	60代(n=18)	5.6	0.0	38.9	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	5.6	22.2	27.8	5.6	
	70歳以上(n=37)	2.7	21.6	18.9	5.4	0.0	35.1	13.5	10.8	5.4	21.6	37.8	0.0	
	男性													
	18・19歳(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
20代(n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0		
30代(n=4)	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	75.0	0.0		
40代(n=16)	12.5	6.3	43.8	6.3	6.3	25.0	6.3	31.3	12.5	37.5	25.0	0.0		
50代(n=11)	0.0	18.2	36.4	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	18.2	36.4	9.1		
60代(n=9)	33.3	33.3	22.2	11.1	0.0	33.3	11.1	33.3	11.1	11.1	22.2	11.1		
70歳以上(n=10)	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0	10.0	30.0	0.0		
性別・婚姻状況別	女性													
	結婚している(n=59)	5.1	16.9	42.4	3.4	1.7	20.3	10.2	15.3	8.5	18.6	37.3	1.7	
	離別・死別した(n=31)	3.2	25.8	22.6	9.7	0.0	38.7	12.9	19.4	12.9	22.6	16.1	3.2	
	結婚していない(n=10)	0.0	30.0	10.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	10.0	20.0	40.0	0.0	
	男性													
	結婚している(n=35)	5.7	8.6	20.0	2.9	0.0	11.4	8.6	17.1	5.7	31.4	42.9	2.9	
離別・死別した(n=9)	22.2	33.3	44.4	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	11.1	0.0	0.0	11.1		
結婚していない(n=7)	14.3	42.9	42.9	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0		
性別・就業状況別	女性													
	就業している(n=65)	4.6	18.5	43.1	6.2	1.5	21.5	7.7	18.5	10.8	15.4	30.8	3.1	
	就業していない(n=35)	2.9	25.7	14.3	5.7	0.0	31.4	14.3	11.4	8.6	28.6	31.4	0.0	
	男性													
就業している(n=38)	7.9	10.5	28.9	2.6	0.0	15.8	7.9	18.4	7.9	28.9	36.8	5.3		
就業していない(n=13)	15.4	38.5	23.1	7.7	7.7	15.4	15.4	23.1	7.7	7.7	23.1	0.0		
前々回	平成17年(n=207)	14.5	7.2	16.9	2.4	4.3	21.7	8.2	3.9	2.4	36.7	53.6	1.0	
	平成22年(n=199)	12.1	7.0	20.1	2.0	3.0	21.6	6.0	7.0	2.0	23.6	47.2	2.5	
	平成27年(n=190)	5.8	9.5	20.0	2.6	2.6	20.0	5.8	10.0	3.2	28.4	56.3	1.1	
	令和 2年(n=191)	5.8	20.9	24.1	4.7	0.5	20.9	7.9	7.3	4.7	26.7	42.4	2.6	
	今回	令和 7年(n=152)	5.9	19.7	30.9	5.3	1.3	21.7	9.9	17.1	9.2	21.1	31.6	2.6
内閣府調査 令和 5年(n=204)		5.4	16.2	19.6	1.5	2.9	28.9	5.4	9.8	6.4	28.9	52.5	6.4	

## 5 男女共同参画センターについて

### (16) 宮崎県男女共同参画センターの利用希望

県では、男女共同参画社会づくりの拠点として「宮崎県男女共同参画センター」を設置し、次のような事業を行っています。

所在地：宮崎市旭1丁目2番2号（県企業局庁舎2階）

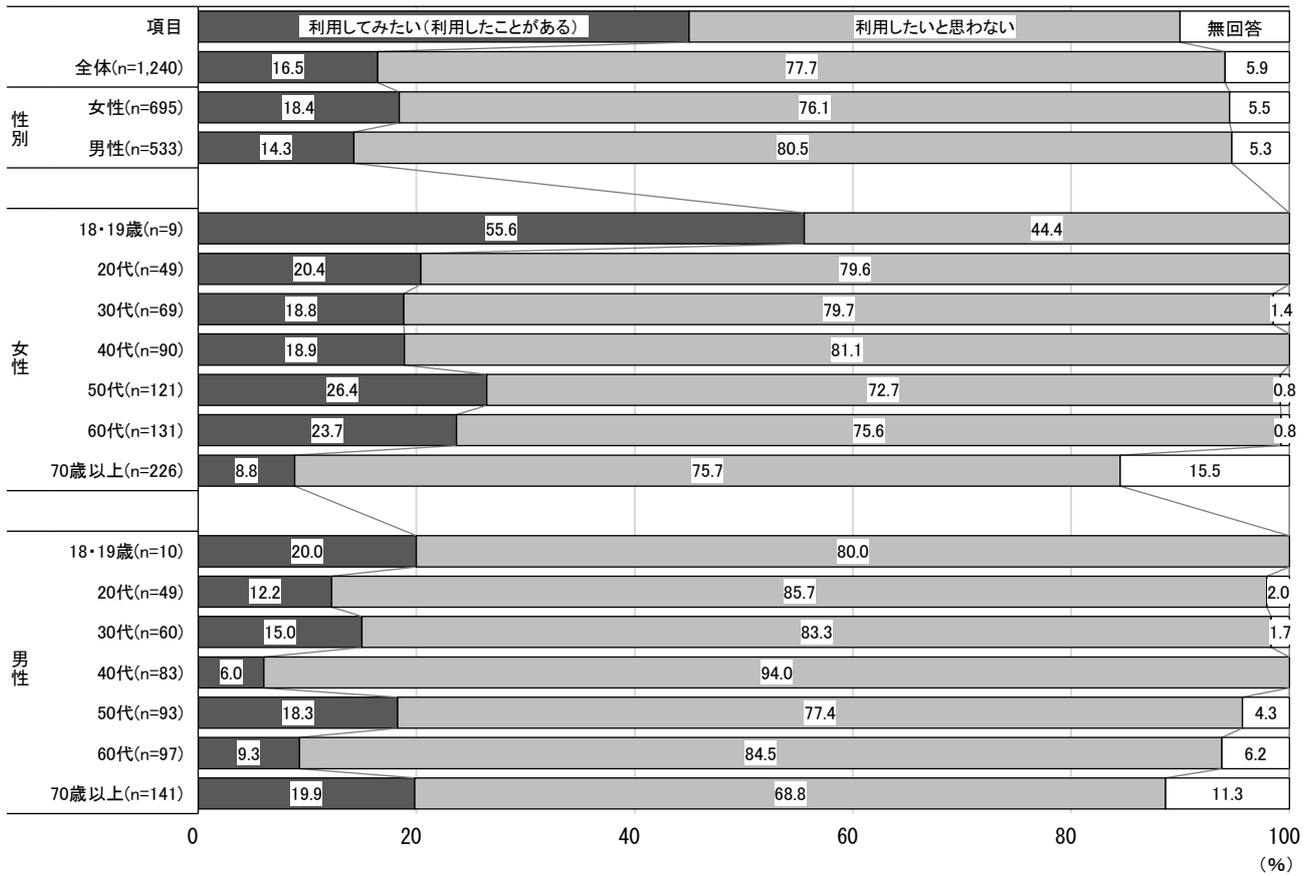
- ① 情報提供事業～図書・DVD・啓発資料などの閲覧、貸出
- ② 啓発事業～広報啓発誌などの発行、男女共同参画講座の開催
- ③ 相談事業～電話相談・面接相談
- ④ 交流事業～交流・学習活動の支援

あなたは、宮崎県男女共同参画センターを利用したいと思いますか。  
(○は1つだけ)

### 宮崎県男女共同参画センターについて、利用希望者・利用経験者は2割弱

- 全体では、「利用してみたい（利用したことがある）」は16.5%、「利用したいと思わない」は77.7%となっている。
- 性別で見ると、「利用してみたい（利用したことがある）」は女性が18.4%、男性が14.3%と女性の方が4.1ポイント高くなっている。
- 性別・年代別で見ると、「利用したいと思わない」は、20代から70歳以上女性、20代から60代男性で70%を超えている。

図表 16-1 男女共同参画センターの利用希望(性別・年代別)



(17) 利用してみたい男女共同参画センターの機能

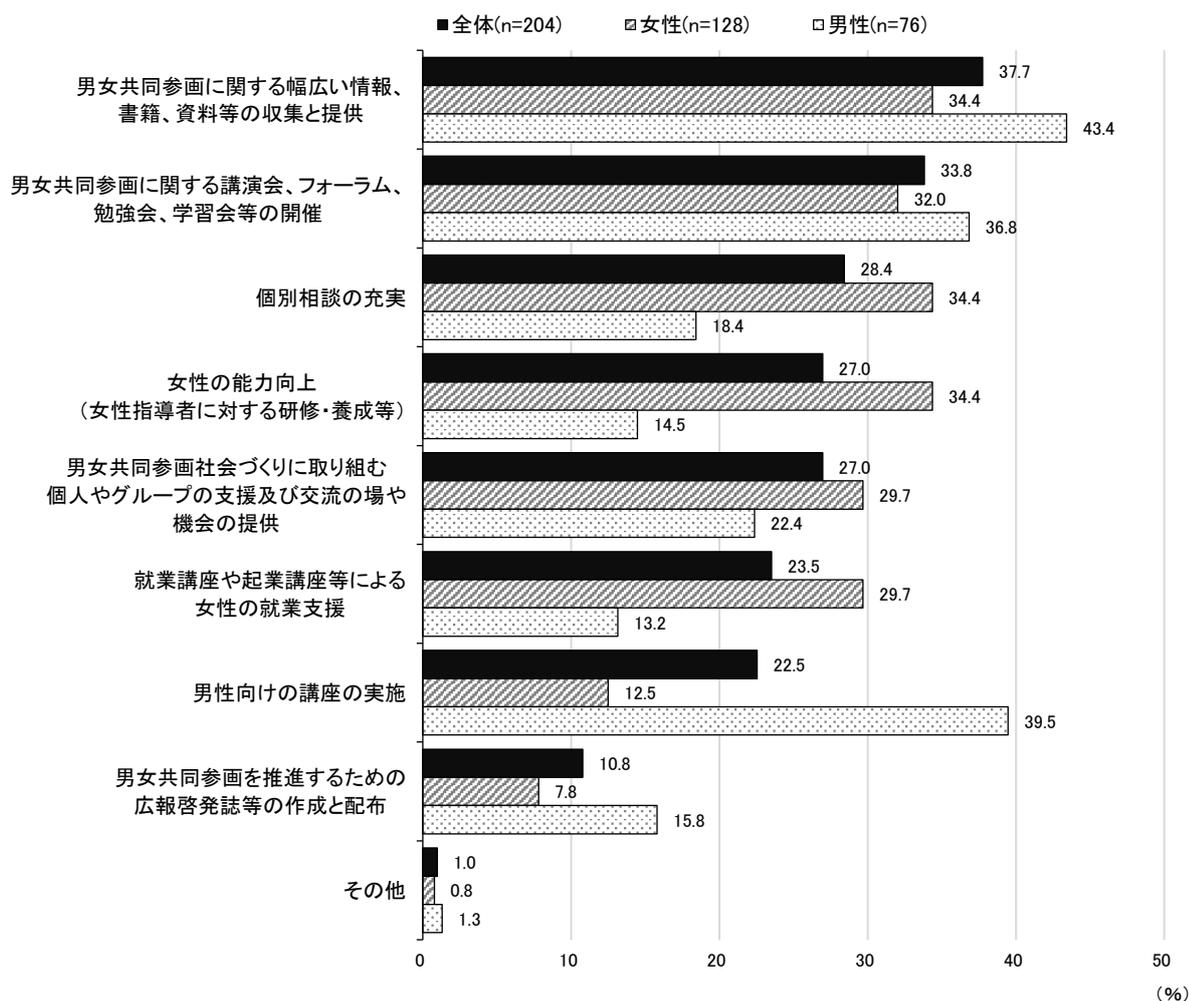
あなたが利用してみたい(利用したことがある) 男女共同参画センターの機能は何ですか。(〇はいくつでも)

利用してみたい男女共同参画センターの機能は、

「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集と提供」が4割弱

- 全体では、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集と提供」が37.7%と最も高く、次いで「男女共同参画に関する講演会、フォーラム、勉強会、学習会等の開催」が33.8%、「個別相談の充実」が28.4%となっている。
- 性別で見ると、女性では「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集と提供」、「個別相談の充実」、「女性の能力向上」が34.4%と最も高くなっている。男性では「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集と提供」が43.4%と最も高く、次いで「男性向けの講座の実施」が39.5%となっている。

図表 17-1 利用してみたい男女共同参画センターの機能



図表 17-2 利用してみたい男女共同参画センターの機能

		男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集と提供	男女共同参画を推進するための広報啓発誌等の作成と配布	男女共同参画に関する講演会、フォーラム、勉強会、学習会等の開催	(女性の能力向上 女性指導者に対する研修・養成等)	男性向けの講座の実施	就業講座や起業講座等による女性の就業支援	個別相談の充実	男女共同参画社会づくりに取り組む個人やグループの支援及び交流の場や機会の提供	その他
全体(n=204)		37.7	10.8	33.8	27.0	22.5	23.5	28.4	27.0	1.0
性別	女性(n=128)	34.4	7.8	32.0	34.4	12.5	29.7	34.4	29.7	0.8
	男性(n=76)	43.4	15.8	36.8	14.5	39.5	13.2	18.4	22.4	1.3
性別・年齢別	女性									
	18・19歳(n=5)	20.0	0.0	40.0	60.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	20代(n=10)	50.0	10.0	30.0	60.0	20.0	30.0	60.0	40.0	0.0
	30代(n=13)	38.5	0.0	0.0	46.2	7.7	46.2	30.8	15.4	7.7
	40代(n=17)	29.4	17.6	41.2	11.8	11.8	17.6	23.5	11.8	0.0
	50代(n=32)	40.6	9.4	43.8	37.5	12.5	50.0	37.5	21.9	0.0
	60代(n=31)	29.0	3.2	29.0	35.5	9.7	19.4	32.3	41.9	0.0
	70歳以上(n=20)	30.0	10.0	30.0	20.0	15.0	15.0	35.0	50.0	0.0
	男性									
	18・19歳(n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	20代(n=6)	50.0	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0
	30代(n=9)	44.4	11.1	33.3	22.2	55.6	11.1	22.2	44.4	0.0
	40代(n=5)	40.0	0.0	20.0	20.0	60.0	0.0	40.0	0.0	0.0
	50代(n=17)	29.4	0.0	23.5	17.6	29.4	5.9	17.6	5.9	0.0
60代(n=9)	44.4	33.3	55.6	0.0	55.6	0.0	33.3	33.3	0.0	
70歳以上(n=28)	50.0	25.0	46.4	17.9	32.1	21.4	14.3	25.0	3.6	
性別・婚姻状況別	女性									
	結婚している(n=80)	33.8	11.3	36.3	35.0	13.8	28.8	33.8	30.0	1.3
	離別・死別した(n=20)	15.0	5.0	25.0	20.0	10.0	30.0	40.0	25.0	0.0
	結婚していない(n=28)	50.0	0.0	25.0	42.9	10.7	32.1	32.1	32.1	0.0
	男性									
	結婚している(n=53)	35.8	17.0	43.4	18.9	43.4	15.1	11.3	20.8	0.0
離別・死別した(n=8)	62.5	25.0	25.0	0.0	37.5	0.0	50.0	12.5	12.5	
結婚していない(n=15)	60.0	6.7	20.0	6.7	26.7	13.3	26.7	33.3	0.0	
性別・就業状況別	女性									
	就業している(n=90)	35.6	8.9	34.4	31.1	11.1	33.3	32.2	22.2	1.1
	就業していない(n=37)	32.4	5.4	27.0	43.2	16.2	18.9	40.5	48.6	0.0
	男性									
就業している(n=50)	36.0	14.0	38.0	14.0	38.0	12.0	20.0	24.0	0.0	
就業していない(n=25)	60.0	20.0	36.0	12.0	40.0	16.0	16.0	20.0	4.0	

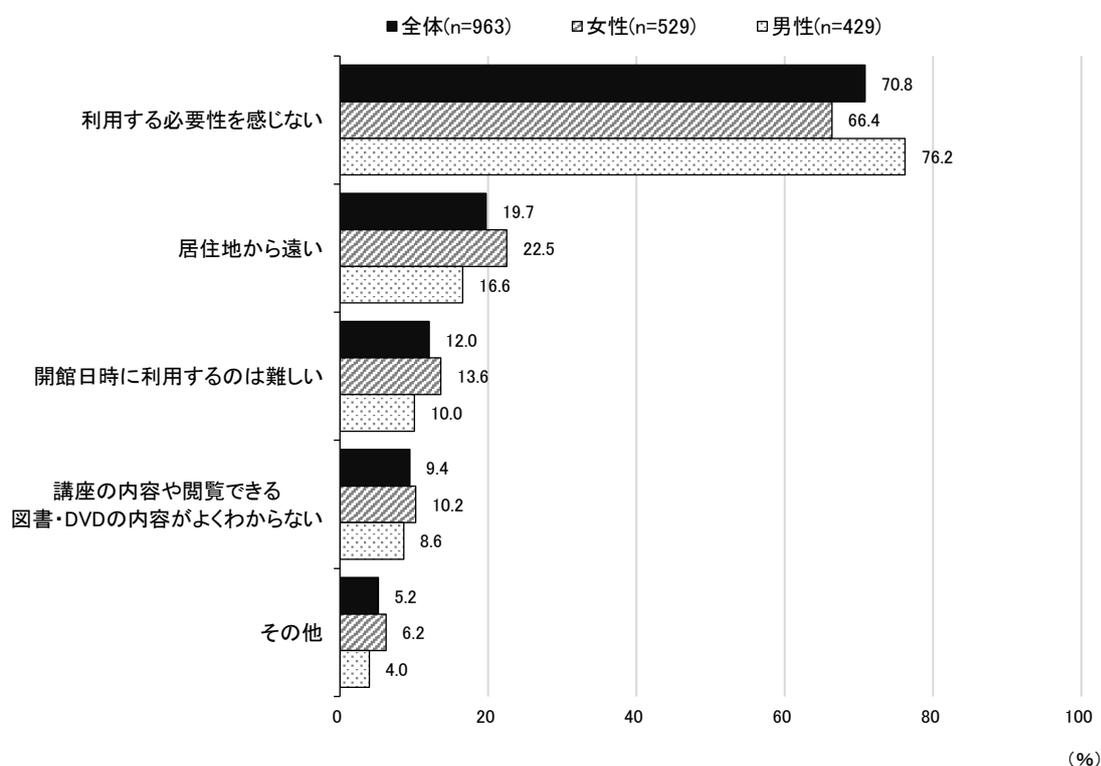
(18) 男女共同参画センターを利用したいと思わない理由

あなたが利用したいと思わないのは、なぜですか。（〇はいくつでも）

男女共同参画センターを利用したいと思わない理由は、「利用する必要性を感じない」が7割

- 全体では、「利用する必要性を感じない」が70.8%と最も高く、次いで「居住地から遠い」が19.7%、「開館日時に利用するのは難しい」が12.0%となっている。
- 性別で見ると、「利用する必要性を感じない」は、女性が66.4%、男性が76.2%となっており、男性の方が9.8ポイント高くなっている。

図表 18-1 男女共同参画センターを利用したいと思わない理由



図表 18-2 男女共同参画センターを利用したいと思わない理由

		利用する必要性を感じない	開館日時に利用するのは難しい	居住地から遠い	講座の内容や閲覧できる図書・DVDの内容がよくわからない	その他
全体(n=963)		70.8	12.0	19.7	9.4	5.2
性別	女性(n=529)	66.4	13.6	22.5	10.2	6.2
	男性(n=429)	76.2	10.0	16.6	8.6	4.0
性別・年齢別	女性					
	18・19歳(n=4)	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	20代(n=39)	66.7	12.8	12.8	12.8	10.3
	30代(n=55)	72.7	16.4	10.9	12.7	5.5
	40代(n=73)	64.4	19.2	24.7	5.5	2.7
	50代(n=88)	63.6	18.2	22.7	11.4	9.1
	60代(n=99)	71.7	11.1	25.3	15.2	5.1
	70歳以上(n=171)	63.2	9.9	26.3	7.6	5.8
	男性					
	18・19歳(n=8)	50.0	12.5	37.5	0.0	12.5
	20代(n=42)	83.3	9.5	11.9	4.8	9.5
	30代(n=50)	76.0	12.0	18.0	10.0	4.0
	40代(n=78)	75.6	14.1	14.1	3.8	1.3
	50代(n=72)	77.8	15.3	8.3	11.1	5.6
60代(n=82)	81.7	8.5	18.3	7.3	2.4	
70歳以上(n=97)	70.1	3.1	22.7	13.4	3.1	
性別・婚姻状況別	女性					
	結婚している(n=309)	67.3	13.6	23.3	11.0	4.5
	離別・死別した(n=131)	65.6	12.2	25.2	8.4	7.6
	結婚していない(n=89)	64.0	15.7	15.7	10.1	10.1
	男性					
	結婚している(n=294)	77.6	8.2	16.3	8.2	2.4
離別・死別した(n=37)	75.7	10.8	18.9	10.8	10.8	
結婚していない(n=98)	72.4	15.3	16.3	9.2	6.1	
性別・就業状況別	女性					
	就業している(n=317)	66.9	17.4	22.7	9.5	5.7
	就業していない(n=211)	65.4	8.1	22.3	11.4	7.1
	男性					
就業している(n=318)	77.0	12.9	14.8	6.9	4.4	
就業していない(n=110)	73.6	1.8	21.8	13.6	2.7	

## 6 男女共同参画施策について

### (19) 県が推進すべき男女共同参画施策について

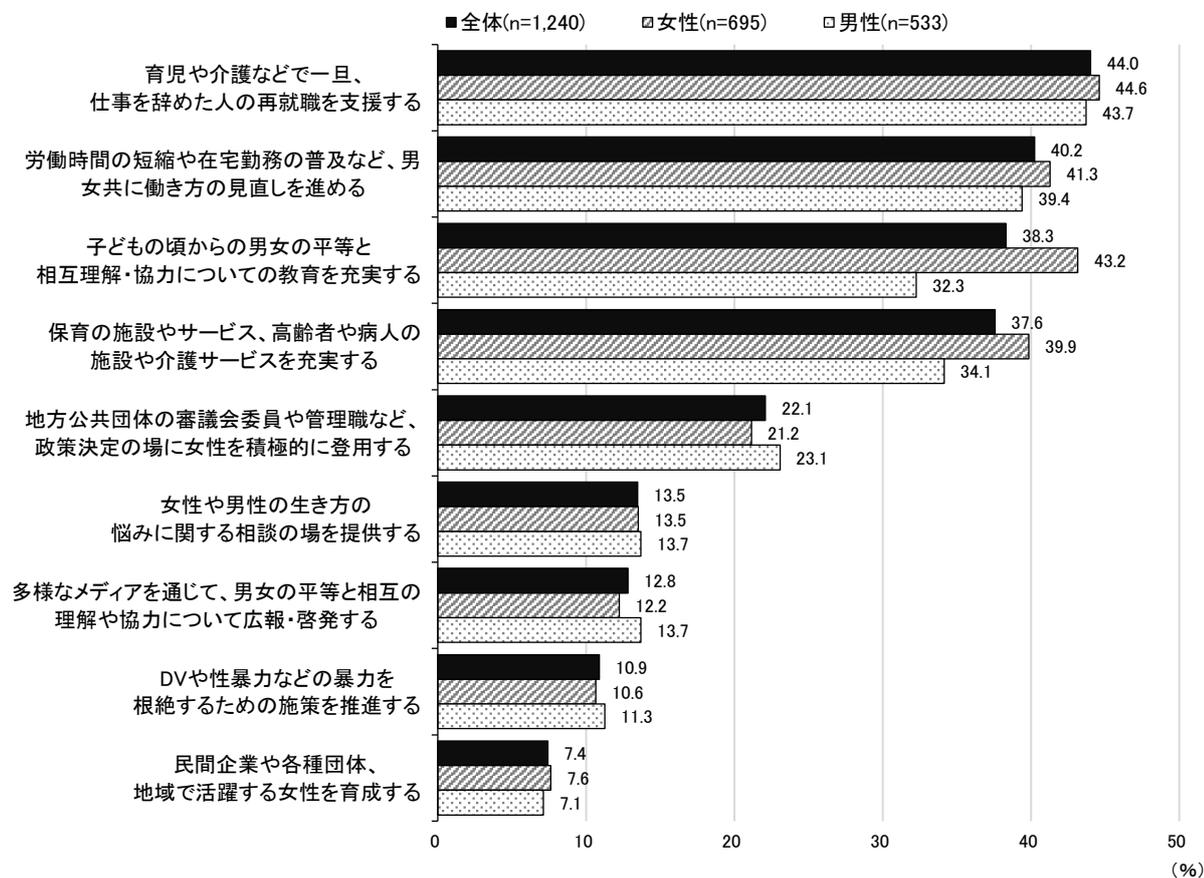
「男女共同参画社会」を形成していくために、今後、県は特にどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（〇は3つまで）

全ての選択肢において回答のない方を除いて割合を比較している。

**県が推進すべき男女共同参画施策としては、  
「育児や介護などで一旦、仕事を辞めた人の再就職を支援する」が4割強**

- 全体では、「育児や介護などで一旦、仕事を辞めた人の再就職を支援する」が44.0%と最も高く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める」が40.2%、「子どもの頃からの男女の平等と相互理解・協力についての教育を充実する」が38.3%となっている。
- 性別で見ると、男女の割合差は、「子どもの頃からの男女の平等と相互理解・協力についての教育を充実する」（女性43.2%、男性32.3%）で10.9ポイントが最も高く、次いで「保育の施設やサービス、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」（女性39.9%、男性34.1%）で5.8ポイントとなっている。

図表 19-1 県が推進すべき男女共同参画施策



図表 19-2 県が推進すべき男女共同参画施策

		地方公共団体の場 に女性の参画を 促進する	労働時間の短縮 や在宅勤務の普 及など、男女共 に働き方の見直 しを進める	育児や介護など で一旦、仕事を 辞めた人の再就 職を支援する	民間企業や各種 団体、地域で活 躍する女性を育 成する	多様なメディア を通じて、男女 の平等と相互理 解や協力につい て広報・啓発す る	子どもの頃から の男女の平等と 相互理解・協力 を推進する	DVや性暴力な どの暴力を根絶 するための施策 を推進する	保育の施設やサ ービスを充実す る	女性の生活方の 悩みに関する相 談の場を提供 する
全体(n=1,240)		22.1	40.2	44.0	7.4	12.8	38.3	10.9	37.6	13.5
性別	女性(n=695)	21.2	41.3	44.6	7.6	12.2	43.2	10.6	39.9	13.5
	男性(n=533)	23.1	39.4	43.7	7.1	13.7	32.3	11.3	34.1	13.7
性別・ 年齢別	女性									
	18・19歳(n=9)	44.4	77.8	66.7	11.1	22.2	22.2	22.2	33.3	0.0
	20代(n=49)	18.4	65.3	42.9	2.0	8.2	49.0	22.4	28.6	22.4
	30代(n=69)	26.1	63.8	43.5	8.7	14.5	42.0	13.0	24.6	14.5
	40代(n=90)	20.0	50.0	41.1	7.8	7.8	53.3	13.3	30.0	12.2
	50代(n=121)	15.7	51.2	38.8	5.0	11.6	43.0	13.2	46.3	17.4
	60代(n=131)	22.9	35.1	50.4	6.1	16.8	53.4	5.3	42.7	9.2
	70歳以上(n=226)	21.7	22.6	45.6	10.6	11.5	33.2	7.5	46.0	12.8
	男性									
	18・19歳(n=10)	0.0	70.0	30.0	0.0	0.0	50.0	20.0	20.0	10.0
	20代(n=49)	18.4	57.1	44.9	2.0	14.3	24.5	12.2	16.3	16.3
	30代(n=60)	16.7	56.7	53.3	6.7	13.3	40.0	18.3	33.3	15.0
	40代(n=83)	14.5	42.2	43.4	7.2	14.5	28.9	15.7	28.9	15.7
	50代(n=93)	20.4	43.0	37.6	9.7	9.7	30.1	14.0	34.4	14.0
60代(n=97)	24.7	23.7	49.5	5.2	11.3	29.9	10.3	39.2	9.3	
70歳以上(n=141)	34.8	30.5	40.4	9.2	18.4	35.5	3.5	41.1	14.2	
性別・ 婚姻 状況別	女性									
	結婚している(n=403)	21.6	42.4	43.7	6.9	11.9	44.9	9.4	40.7	13.2
	離別・死別した(n=170)	18.8	31.2	44.7	8.2	12.4	40.6	9.4	42.9	11.8
	結婚していない(n=122)	23.0	51.6	47.5	9.0	13.1	41.0	16.4	32.8	17.2
	男性									
	結婚している(n=366)	26.0	37.2	43.7	8.5	14.2	32.8	9.0	37.7	9.8
離別・死別した(n=51)	19.6	35.3	29.4	7.8	13.7	23.5	9.8	37.3	27.5	
結婚していない(n=116)	15.5	48.3	50.0	2.6	12.1	34.5	19.0	21.6	19.8	
性別・ 就業 状況別	女性									
	就業している(n=418)	20.3	49.0	43.8	6.0	11.2	45.5	12.0	36.8	15.6
	就業していない(n=273)	22.3	29.7	45.8	10.3	13.2	39.6	8.8	44.7	10.6
	男性									
就業している(n=386)	20.2	42.2	45.1	8.0	13.5	29.5	13.0	30.6	14.2	
就業していない(n=145)	31.0	31.7	40.7	4.8	14.5	40.0	6.9	42.8	11.7	